EPSON

Endeavor

NJ5100Pro

ユーザーズマニュアル

ご使用の前に

1 設置・準備

2 基本操作

3 装置の増設

4 BIOS設定

5 再インストール

6 困ったときに

付録

Windows XP

ご使用の前に

● ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
●「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警 告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注 意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

⚠ 警告

	交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。
	電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。
	電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
	破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート･サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
	本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。

⚠ 警告

	水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
	本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。 けが・感電・火災の原因となります。
	メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。 感電や火傷の原因となります。
	バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。 発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
	本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱したりしないでください。 破裂などで火傷の原因となります。
	バッテリパックの端子をショートさせないでください。 火傷の原因となります。
	付属のACアダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。 また､本機には、指定以外のACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解・改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
	小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。 なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。
	バッテリパックには、落下など、強い衝撃を与えないでください。 破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
	航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか、Bluetooth機能および無線LAN機能の電波を停止してください。 電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。 また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

	警告
	医療機関の屋内でBluetooth機能および無線LAN機能を使用するときは、次のことを守ってください。 ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。 ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。 ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
	植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能および無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。 電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。 満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
	Bluetooth機能および無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。 電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

⚠ 注 意

小さなお子様の手の届くところに設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

本機の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。
・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
・じゅうたんや布団の上には設置しない。
・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。
・構内交換機（PBX）
・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

パームレストやキーボードに長時間手を置かないでください。
パームレストやキーボードが熱くなることがあり、低温火傷のおそれがあります。

ひざの上で長時間使用しないでください。
本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

付属のACアダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

⚠ 注 意

ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。
火傷・火災の危険があります。

ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。
低温火傷の原因となります。

メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。
火傷の危険があります。
作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。

液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。
火傷や化学物質による被害の原因となります。
万一、液体が皮膚に付着したり、目に入ったリした場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。
内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

長時間または不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。

本機を移動する場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。

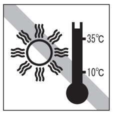
連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。

本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。
液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。

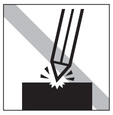
製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。
次の注意事項は、特に指定のない限り、本体およびACアダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



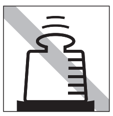
本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



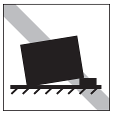
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



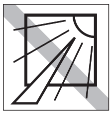
本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機に装着したままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。



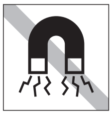
本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。



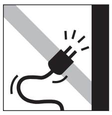
不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。



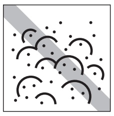
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



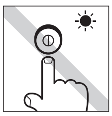
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損したりすることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



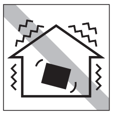
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



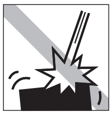
ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



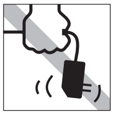
アクセスランプ点灯中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



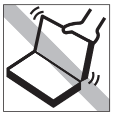
本機を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。



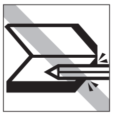
ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。



ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。



本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。



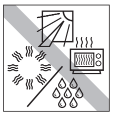
キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

▶記録メディア

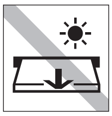
次のような取り扱いをすると、次の記録メディアに収録されたデータが破損するおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

FD	FD
CD	光ディスクメディア
MC	メモリカード

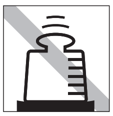
次の注意事項は、特に記録メディアの種類に指定のない限り、すべての記録メディアに適用されます。



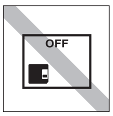
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



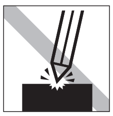
アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



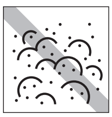
上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。



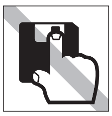
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは使用したり保管したりしないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

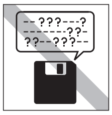


アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。
FD MC



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

FD MC



何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD



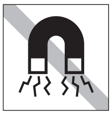
光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



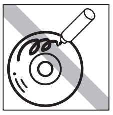
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC



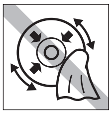
信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。

CD

無線LAN使用時における セキュリティに関する注意

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、または、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

目　次

システムの拡張

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付録

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

記号	説明
警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

記号	説明
制限	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
参考	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
『　』	本書とは別のマニュアルを示します。 例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。
☞	参照ページを示します。
1 2	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
[Ctrl]	[　　]で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。 [↵]はEnterキーを表します。また、[N]は[N み]のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
[Ctrl]+[Z]	＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。 この例では、[Ctrl]を押したまま[Z]を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition

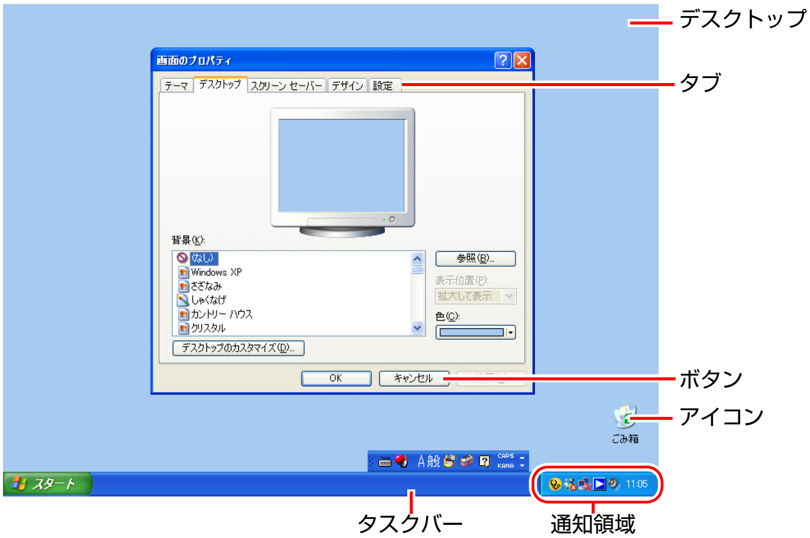
HDD容量の記述

本書では、HDD容量を1KB（キロバイト）＝1000Byteとして記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

ボタンは［　］で囲んで記載します。

例）：［スタート］／：［OK］

画面操作

本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

● 記載例

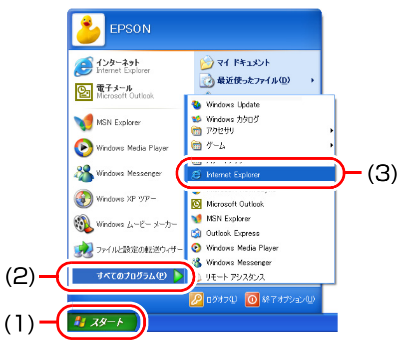
［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。

● 実際の操作

(1)［スタート］をクリックします。

(2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

(3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様 オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されている場合があります。
お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されていますので、ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章
使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

ご使用の前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品に不足や不良がないかを確認する

『梱包品の確認』（別冊）

↓

本機を使用する前に必要な情報を確認する

p.2 「安全にお使いいただくために」
p.8 「製品保護上の注意」
p.18 「マニュアル中の表記」
p.21 「本製品の仕様とカスタマイズ」
p.24 「ご使用の前に」
p.26 「添付されているソフトウェア」
p.29 「本機でできること」
p.30 「各部の名称と働き」

↓

コンピュータを設置し、各機器の接続を行う

p.35 「コンピュータの設置」

↓

電源を入れ、Windowsをセットアップする

p.42 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

↓

使用開始！

▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- ● お問い合わせ情報シール

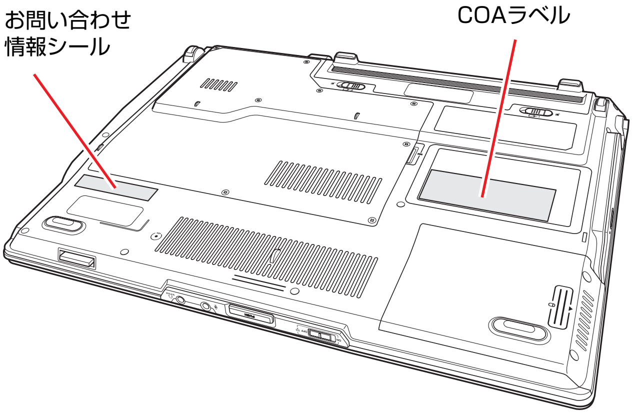
  お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

  お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- ● COAラベル

  COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

  万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールが必要なソフトウェアは次のとおりです。

本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Windows XP 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	Windows XPリカバリCD
● AHCI/RAIDドライバ ICH8M-EnhancedチップセットでS-ATA HDDや「RAID」を使用するためのドライバです。	
● インテル PM965 Expressチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	ドライバCD
● Intel Matrix Storage Manager Windows 上でHDDの状態を確認するためのユーティリティです。	
● インテルAMTドライバ AMT機能を使用するためのドライバです。	
● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	
● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。	
● 無線LANドライバ 無線LANを使用するためのドライバです。	
● メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
● FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	
● インスタントキードライバ Fn と組み合わせて使用する機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。	
● インスタントキーユーティリティ インスタントキーを使用するためのユーティリティです。	
● セキュリティチップドライバ セキュリティチップ（TPM）を使用するためのドライバです。	
● 指紋認証ドライバ 指紋認証機能を使用するためのドライバです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	

<table>
<tr><th>本機にインストールされているソフトウェア</th><th>ソフトウェアの収録場所</th></tr>
<tr><td>● インフォメーションメニュー
本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。</td><td rowspan="7">ドライバCD</td></tr>
<tr><td>● Microsoft .NET Framework
.NET Frameworkの開発環境で作成されたソフトウェアなどを使用するためのプログラムです。</td></tr>
<tr><td>● Windows Media Player 10
動画や音声を再生するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● Liquid View
アイコンや文字などを拡大して表示するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● JWord Plugin
Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● gooスティック
Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。</td></tr>
<tr><td>● システム診断ツール
コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。</td></tr>
<tr><td>● Adobe Reader
PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。</td><td>アプリケーションCD</td></tr>
<tr><td>● Nero 7 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）
光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。</td><td>Nero 7 Essentials CD-ROM</td></tr>
<tr><td>● WinDVD（DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）
DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。</td><td>WinDVD CD-ROM</td></tr>
<tr><td>● マニュアルびゅーわ
本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。マニュアルびゅーわのデータは、Cドライブの「お知らせ」フォルダにあり、Windowsを再インストールすると削除されます。Windowsを再インストールする際は、必ずバックアップを取ってください。
p.284 「マニュアルびゅーわのバックアップ」</td><td>－</td></tr>
</table>

必要に応じてインストールが必要なソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

p.48 「初期設定ツール」
p.49 「セットアップ完了後の作業」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● インテルAMT Local Manageability Service AMT機能を使用するためのサービスです。	ドライバCD
● Bluetoothドライバ Bluetooth機能を使用するためのドライバです。	
● 指紋認証ユーティリティ 指紋認証機能の設定を行うためのユーティリティです。	
● Hotkeyユーティリティ U1キーにソフトウェアを割り当てるためのユーティリティです。	
● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	アプリケーションCD
● i－フィルター 4 30日版 インターネット上の有害なWebページへのアクセスを防止するWebフィルタリングソフトウェアです。	
● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ（TPM）の設定を行うためのユーティリティです。	

そのほかのソフトウェア

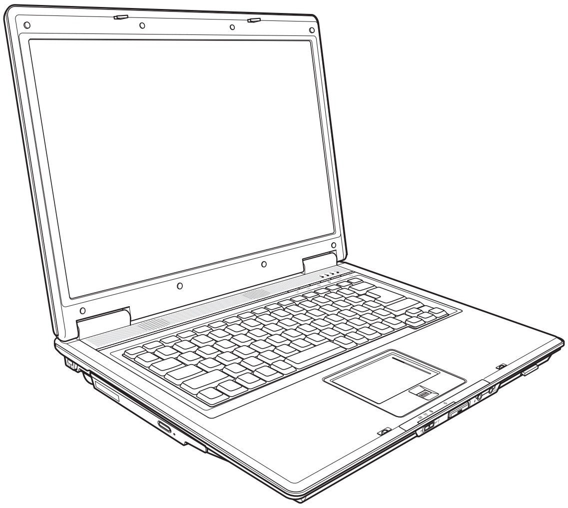
次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

p.276 「システム診断ツールを使う」

そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	ドライバCD

本機でできること

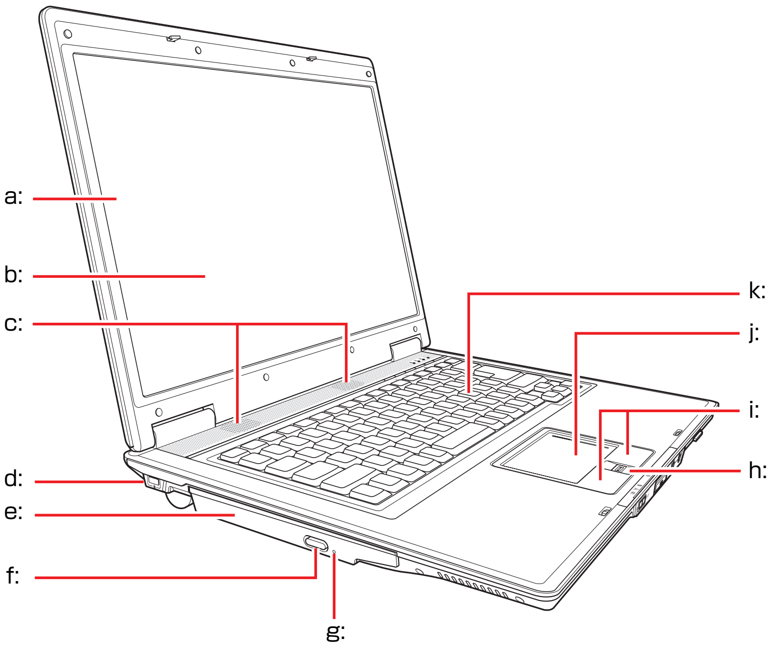
本機は、15.4型ワイド液晶ディスプレイを搭載したノート型コンピュータのハイエンドモデルです。
本機では、次のようなことができます。



- インターネットやメールを利用する p.168
- 光ディスクを再生する
  光ディスクにデータを保存する
  （オプション） p.92
- ネットワークに接続する
  無線LANで接続する p.146 p.148
- FAXモデムで通信する p.178
- USB機器やIEEE1394機器を
  接続して使う p.101 p.189
- Bluetooth対応機器を使う
  Bluetoothでデータを送受信する p.111
- PCカードやメモリカード（メモリースティックなど）を使う p.103 p.107
- 音声の入力・出力をする p.136
- 画面表示を調節する
  外付けディスプレイに表示する p.120 p.128
- 指紋認証機能を使う p.140
- 省電力機能を使う p.183
- メモリを交換する p.195

各部の名称と働き

▶正面・左側面



a: **LCDユニット**
LCD画面を含めたカバー部分です。

b: **LCD画面**
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: **内蔵ステレオスピーカ**
警告音（ビープ音）や音声などを鳴らします。

d: **セキュリティロックスロット**
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

e: **光ディスクドライブ**
CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います。

f: **イジェクトボタン＊**
光ディスクドライブのディスクトレイを開けるときに押します。

g: **イジェクトホール＊**
光ディスクドライブのディスクトレイが開かなくなった場合に使用します。

h: **指紋センサー**
指紋認証機能使用時に、指紋を読み取ります。

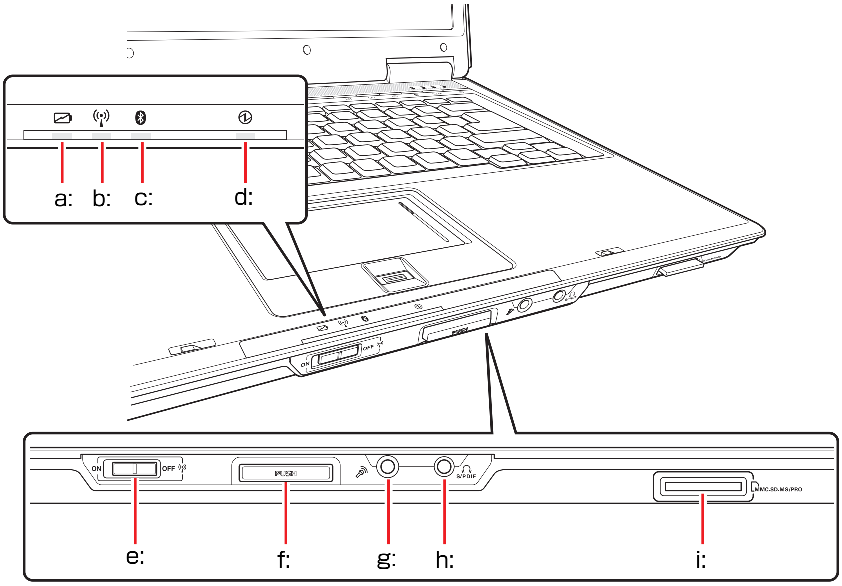
i: **クリックボタン**
マウスの左右のボタンに相当します。

j: **タッチパッド**
指を軽く乗せて動作することにより、画面上のポインタを操作します。

k: **キーボード**
文字の入力やソフトウェアの操作などを行います。

＊ 位置はお使いの光ディスクドライブによって異なります。光ディスクドライブのPDFマニュアルをご覧ください。
PDFマニュアルは、「マニュアルびゅーわ」からご覧になれます。
p.53 「インフォメーションメニューを使う」

前面



a: バッテリ充電ランプ
バッテリの充電状態を示します。
オレンジ色点灯：充電中
消　灯：満充電

b: 無線LAN状態ランプ
無線LANがONのときに点灯（緑色）します。

c: Bluetooth状態ランプ
BluetoothがONのときに点灯（緑色）します。

d: 電源ランプ
電源状態を示します。
緑点灯：通常
緑点滅：スタンバイ
消　灯：電源切断時または休止状態

e: 無線LANスイッチ
本機の無線LANのON/OFFを切り替えます。

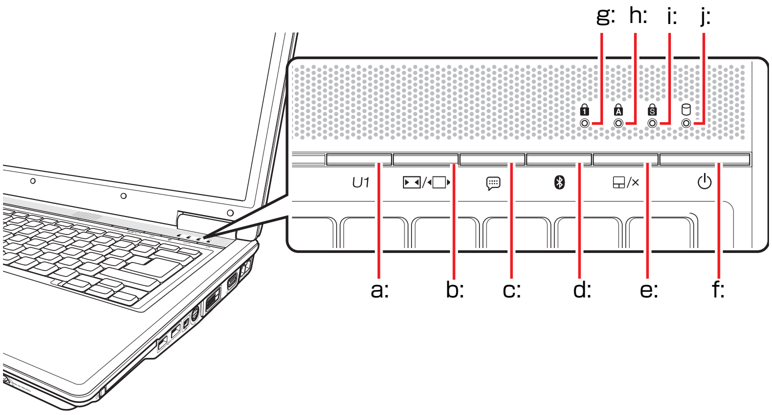
f: LCDラッチ
LCDユニットを開くときに押します。

g: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

h: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ S/PDIF
スピーカ、ヘッドフォンや光デジタルオーディオ機器（MDデッキなど）などを接続します。

i: メモリカードスロット MMC.SD.MS/PRO
メモリカードの読み込みや書き込みなどを行います。

インスタントキー／電源スイッチ／ステータス表示ランプ



a: U1キー
割り当てたソフトウェアを起動します。

p.80「U1キーを割り当てる」

b: 画面サイズ切り替えキー
キーを押すたびに、画面のサイズを切り替えます。

c: インフォメーションキー
インフォメーションメニューを起動します。

d: Bluetoothキー
本機のBluetooth機能のON/OFFを切り替えます。

e: タッチパッドキー/×
タッチパッドのON/OFFを切り替えます。

f: 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用します。

g: Num Lockランプ
NumLockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

h: Caps Lockランプ
Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、アルファベットの大文字を入力することができます。

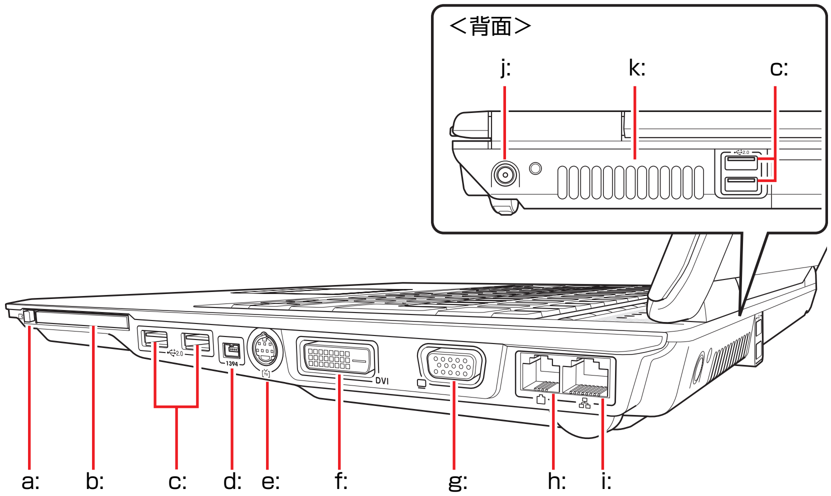
i: Scroll Lockランプ
Scroll Lockキーの設定状態を表示します。

j: アクセスランプ
HDDや光ディスクドライブにアクセス中に緑色に点灯します。

制限

アクセスランプが点灯しているときに電源を切ったり、コンピュータを再起動しないでください。データが破損するおそれがあります。

▶右側面・背面



a: PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

b: PCカードスロット
PC Card Standard 規格準拠のPCカードをセットします。

c: USBコネクタ 2.0
USB対応機器を接続します。

d: IEEE1394コネクタ 1394
IEEE1394 機器を接続します（4 ピン）。

e: S-ビデオ出力端子
テレビのS端子と接続して、本機の画像を表示します。

f: DVI-Dコネクタ DVI
外付けディスプレイ（デジタルタイプ）を接続します。

g: VGAコネクタ
外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

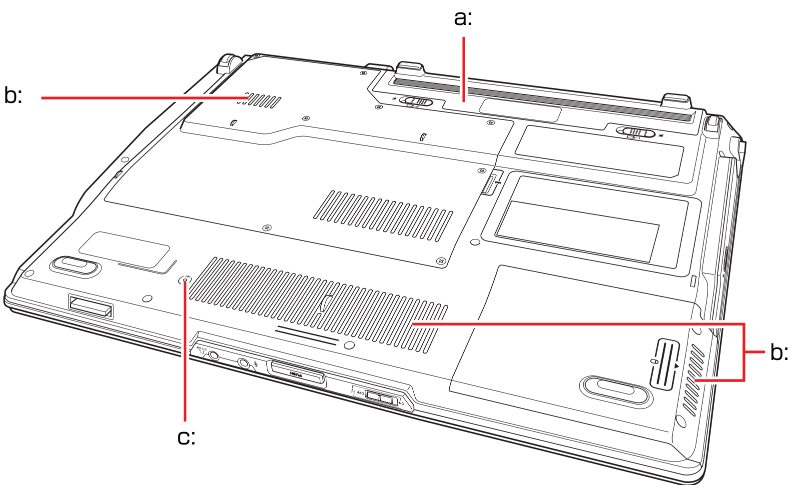
h: モデムコネクタ
電話回線と接続します。

i: LANコネクタ
ネットワークと接続します。

j: ACアダプタコネクタ DC IN
付属のACアダプタを接続します。

k: 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

▶底面



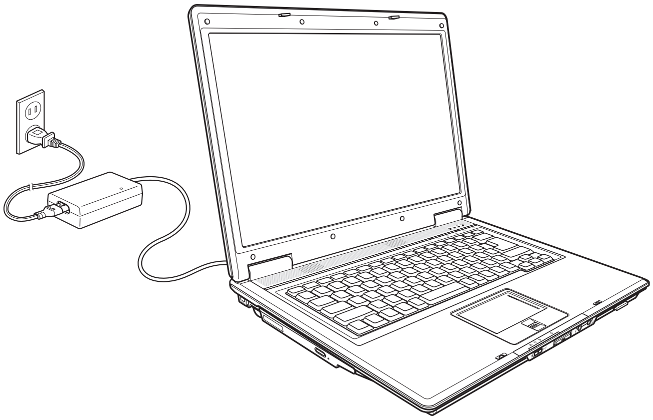
a: バッテリパック
付属のバッテリパックを装着します。

b: 通風孔
コンピュータ内部に外気を取り入れます。

c: リセットホール▶O◀
コンピュータを強制終了させるときに使用します。

コンピュータの設置

本機を使用できる状態にするために、バッテリパックを装着したり、ACアダプタを接続したりする手順を説明します。
プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ完了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意

注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

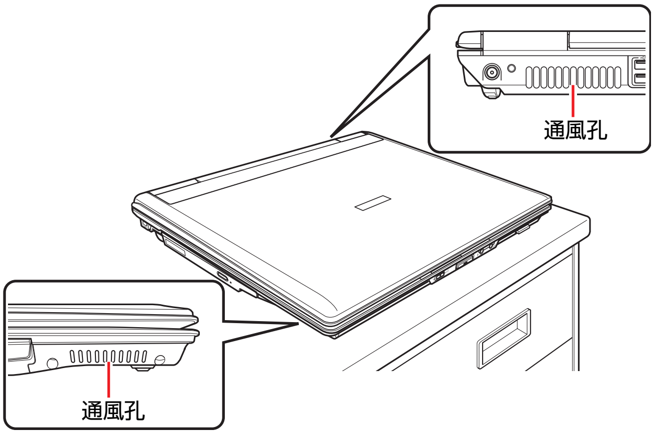
注意

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置する

1　本機を設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。

背面や側面の通風孔をふさがないようにしてください。

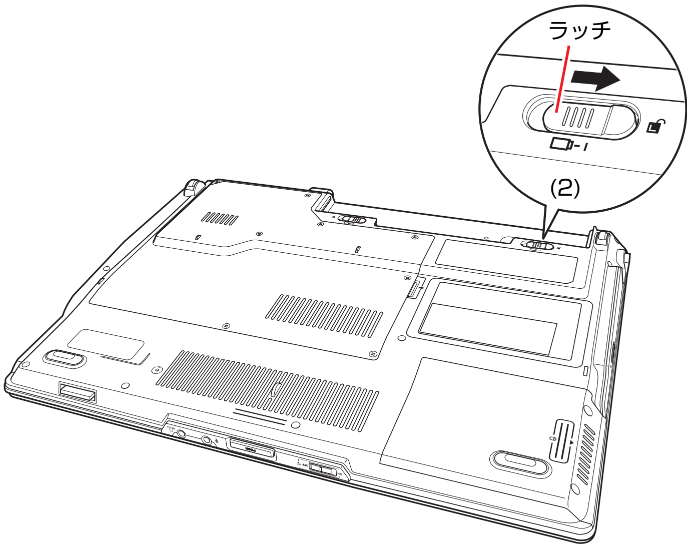


バッテリパックを取り付ける

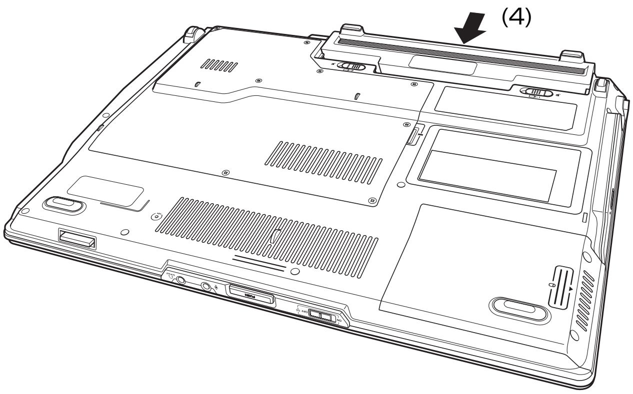
2　バッテリパックを取り付けます。

(1) 本機の底面部を上にして置きます。

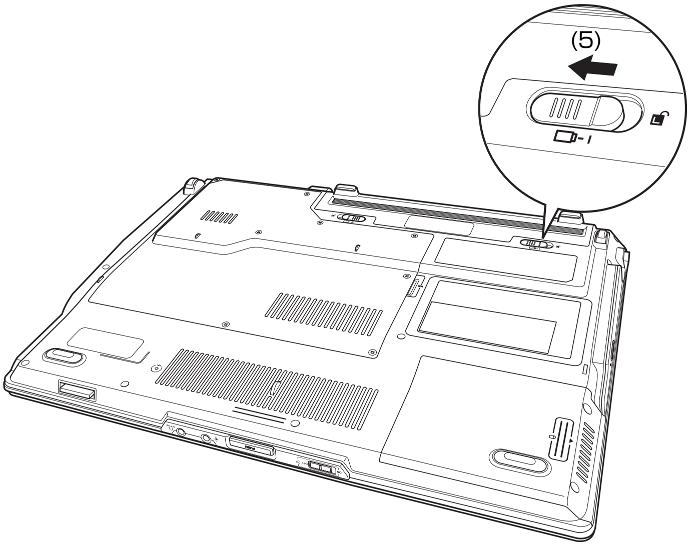
(2) 底面右側のラッチ（▭-ı）をロック解除位置（🔓）までスライドさせます。



(3) 下図のとおりバッテリパックを本機にあわせます。
(4) バッテリパックを矢印の方向に押し込みます。
正しくセットされると、「カチッ」と音がします。



(5) 底面右側のラッチ（□-ı）をロック位置までスライドさせます。



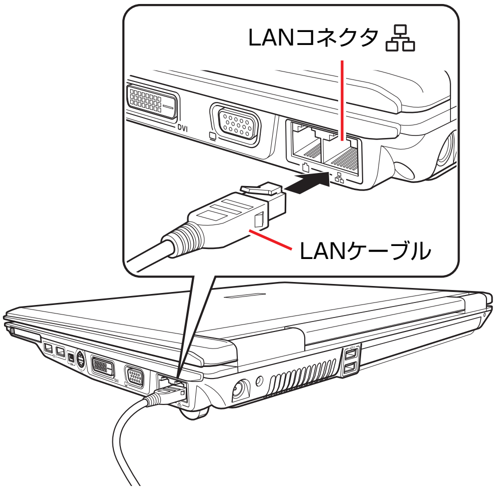
出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

p.62 「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

ネットワークへ接続する

3 ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、市販のLANケーブルを本機右側面のLANコネクタ（ 品 ）に接続します。

LANケーブルが抜けないように、しっかり差し込んでください。
インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



電話回線に接続する

注意

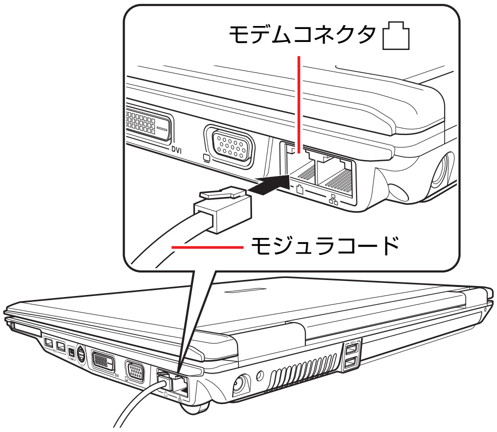
FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。

- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

4　**FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線に接続します。**

(1) 付属のモジュラコードを本機右側面のモデムコネクタ（ ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

(2) モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。



ACアダプタを接続する

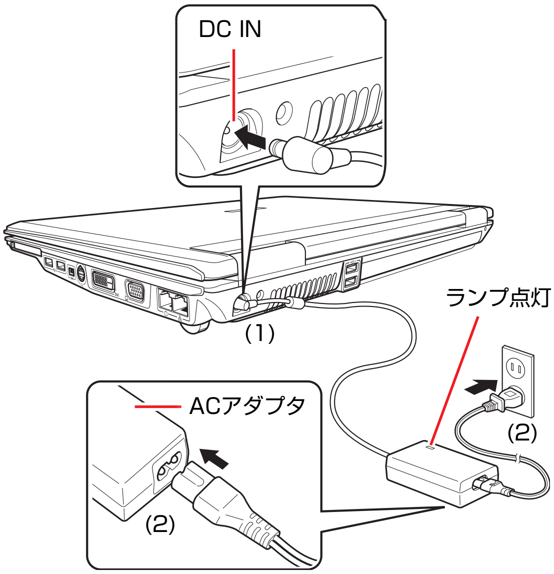
本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

5　ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ（DC IN）に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。



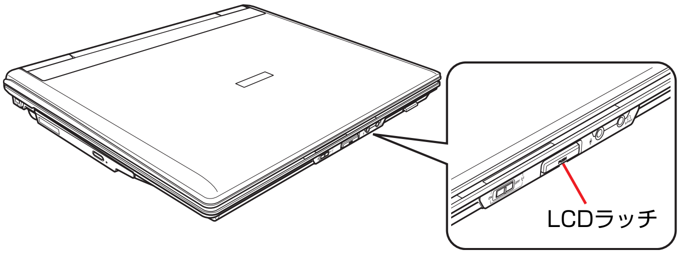

制限

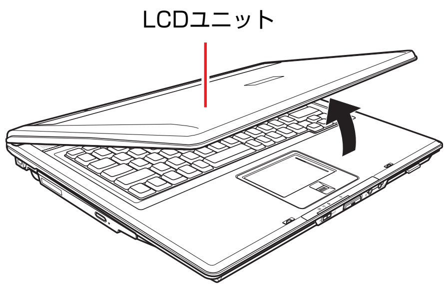
ACアダプタを接続して使用するときも、バッテリパックは必ずセットしてください。

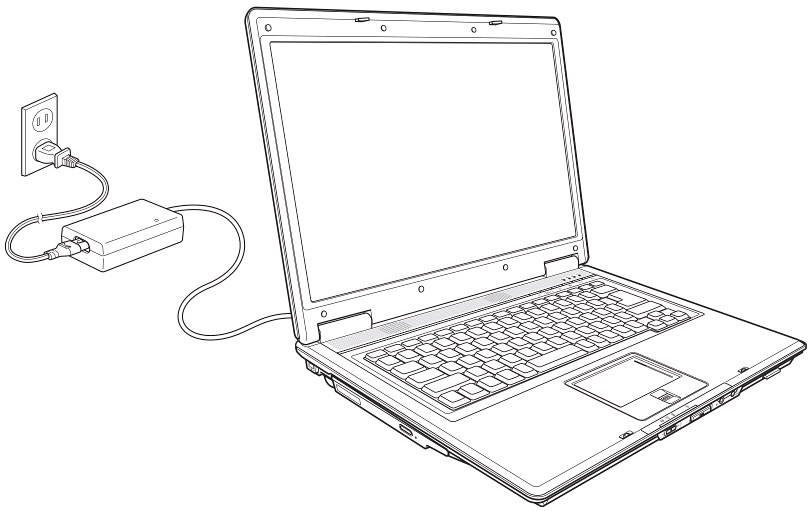
LCDユニットを開ける

6　前面のLCDラッチを奥に押して、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。







これでコンピュータの設置は完了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機を購入後にはじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。

本機の電源を入れる

⬇

Windowsのセットアップ作業を行う

⬇

Windowsのセットアップ作業完了後に必要な作業を行う

⬇

Windows使用時の確認事項をよく読む

⬇

Windowsが使用できるようになる

▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

● ポインタを動かす

人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。



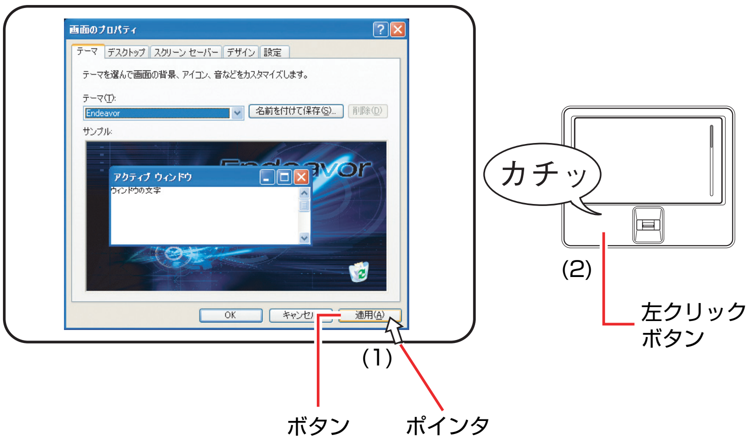
● ボタンをクリックする

(1) 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

(2) 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



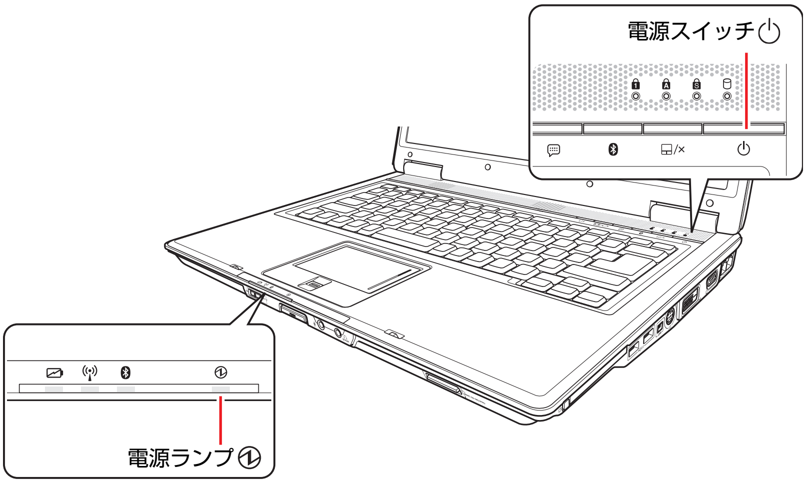
▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1 電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプ（⏻）が点灯します。

電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認してください。



2 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

画面の角度や明るさを調節して画面を見やすくします。

- **角度**

  LCDユニットの角度を調節します。

- **画面の明るさ**

  Fn+F5（✹）：暗くなります。

  Fn+F6（☼）：明るくなります。

続いてWindowsのセットアップを行います。

☞ p.45 「Windowsのセットアップ」

Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な項目について記載しています。入力の際に参考にしてください。

- **コンピュータ名**

  「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

  ＜ネットワークに接続しない場合＞

  セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

  ＜ネットワークに接続する場合＞

  ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。

- **パスワード（Windows XP Professionalのみ）**

  本機を個人で使用・管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題はありません）。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

  このパスワードは、「Administrator」（アカウント）のパスワードです。「Administrator」（アカウント）でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

  パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

- **ユーザー名**

  ユーザー名は少なくとも1つ入力します。本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザー名をいくつか入力すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で使用することができます。

参考

「Administrator」（アカウント）

「Administrator」（アカウント）とは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

Windows XPのセットアップ

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。
セットアップの流れは、次のとおりです。

Microsoft Windowsへようこそ

セットアップを続行するには、［次へ］をクリックします。

↓

使用許諾契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

↓

コンピュータ名

「このコンピュータの名前」にコンピュータ名を入力します。
p.45「セットアップ中に入力する項目」

↓

パスワードの設定

Windows XP Professionalをお使いの場合は、Administratorのパスワードを入力します。
p.45「セットアップ中に入力する項目」

↓

インターネットへの接続

ここでは接続を行いませんので、［省略］をクリックします。

↓

ユーザー登録

「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、［次へ］をクリックします。
このユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは当社で行っていますので、ユーザー登録の必要はありません。

↓

コンピュータを使用するユーザーの指定

ここで入力するユーザー名には、コンピュータの管理者と同等の権限が与えられます。少なくともユーザー名を1つ入力してください。
p.45「セットアップ中に入力する項目」

↓

セットアップの完了

［完了］をクリックすると、Windowsが再起動します。

↓

デスクトップ画面の表示

Windowsが再起動すると、Windowsのデスクトップ画面が表示されます。

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windowsの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると、デスクトップ画面が表示されます。



＜壁紙は予告なく変更する場合があります＞

これでWindows XPのセットアップは完了です。
続いて、初期設定ツールでソフトウェアのインストールなどを行います。

p.48「初期設定ツール」

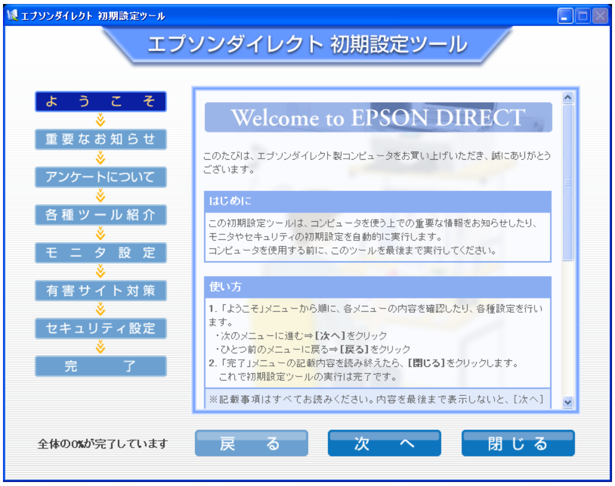
参考

ユーザー登録とライセンス認証（アクティベーション）

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、［スタート］－「ファイル名を指定して実行」－「REGWIZ □/R」（□はスペース）を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。
- 当社より提供されたWindows XP（購入時にコンピュータにインストールされているものや、「Windows XPリカバリCD」より再インストールを行ったもの）は、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶初期設定ツール

Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行ったり、ソフトウェアをインストールしたりするためのツールです。画面の指示に従って設定を行ってください。



＜イメージ＞

初期設定ツールの下記の画面から、ソフトウェアをインストールします。各ソフトウェアの機能については、画面の説明をご覧ください。また、インストールは、画面の指示に従って行ってください。

「有害サイト対策」画面

「有害サイト対策」画面では、本機に標準添付の「i－フィルター 30日版」をインストールします。次回Windowsを起動したときに「i－フィルター…」画面が表示されたら、セットアップを行ってください。

p.242 「i－フィルター 30日版のセットアップ」

i－フィルター 30日版の使用方法は、p.175「i－フィルター 30日版を使う」をご覧ください。

本機購入時に、Webフィルタリングソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

「セキュリティ設定」画面

「セキュリティ設定」画面では、本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。Norton Internet Security 90日版の使用方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

本機購入時に、セキュリティソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

参考

初期設定ツールの起動方法

初期設定ツールが自動的に起動しない場合や、初期設定ツールを再実行したい場合などは、次の方法で起動することができます。

［スタート］ ‒ 「すべてのプログラム」 ‒ 「初期設定ツール」

セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップと初期設定ツールの作業が完了したら、次の作業を行います。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）や、無線LAN機能を使用する場合は、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

p.146 「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.148 「無線LANを使う」

FAXモデムの設定

FAXモデムを使用してインターネットへ接続する場合は設定を行います。

p.166 「インターネットに接続するには」
p.178 「FAXモデムを使う」

Windows Updateを行う

はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに手動で「Windows Update」を行います。

p.171 「Windows Update」

「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用することができるようになります。

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証機能を使用すると、指紋を登録してパスワードの代わりに使用できます。購入時には指紋認証ユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.244 「指紋認証ユーティリティのインストール」

Bluetoothドライバのインストール

Bluetooth機能を使用すると、無線通信を行うことができます。購入時にはBluetoothドライバはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.239 「Bluetoothドライバのインストール」

Hotkeyユーティリティのインストール

Hotkeyユーティリティを使用すると、インスタントキーにお好きなソフトウェアを割り当てることができます。購入時にはHotkeyユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.245 「Hotkeyユーティリティのインストール」

マニュアルびゅーわのバックアップ

「マニュアルびゅーわ」とは、本機に添付されているマニュアルやお知らせをコンピュータ上で見ることができるソフトウェアです。「マニュアルびゅーわ」は、インフォメーションメニューから起動することができます。

p.53 「インフォメーションメニューを使う」

「マニュアルびゅーわ」は、Windowsを再インストールすると消去されます。あらかじめバックアップを行ってください。

p.284 「マニュアルびゅーわのバックアップ」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。

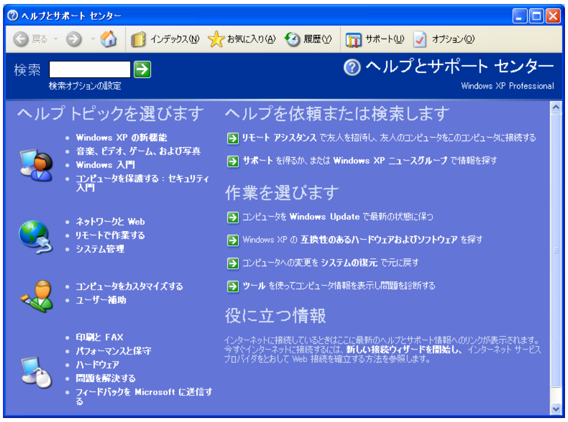
▶Windows XPの使用方法

Windows XPの使用方法は、次をご覧ください。

● Windowsのヘルプ

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

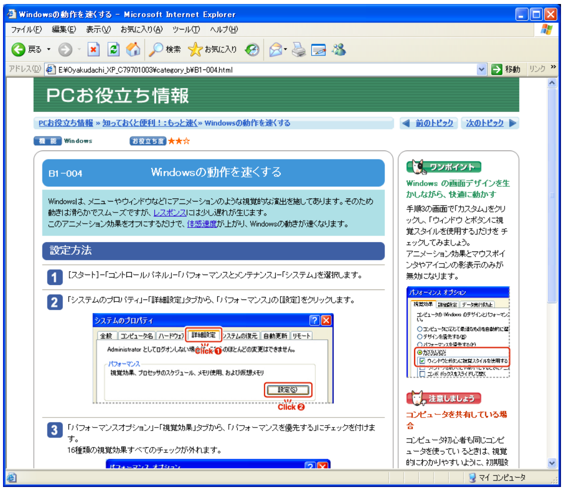
[スタート] ー「ヘルプとサポート」



● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。

p.53 「インフォメーションメニューを使う」



▶2回目以降に電源を入れる

セットアップ完了後に本機の電源を入れる際は、次の点に注意してください。

● **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる**

Windowsが省電力状態に移行すると、本機が動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。

p.183「省電力機能を使う」

● **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる**

電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

● **周辺機器の電源をいつ入れるか確認する**

電源を本機よりも先に入れるか後に入れるかは、周辺機器によって異なります。周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。

制限

● USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB記憶装置を取り外した状態で行い、Windows起動後に接続してください。

● USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。

p.217「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が大きすぎたり小さすぎたりする場合には、音量を調節します。
次のキーを操作してください。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10　🔊/🔇	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除される。
Fn ＋ F11　▼🔈	音量が小さくなる。
Fn ＋ F12　▲🔊	音量が大きくなる。

▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

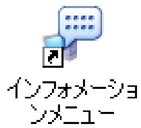
起動方法

「インフォメーションメニュー」の起動方法は次のとおりです。

● インフォメーションキー（💬）を押す

p.80「インスタントキー」

● デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする



● スタートメニューから起動する

インフォメーションメニューが起動すると次の画面が表示されます。



参考

マニュアルびゅーわをご使用の前に

はじめて「マニュアルびゅーわ」からPDFマニュアルを起動する場合に、「使用許諾契約書」画面が表示されたときは「Adobe Reader」のセットアップを行ってください。

p.240「Adobe Readerのインストール」―「セットアップ」手順2～

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

● マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」や「WinDVD」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

「マニュアルびゅーわ」は、Windowsを再インストールすると削除されてしまいます。Windowsの再インストールを行う際は、必ずマニュアルびゅーわのバックアップを行ってください。

p.284 「マニュアルびゅーわのバックアップ」

参考

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとすると、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

● PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

p.250 「トラブルが発生したら」

● ユーザーサポートページ（Web）

技術的な情報、トラブルの解決方法や保証サービスのご案内などを掲載しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。

p.285 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● サポート情報検索（Web）

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。
「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

▶復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。
通常、復元ポイントはソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

p.279「復元ポイントを手動で作成する」

▶セキュリティ対策を行う

本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。
インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

p.171「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

p.188「省電力状態から復帰する」

▶Windows CD-ROMを要求されたときは

本体ドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

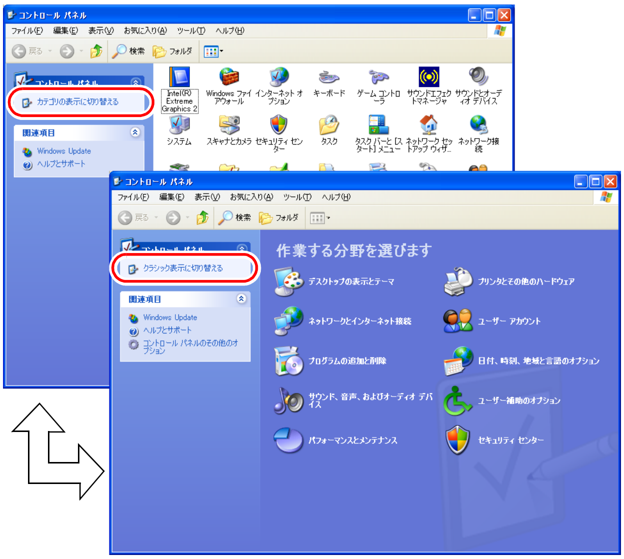
▶コントロールパネルの表示

コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- ●「カテゴリの表示」：項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- ●「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして行います。
本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞



＜カテゴリの表示＞

電源の切り方

ここでは、電源の切り方について説明します。

制限

- 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- アクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。

Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsを終了させてから電源を切ります。

1 **［スタート］－［終了オプション］をクリックします。**

2 **「コンピュータの電源を切る」画面で［電源を切る］をクリックします。**

Windowsが終了し、自動的に電源が切れます。

3 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している状態でWindowsを終了しようとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は［いいえ］をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてから、Windowsを終了してください。

▶再起動

電源が入っている状態で、コンピュータを起動しなおすことを「再起動」と言います。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は次のとおりです。

1 ［スタート］－「終了オプション」－「再起動」をクリックします。

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。
ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1 Ctrl＋Alt＋Deleteを押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。

2 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して［タスクの終了］をクリックします。

3 「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。
強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

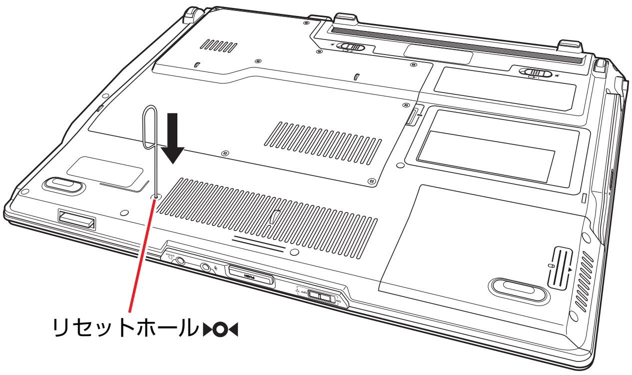
1 本機の電源スイッチ（⏻）を5秒以上押し続けます。

本機の電源が切れます。

リセットホールで強制的に電源を切る

本機底面にあるリセットホールを使用して、本機を強制終了することもできます。リセットホールは、電源スイッチを5秒以上押しても終了できない場合に使用してください。

1 **本機底面にあるリセットホールの位置を確認し、リセットホール（▸○◂）に先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。**



第2章
コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックで使用することができます。
ACアダプタの接続方法は、p.40「ACアダプタを接続する」をご覧ください。
バッテリパック（以降、バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリをセットすれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用しています。

複数のバッテリを交互に使用したい場合などは、オプションのバッテリを購入できます。
p.68「バッテリの交換」

▶使用時の注意

警告

- バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。
  発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
- 本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱したりしないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。
- 付属のACアダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。
  また､本機には、指定以外のACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
  感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
  当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解・改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。
  なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックには、落下など、強い衝撃を与えないでください。
  破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

注意

- 付属の AC アダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリパックの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。低温火傷の原因となります。

ACアダプタやバッテリを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

● ACアダプタを使用するとき

- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- ACアダプタは頻繁に抜き差ししないでください。
- ACアダプタを接続して使用するときも、バッテリは必ずセットしてください。

● バッテリを取り付けて使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力状態でも電力が消費されています。
  p.183 「省電力機能を使う」
- バッテリだけで使用しているときに、動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.186 「時間経過で移行させない」

● バッテリを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために定期的に充電をしてください。
  p.70 「バッテリ保管上の注意」

参考

低温環境でのバッテリ性能

低温の環境では、バッテリの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

バッテリの使用可能時間

バッテリだけで本機を使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

バッテリの使用可能時間*（満充電の場合）	
Core 2 Duoプロセッサ搭載時	連続約2.5時間

*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

本機をバッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと使用可能時間を延ばすことができます。

p.183 「省電力機能を使う」

バッテリの充電

バッテリの充電は、ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に行われます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ（ ）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
残量少	点滅（オレンジ色）
充電中	点灯（オレンジ色）
満充電	消灯

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

バッテリの充電時間	
Core 2 Duoプロセッサ搭載時	約2.5時間

電源が入っている状態では、コンピュータの使用状況により差があります。

参考

温度条件について
バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。

▶バッテリ残量の確認

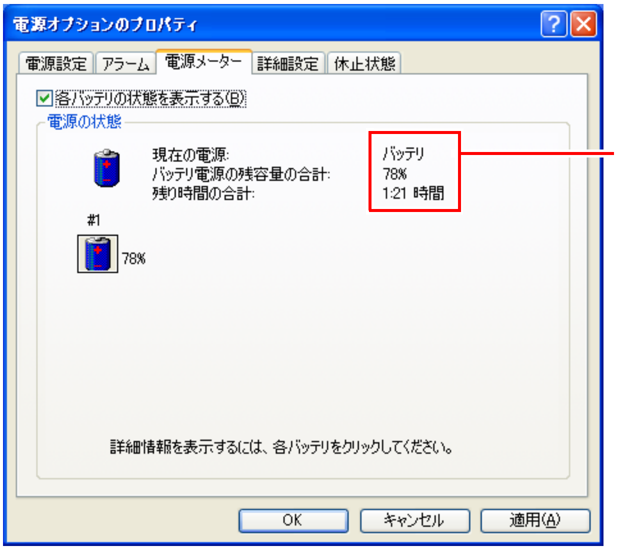
本機をバッテリだけで使用している場合、次の方法でバッテリ残量を確認することができます。

● 通知領域の「バッテリ」アイコンの上にマウスポインタをあわせる



バッテリアイコン

● プロパティ画面を開いて確認する



バッテリの残量が表示されます。

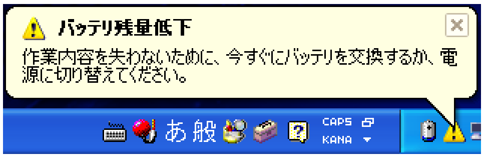
プロパティ画面は次の場所から開きます。

[スタート] ー「コントロールパネル」ー「パフォーマンスとメンテナンス」ー「電源オプション」ー「電源メーター」タブ

バッテリ残量が少なくなったら

バッテリ残量低下の通知

バッテリ残量が少なくなると、本機は次のように通知（警告）します。



バッテリ残量低下を通知する設定は、p.67「バッテリアラームの設定」で変更することができます。

対処方法

バッテリ残量低下が通知されたら、直ちに次のどちらかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

- **ACアダプタを接続する**
  電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電ランプ（　）が点灯します。
- **電源を切る**
  作業中のデータをHDDなどに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
  交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

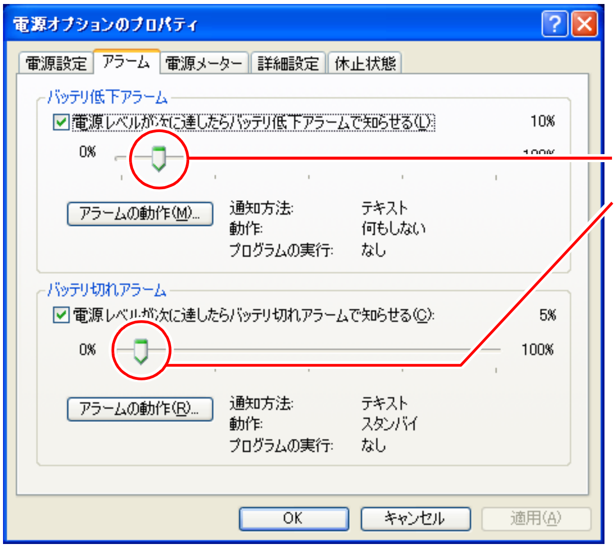
制限

ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリアラームの設定

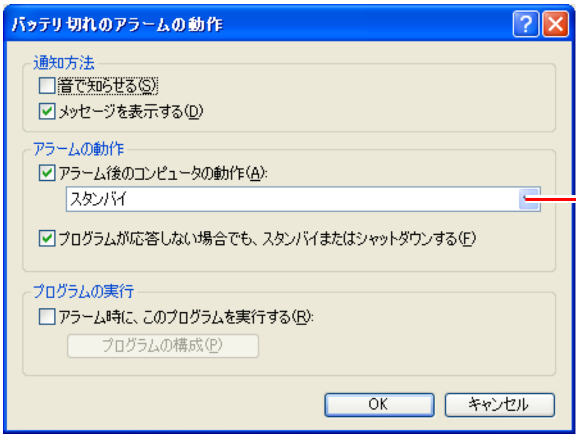
バッテリ残量が低下したときの通知方法は、次のプロパティ画面から変更できます。

[スタート] ─「コントロールパネル」─「パフォーマンスとメンテナンス」─「電源オプション」─「アラーム」タブ



アラームを表示するバッテリ残量を設定します。

［アラームの動作］をクリックすると、下記の画面が表示されます。バッテリ低下やバッテリ切れのアラームの動作を設定できます。



警告後のコンピュータ動作を選択します。

p.184「省電力状態の種類」

バッテリの容量がすぐに低下するときは

バッテリは、消耗品です。満充電にしても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。当社純正の新しいバッテリに交換してください。

▶バッテリの交換

複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
交換用のバッテリについては、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
　http://shop.epson.jp/

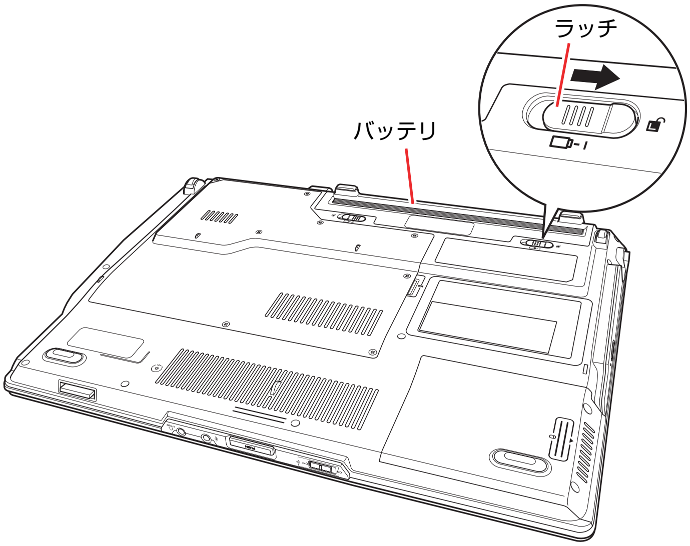
バッテリの交換方法

バッテリの交換方法は次のとおりです。

1 **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

2 **本機の底面部を上にして置きます。**

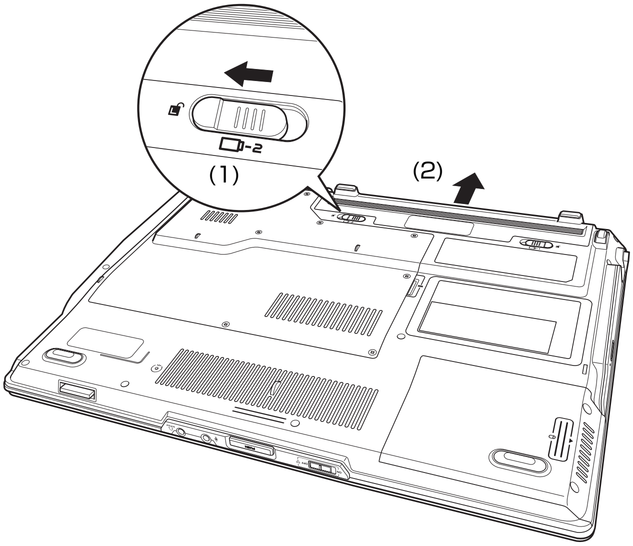
3 **底面右側のラッチ（ ）をロック解除位置（ ）までスライドさせます。**



4 **バッテリを取り外します。**

(1) 底面左側のラッチ（□-2）をロック解除位置（🔓）までスライドさせ、指で押さえてロック解除位置（🔓）で固定します。

(2) バッテリを矢印の方向に押し出して取り外します。

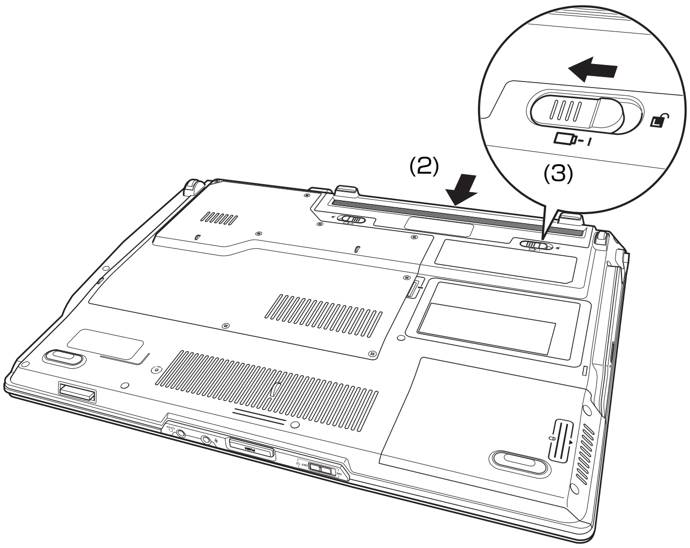


5 **新しいバッテリを取り付けます。**

(1) 下図のとおりバッテリを本機にあわせます。

(2) バッテリを矢印の方向に押し込みます。
正しくセットされると「カチッ」と音がします。

(3) 底面右側のラッチ（□-1）をロック位置までスライドさせます。



▶バッテリの寿命を延ばすには

バッテリは消耗品です。バッテリの寿命は、使い方や使用環境によって大きく変わります。
バッテリの劣化を抑え、使用可能時間や寿命を延ばすため、次の事項に注意してください。

- 高温の環境では、バッテリの劣化が早まります。本機やバッテリを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 本機を使用する、使用しないにかかわらず、常時ACアダプタを接続していると、バッテリの劣化が早まります。1ヶ月に1回程度は本機からACアダプタを外して、バッテリの残量が10%程度になるまで使用することをおすすめします。
- 1ヶ月以上本機を使用しないときは、本機からバッテリを取り外して保管してください。

  p.70「バッテリ保管上の注意」

▶バッテリ保管上の注意

警告

小さなお子様の手の届く場所にバッテリを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、次の事項を守ってください。

- 液漏れや端子部の腐食を防ぐため、必ずコンピュータ本体から取り外してください。
- 端子部のショートを防ぐため、布やビニールなどの絶縁物に包んでください。
- 高温環境での保管は劣化を早めます。乾燥した冷暗所で保管してください。
- 満充電状態での保管は劣化を早めます。バッテリ残量は50%程度にして保管してください。
- バッテリは、使用していなくても、自己放電により蓄えられた電気は徐々になくなります。バッテリの残量がなくなり過放電状態になると、コンピュータに装着しても充電できなくなることがあります。
  自己放電による過放電を防ぐため、定期的（半年に1回程度）にバッテリ残量を50%程度まで充電することをおすすめします。

▶使用済みバッテリの取り扱い

Li-ion

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

バッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが搭載されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

▶タッチパッドの操作

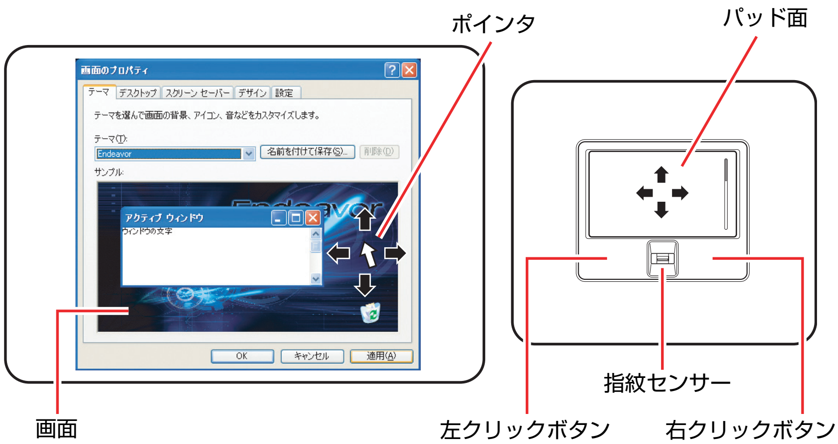
タッチパッド使用時の注意

タッチパッドを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたまま LCD ユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

ポインタの移動

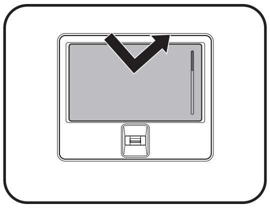
タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。



指紋センサーの使用方法は、p.140「指紋認証機能を使う」をご覧ください。

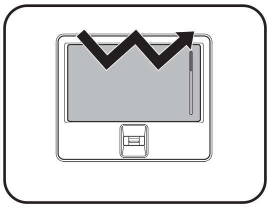
クリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。



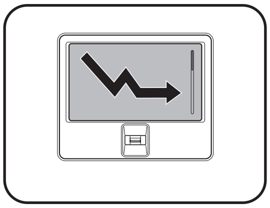
ダブルクリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。



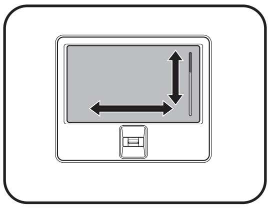
ドラッグアンドドロップ

ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。



スクロール

上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。



タッチパッド機能をOFFにする

本機では、タッチパッドの機能をOFFにすることができます。
キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインタが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的にOFFにすると便利です。
タッチパッド機能のON/OFFの切り替えは、タッチパッドキー（/×）で行います。

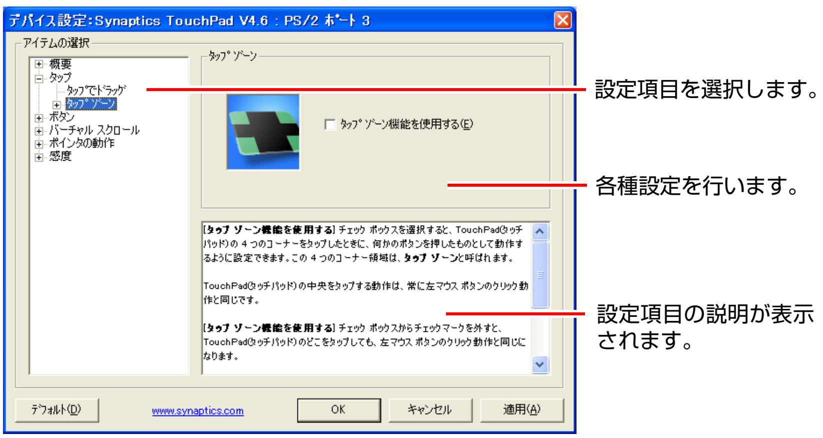
p.80「インスタントキー」

タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティの各種設定は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」

「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして、［設定］ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。



USBマウス（オプション）の接続

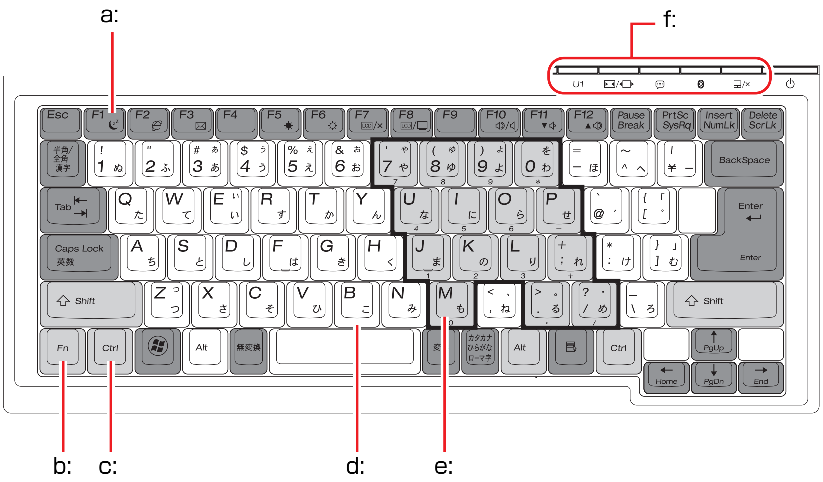
本機右側面または背面のUSBコネクタ（2.0）に、オプションのUSBマウスを接続して使うことができます。詳しくは、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機には、日本語対応87キーボードと5個のインスタントキーが搭載されています。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



a: **機能キー**
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: **Fnキー**
制御キーの1つです。
キートップ（キーの上面）に青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.78「Fnキーと組み合わせて使うキー」

c: **制御キー**
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: **文字キー**
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して、漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: **数値キー**
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字、演算子などを入力します。Fn＋NumLkを押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

f: **インスタントキー**

p.80「インスタントキー」

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

<table>
<tr><td colspan="2">直接入力モード</td><td>キートップのアルファベットをそのまま入力します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日本語入力モード</td><td>ローマ字入力</td><td>キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。</td></tr>
<tr><td>かな入力</td><td>キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。</td></tr>
</table>

入力モードの切り替え

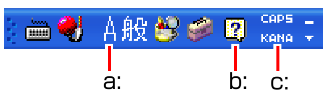
半角/全角 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
　MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態　：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態　　：かな入力

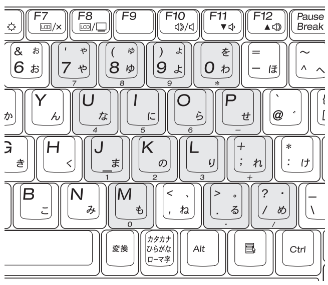
MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

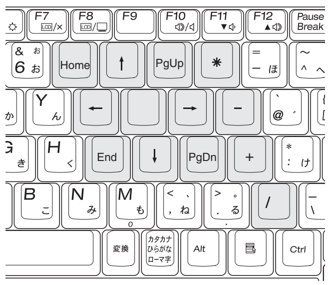
数値キー入力モード

Fn ＋ NumLk を押すと、NumLock ランプ（ ）が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに Shift を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード



Shift を押したとき



アルファベット入力モード

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

Shift ＋ Caps Lock

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、Shift を押しながら文字を入力します。
固定する文字を切り替える場合は、Shift を押した状態でもう一度 Caps Lock を押します。

▶Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは Fn と組み合わせて実行します。

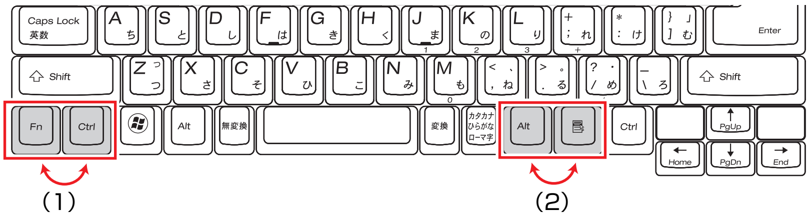
キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ F1	省電力状態に移行します。購入時の設定では、スタンバイに移行します。 p.183 「省電力機能を使う」
Fn ＋ F2	Internet Explorerを起動します。
Fn ＋ F3	Outlook Expressを起動します。
Fn ＋ F5	LCD画面を暗くします。 p.121 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F6	LCD画面を明るくします。 p.121 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F7 LCD/×	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.121 「バックライトの消灯」
Fn ＋ F8 LCD/	外付けの表示装置に接続している場合に、表示装置を切り替えます。 p.130 「モードを切り替えるには」
Fn ＋ F10	スピーカのミュート（消音）の入/切を切り替えます。 p.136 「音量の調節」
Fn ＋ F11 ▼	スピーカの音量を小さくします。 p.136 「音量の調節」
Fn ＋ F12 ▲	スピーカの音量を大きくします。 p.136 「音量の調節」
Fn ＋ NumLk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.77 「数値キー入力モード」
Fn ＋ ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
Fn ＋ Home	行の最初に移動します。＊
Fn ＋ End	行の最後に移動します。＊
Fn ＋ PgUp	前のページに移動します。＊
Fn ＋ PgDn	次のページに移動します。＊

＊ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶入力キーの機能の入れ替え

次の入力キーの機能を入れ替えることができます。

(1) キーボード左下にある Fn とその隣の Ctrl
(2) キーボード右下にある Alt とその隣の 〔アプリケーションキー〕(アプリケーションキー)



キーの機能を入れ替える場合は「BIOS Setupユーティリティ」の「Advanced」メニュー画面で次の項目を変更してください。

- 「Exchange Fn & L-Ctrl key」(Fn と Ctrl の入れ替え)
- 「Exchange R-Alt & Win App key」(Alt と 〔アプリケーションキー〕の入れ替え)

キーの機能の入れ替え	BIOSの設定値
機能を入れ替える場合	Enabled（有効）
機能を入れ替えない場合	Disabled（無効）

購入時は、どちらも「Disabled」に設定されています。

p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

インスタントキー

本機には、5個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーを押すと、キーに割り当てられた機能を実行します。
各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

インスタントキー	機　能
U1キー	割り当てたソフトウェアを起動します。 p.80 「U1キーを割り当てる」
画面サイズ切り替えキー /	画面サイズを切り替えます。キーを押すたびに、画面サイズをワイド表示とノーマル表示に切り替えます。 p.125 「画面サイズを切り替える」
インフォメーションキー	インフォメーションメニューを起動します。 p.53 「インフォメーションメニューを使う」
Bluetoothキー	Bluetooth機能のON/OFFを切り替えます。 p.111 「Bluetooth機能を使う」
タッチパッドキー/×	タッチパッドのON/OFFを切り替えます。 p.74 「タッチパッド機能をOFFにする」

U1キーを割り当てる

Hotkeyユーティリティを使用すると、インスタントキーのU1キーを押したときに、割り当てたソフトウェアを起動できます。

Hotkeyユーティリティのインストール

購入時、Hotkeyユーティリティはインストールされていません。U1キーを使用するには、Hotkeyユーティリティをインストールしてください。

p.245 「Hotkeyユーティリティのインストール」

U1キーの設定

Hotkeyユーティリティをインストールすると、U1キーには「エクスプローラ」が割り当てられます（初期設定）。

制限

- 割り当てたソフトウェアは、通知領域に「Hotkey」アイコンが表示されているときのみ起動します。通知領域に「Hotkey」アイコンがない場合は、スタートメニューからユーティリティを起動してください。
  [スタート]－「すべてのプログラム」－「スタートアップ」－「EPSON Hotkey」
- 簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合は、割り当てたソフトウェアを使用できません。Windowsを再起動してログオンしなおすか、ユーザー切り替え後に再度Hotkeyの設定を行ってください。

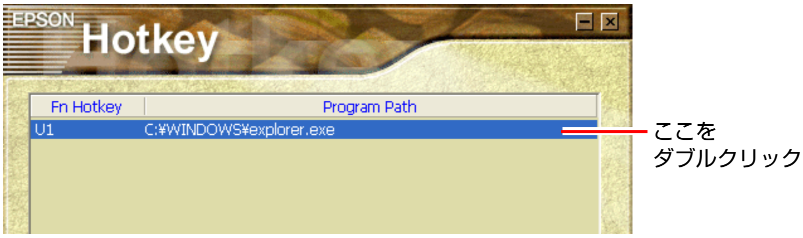
U1キーに割り当てるソフトウェアを変更することができます。ソフトウェアの変更方法は、次のとおりです。

1 **画面右下の通知領域に表示されている「Hotkey」アイコンをダブルクリックします。**



<Hotkeyアイコン>

2 **「Hotkey」画面が表示されたら、U1をダブルクリックします。**



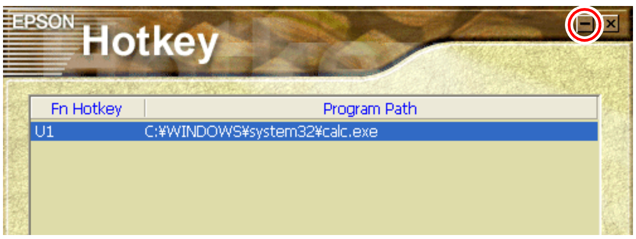
3 **「U1」画面が表示されたら、割り当てたいソフトウェアを選択します。**



4 **「U1」画面の［Apply］をクリックします。**

5 **画面右上のをクリックして画面を閉じます。**

必ずをクリックします。をクリックすると、通知領域から「Hotkey」アイコンが消え、割り当てたソフトウェアが変更されてしまいます。



これで割り当ては完了です。U1キーを押すと、割り当てたソフトウェアが起動します。

HDDを使う

本機にはSerial ATA（S-ATA）仕様のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

制限

- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、p.283 「データのバックアップ」をご覧ください。

▶購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

＜通常＞

HDD	ドライブ（領域）	容量
1台	Cドライブ	1台すべて
2台	Cドライブ	1台目すべて
	Dドライブ	2台目すべて
2台（RAIDモデル）	Cドライブ	RAID内すべて

＜HDD設定変更サービスを選択した場合＞

<table>
<tr><th colspan="2">HDD</th><th>ドライブ（領域）</th><th>容量</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">1台</td><td>Cドライブ</td><td>購入時に選択された容量</td></tr>
<tr><td>Dドライブ</td><td>残り</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2台</td><td rowspan="2">1台目</td><td>Cドライブ</td><td>購入時に選択された容量</td></tr>
<tr><td>Dドライブ</td><td>残り</td></tr>
<tr><td>2台目</td><td>Eドライブ</td><td>すべて</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2台
（RAIDモデル）</td><td rowspan="2">RAID内</td><td>Cドライブ</td><td>購入時に選択された容量</td></tr>
<tr><td>Dドライブ</td><td>残り</td></tr>
</table>

すべてのドライブはNTFSファイルシステムでフォーマットされています。

参考

HDD設定変更サービス

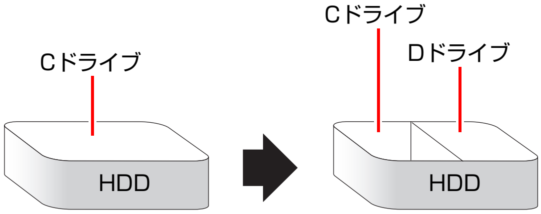
HDD設定変更サービスとは、1台目のHDD領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態で本機をお届けするサービスのことです。

▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

＜1台のHDDを分割する＞

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合はWindowsの再インストールが必要です。詳しくは、p.288「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

RAID機能

本機では、次の場合にRAID機能を使用することができます。

- **購入時、RAIDモデルを選択された場合**
  RAIDモデルの場合、搭載のHDDであらかじめRAIDが構成されています。
- **購入時、同一容量のHDDを2台装着している場合**
  購入時は、RAIDは構成されていません。必要に応じて、HDD2台でRAIDを構成して使用することができます。

RAIDとは、同一容量のHDDを2台組み合わせて使用するシステムのことです。ここでは、RAIDの種類やRAIDの構成・削除方法などについて説明します。

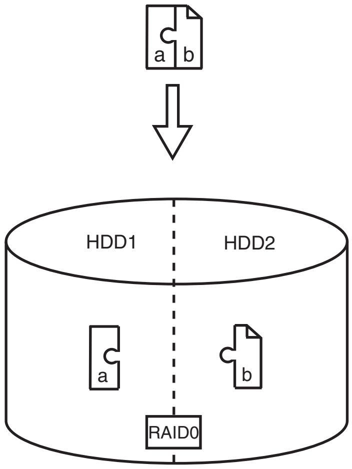
RAIDの種類

本機で使用できるRAIDは、RAID0、RAID1の2種類です。

種類	別名	HDD 必要台数	特徴
RAID0	ストライピング	2台	2台のHDDを1つに結合して使用。大容量のデータを高速に書き込んだり、読み込んだりすることができる。
RAID1	ミラーリング	2台	2台のHDDに同時に同じデータを書き込む。一方のHDDが破損しても、もう一方のHDDからデータを復旧することができる。

RAID0（ストライピング）

RAID0は、複数のHDDを1つに結合し、高速かつ大容量な1台のHDDとして使用するシステムです。ストライピングともいいます。
たとえば120GBのHDD2台でRAID0を作成すると、120GBのHDD2台を240GBのHDD1台として使用することができます。このHDDにデータを書き込むと、データは2台のHDDに分散して書き込まれます。そのため、容量の大きいデータでも高速に書き込みが可能です。



HDD1とHDD2にデータを分散して記録する

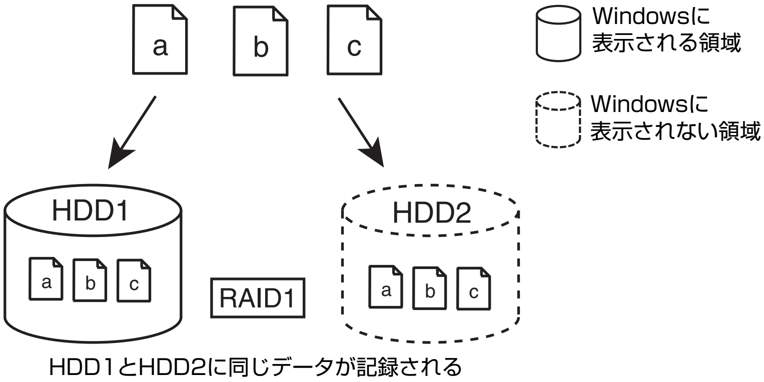
HDDが破損した場合

RAID0では、結合したHDDのうちどれか1台が破損すると、そのほかのHDDに保存されているデータも破損してしまい、データの復旧は不可能となります。
万一の場合に備え、HDDのデータは光ディスクメディアなどのほかのメディアに定期的にバックアップしておくことをおすすめします。

RAID1（ミラーリング）

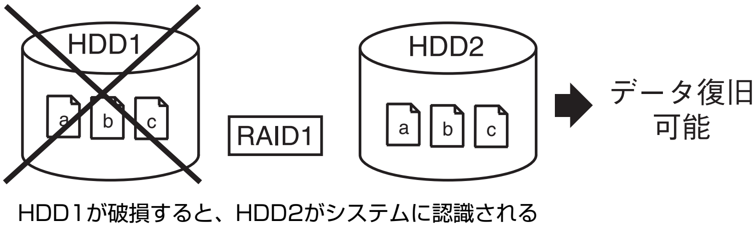
RAID1は、2台のHDDを使用します。片方のHDD（HDD1）にデータを書き込むと、同時にもう片方のHDD（HDD2）にも同じデータが書き込まれるシステムです。ミラーリングともいいます。

データが2台のHDDに保存されるため、片方のHDDが破損しても、もう片方のHDDからデータを復旧することができます。RAID1では2台のHDDのうち1台（HDD1）だけがWindowsに表示されます。



HDDが破損した場合

RAID1では、Windowsに表示されているHDDが破損すると、Windowsで表示されていなかったもう1台のHDDが自動的にWindowsに表示され､データを復旧することができます。



HDD2が破損した場合は、HDD1のみにデータが書き込まれることになります。2台のHDDが同時に破損しないかぎり、データの復旧は可能です。

▶RAIDの構成・削除

RAIDの構成・削除方法を説明します。
RAIDの構成や削除は、「RAID Configuration Utility」を使用して行います。

制限

RAID を構成・削除すると、HDD に登録されているデータはすべて消失します。
RAID を構成・削除する前に、重要なデータはバックアップしてください。

BIOSの設定

RAIDを構成する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面
SATA Operation Mode: RAID

RAIDモデルの場合は、購入時は「RAID」に設定されています。
p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

RAID Configuration Utilityの起動と終了

RAID Configuration Utilityはメインボード上にROMとして搭載されています。
RAID Configuration Utilityの起動、終了方法は次のとおりです。

起動

1 キーボードの Tab 、 Ctrl 、 I の位置を確認します。

手順3では Tab を、手順4では Ctrl + I を、すばやく押す必要があります。

2 本機の電源を入れます。

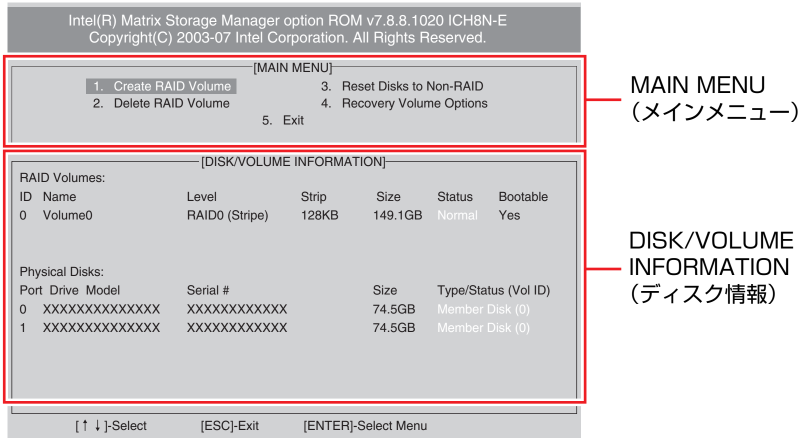
すでに電源が入っている場合は、再起動します。

3 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐに Tab を押します。

Windowsが起動した場合は、再起動して手順3をもう一度実行してください。

4 **黒い画面の中央に、「Press <CTRL-I> to enter Configuration…」と表示されたら、すぐに［Ctrl］+［I］を押します。**

RAID Configuration Utilityが起動します。
Windowsが起動した場合は、再起動して手順3からやりなおしてください。



＜画面はイメージです＞

5 **必要に応じて、RAIDの状態を確認したり、RAIDの構成や削除を行います。**

項目の移動は［↑］［↓］で行います。

p.89 「RAIDを構成する」
p.90 「RAIDを削除する」

終了

1 **「MAIN MENU」項目で「5.Exit」を選択し、［↵］を押します。**

項目の移動は［↑］［↓］で行います。

2 **次の確認メッセージが表示されたら、［Y］を押します。**

Are you sure you want to exit ？（Y/N）

RAID Configuration Utilityが終了します。

RAIDを構成する

本機で構成できるRAIDは、RAID0とRAID1です。
RAIDを構成する手順は、次のとおりです。

制限

RAID を構成すると、HDD に登録されているデータはすべて消失します。RAID を構成する前に、重要なデータはバックアップしてください。

1 **RAID Configuration Utilityを起動します。**

p.88 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

2 「MAIN MENU」項目で 「1.Create RAID Volume」を選択し、[↵]を押します。

3 「CREATE VOLUME MENU」画面が表示されたら、[Name]に任意の名前を入力し、[↵]を押します。

入力した名前は「BIOS Setupユーティリティ」で表示されます。
RAIDの名前を変更しない場合は、そのまま[↵]を押します。

4 「RAID Level」で「RAID0（Stripe)」、「RAID1（Mirror)」のいずれかを選択し、[↵]を押します。

5 「Strip Size」で[↵]を押します。

RAIDの種類によっては、この手順はありません。

6 「Capacity」で[↵]を押します。

7 「Create Volume」が選択されている状態で[↵]を押します。

8 次の確認メッセージが表示されたら、[Y]を押します。

Are you sure you want to create this volume?（Y/N）

RAIDが構成され、「MAIN MENU」画面が表示されます。構成したRAIDの情報を「DISK/VOLUME INFORMATION」で確認することができます。

9 RAID Configuration Utilityを終了します。

p.88 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

これでRAIDの構成は完了です。
続いて、Windowsのインストールを行います。

p.233 「Windows XPのインストール」

RAIDを削除する

RAIDを構成しなおす場合や、RAID機能を使用しない場合は、RAIDを削除します。
RAIDを削除する手順は、次のとおりです。

> **制限**
> RAIDを削除すると、HDDに登録されているデータはすべて消失します。RAIDを削除する前に、重要なデータはバックアップしてください。

1 RAID Configuration Utilityを起動します。

p.88 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

2 「MAIN MENU」項目で「2.Delete RAID Volume」を選択し、[↵]を押します。

3 **「DELETE VOLUME MENU」画面で、削除したいRAIDを選択し、Delete を押します。**

4 **次の確認メッセージが表示されたら、Y を押します。**

Are you sure you want to delete “XXXX”？（Y/N）

RAIDが削除され、「MAIN MENU」画面が表示されます。「DISK/VOLUME INFORMATION」の「RAID Volumes:」でRAIDが削除されたことを確認します。

5 **RAID Configuration Utilityを終了します。**

p.88「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

これで、RAIDの削除は完了です。

BIOSを変更する

RAIDの削除後、RAID機能を使用しない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面
SATA Operation Mode: AHCI

p.207「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶HDDが破損したら（RAID使用時）

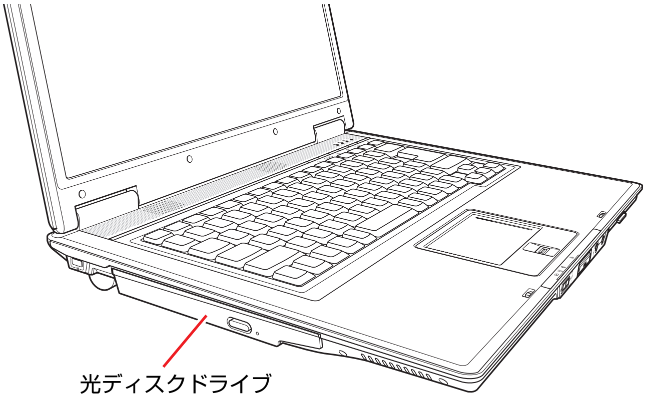
RAID機能使用時にHDDが破損した場合は、次のような状態になります。

- Windowsのデスクトップの右下に「RAIDボリュームの劣化」と表示
- Windowsが起動せず、次のエラーメッセージが表示
  Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key

この場合は、HDDの交換が必要です。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

光ディスクドライブを使う

本機左側面には購入時に選択された光ディスクドライブが搭載されています。
光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。
なお、購入時の構成によっては、光ディスクドライブが搭載されていない場合もあります。外付け光ディスクドライブをお使いの場合は、ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。





光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。



本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証はしていません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

ドライブの機能と使える光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。
お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

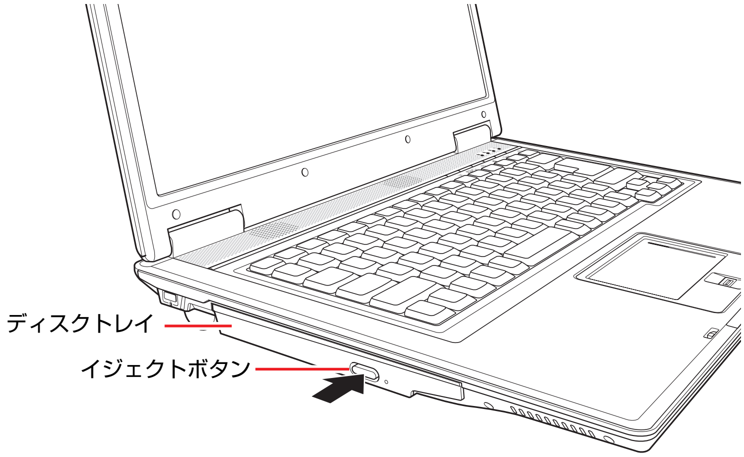
制限

- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、再起動したりしないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

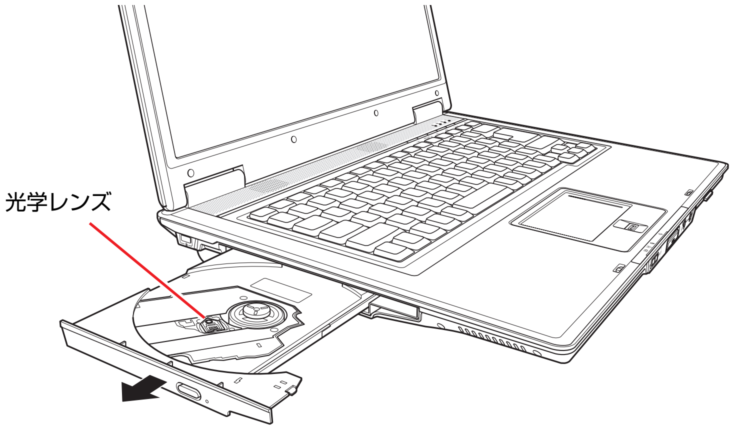
1 **イジェクトボタンを押します。**

ディスクトレイが少し飛び出します。

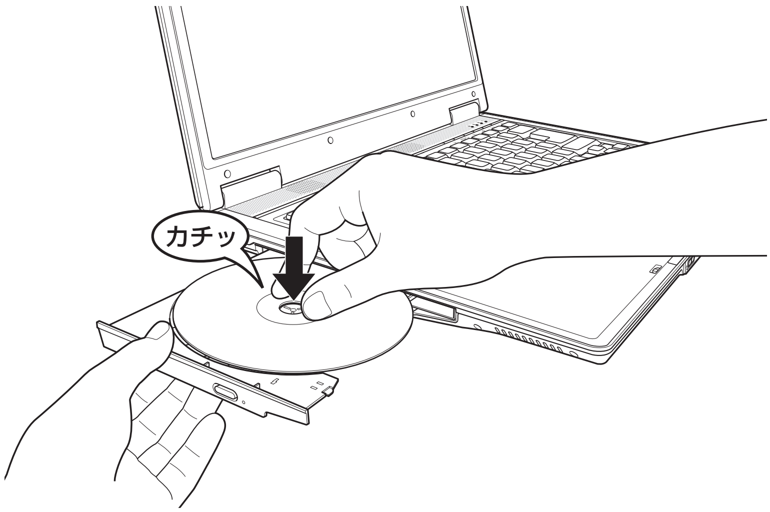


2 **ディスクトレイを静かに引き出します。**

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。
メディアのデータを読めなくなります。



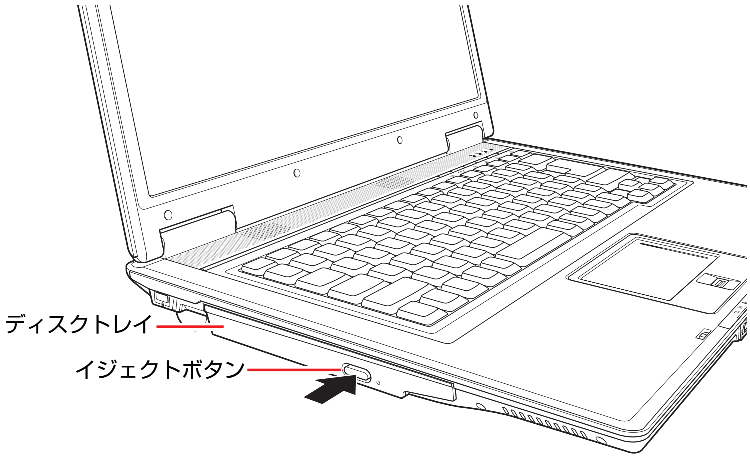
3 **印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。**



4 **ディスクトレイを静かに閉じます。**

取り出し方法

1 光ディスクメディアにアクセスしていないことを確認して、イジェクトボタンを押します。



2 ディスクトレイが少し飛び出したらそのまままっすぐ引き出します。

3 メディアをディスクトレイから取り出します。

4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

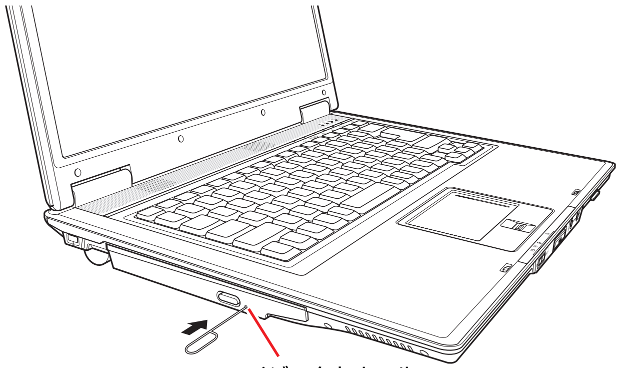
- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

1 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

p.57「電源の切り方」

2 イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。



3 ディスクトレイが少し飛び出したら、そのまま手でまっすぐ引き出します。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

＜DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時＞

DVD再生機能のある光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、DVD VIDEOなどの再生ができます。DVD VIDEOの再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には「WinDVD」を使用します。
WinDVDを起動するには、デスクトップ上の「WinDVD」アイコンをダブルクリックします。



＜WinDVDアイコン＞

WinDVDの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「WinDVD ユーザーズマニュアル」

DVD VIDEO再生時の制限

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。
DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数を調節してみてください。

☞ p.124 「解像度や表示色の変更方法」

▶光ディスクメディアへの書き込み

＜書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時＞

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。
書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。
書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブマニュアル」

制限

作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。

p.99 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- **省電力機能を無効にする**

  メディアへの書き込み時にWindowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。
  書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.186 「時間経過で移行させない」

- **速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ**

  書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
  光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。

  「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

▶Nero 7 Essentialsの使い方

＜書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時＞

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

1　デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



＜Neroアイコン＞

2　Nero 7 Essentials画面が表示されます。



Nero 7 Essentialsの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroユーザーガイド」

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。
InCDの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「InCDユーザーマニュアル」

制限

- InCDで使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- InCDでフォーマットしたメディアは Nero 7 Essentials で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップグレードについて

本機にインストールされているNero 7 Essentialsは、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップ上の「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。



USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが右側面に2個、背面に2個、合計4個搭載されています。
USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

制限

- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB記憶装置を取り外した状態で行い、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
p.217 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

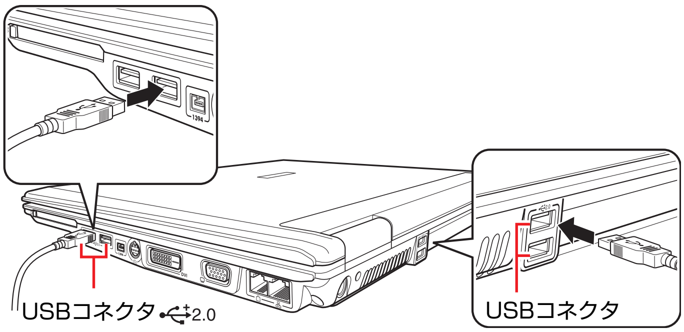
▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は次のとおりです。

1 **USB機器のUSBコネクタを、本機のUSBコネクタ（2.0）に接続します。**



2　USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



＜取り外しアイコン＞

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

参考

接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で［プロパティ］をクリックします。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- **そのまま取り外す**
  「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。
- **USB機器の終了処理をして取り外す**
  「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1　通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

2　表示されたメニューから「（取り外したいUSB機器）－・・・を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



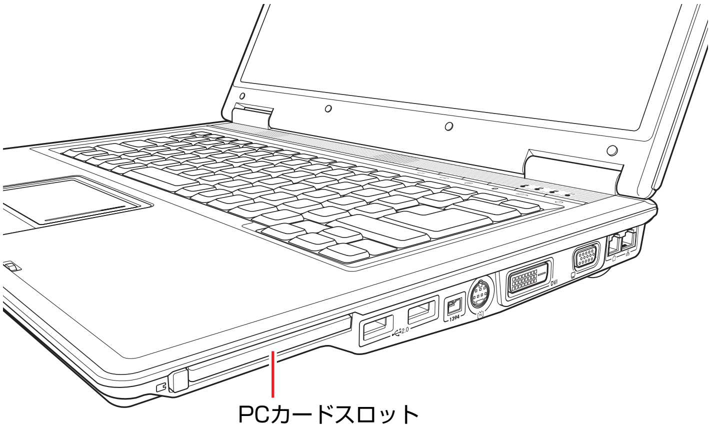
3　「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。

PCカードを使う

本機の右側面には、PCカードスロットが搭載されています。本機では、PC Card Standardに準拠した次のカードを装着することができます。

装着可能なサイズ	仕様
TypeII	1スロット CardBus対応

PCカードの形状によっては装着できないカードがあります。



- FAX モデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.186 「時間経過で移行させない」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴らないFAXモデムカードもあります。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。

2

PCカードのセットと取り外し

制限

- PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力状態でPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

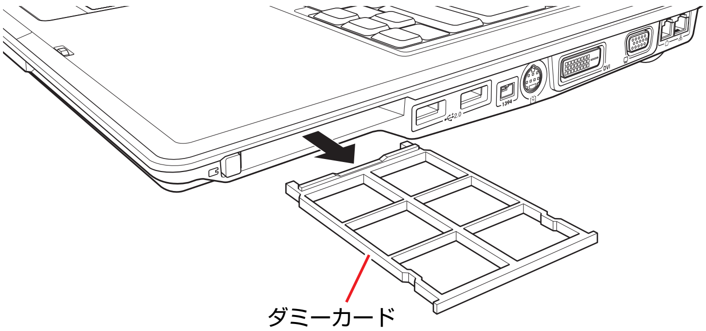
PCカードのセット

PCカードのセット方法は次のとおりです。

1 PCカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

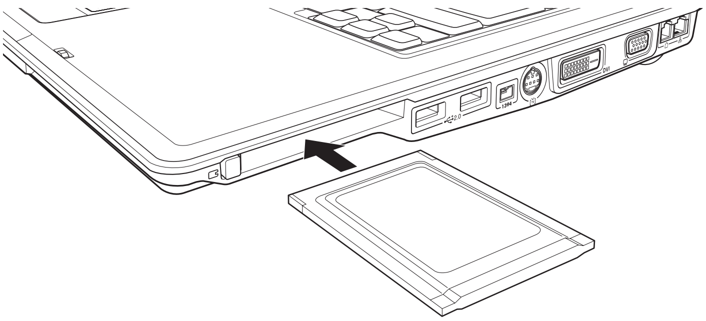
p.105 「PCカードの取り外し」ー手順2～4

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。



2 PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。



3 **コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。**

4 **認識されるとPCカードが使用できます。**

正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



＜取り外しアイコン＞

PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

PCカードの取り外し

PCカードの取り外し方法は、次のとおりです。

> **制限**
> 本機にセットされていた PC カードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1 **PCカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。**

PCカードの終了処理の手順は、次のとおりです。

(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

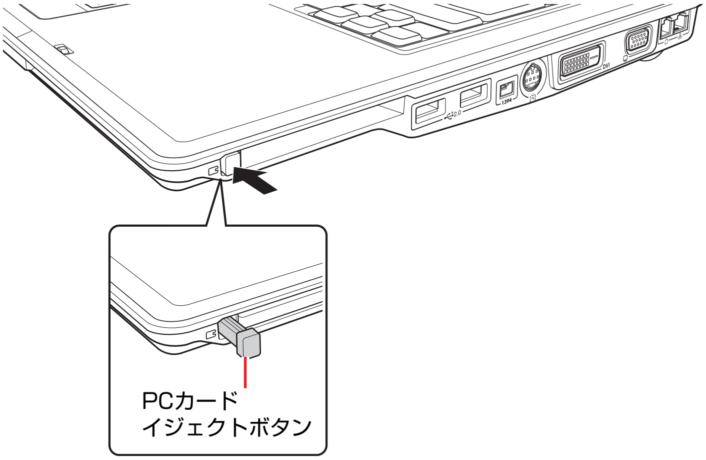
(2) 表示されたメニューから「(取り外したいPCカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう、注意してください。



(3) 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

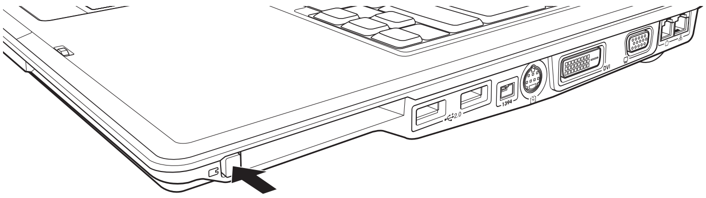
2　PCカードイジェクトボタンを「カチッ」と音がするまで押します。

イジェクトボタンが出てきます。



3　出てきたPCカードイジェクトボタンを再び押し込みます。

PCカードが出ます。

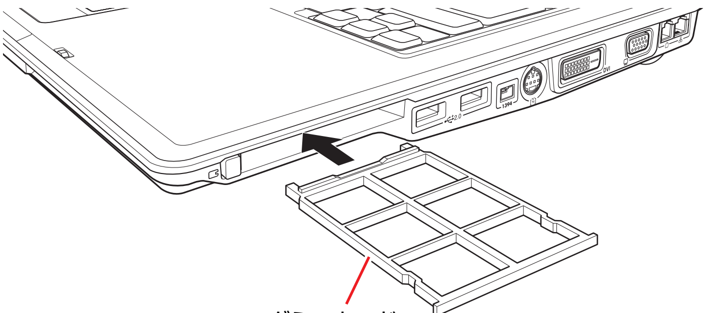


4　出てきたPCカードをまっすぐに引き抜きます。

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

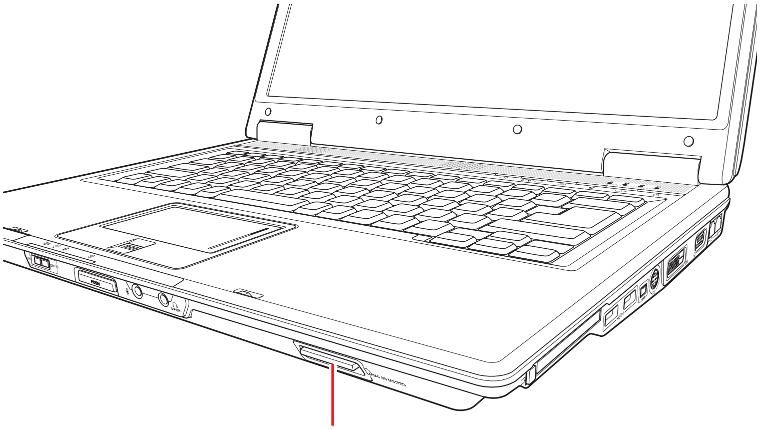
5　ダミーカードをPCカードスロットにセットします。

コンピュータ内部にホコリが入らないように、必ずダミーカードをセットしておいてください。



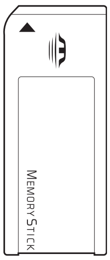
メモリカードを使う

本機前面にはメモリカードスロットが装備されています。メモリカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。



▶本機で使用できるメモリカード

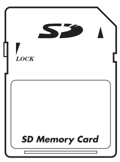
本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカードの3種類です。イラストは、各メモリカード表面のイメージです。



<メモリースティック>



<マルチメディアカード>



<SDメモリーカード>

制限

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックやメモリースティックProの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- メモリカードにアクセス中は、本機の電源を切ったり、メモリカードを抜いたりしないでください。カードのデータが破損するおそれがあります。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.186 「時間経過で移行させない」
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードのセットと取り外し

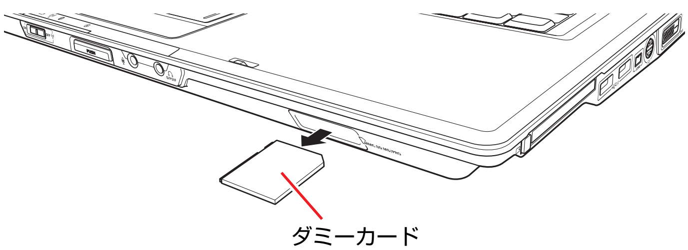
メモリカードを使用する前に、必ず p.108 「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

メモリカードのセット

メモリカードのセット方法は、次のとおりです。

1 メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

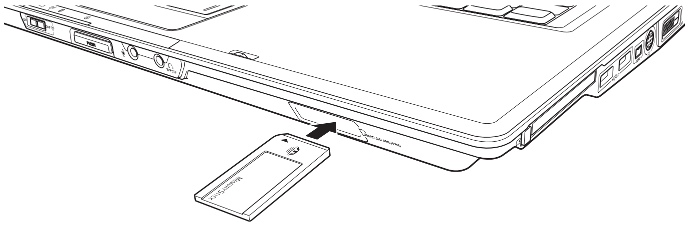
(1) ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押します。
(2) 少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜きます。
ダミーカードはメモリカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。



2　メモリカードの表面を上にしてメモリカードスロットに挿入します。

奥までしっかりと押し込みます。

メモリカードの表面は、p.107「本機で使用できるメモリカード」で確認してください。



3　認識されると、メモリカードが使用できます。

正しくセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



＜取り外しアイコン＞

メモリカードの取り外し

メモリカードの取り外し方法は、次のとおりです。

1　メモリカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。

メモリカードの終了処理の手順は、次のとおりです。

(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

(2) 表示されたメニューから、「(取り外したいメモリカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

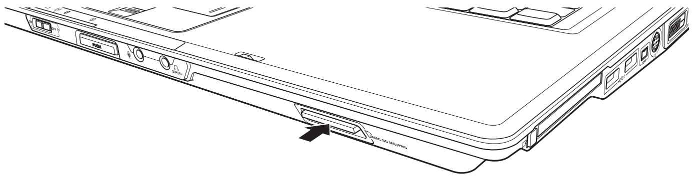
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう、注意してください。



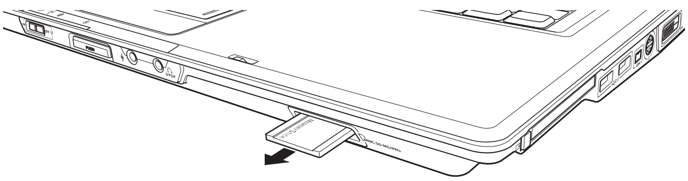
(3)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、メモリカードの終了処理は完了です。

2　メモリカードを「カチッ」と音がするまで押すと、メモリカードが少し出ます。

強く押すと、メモリカードが飛び出すことがあるので注意してください。



3　メモリカードをまっすぐに引き抜きます。



取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリカードをセットしない場合は、ダミーカードをセットしておきます。

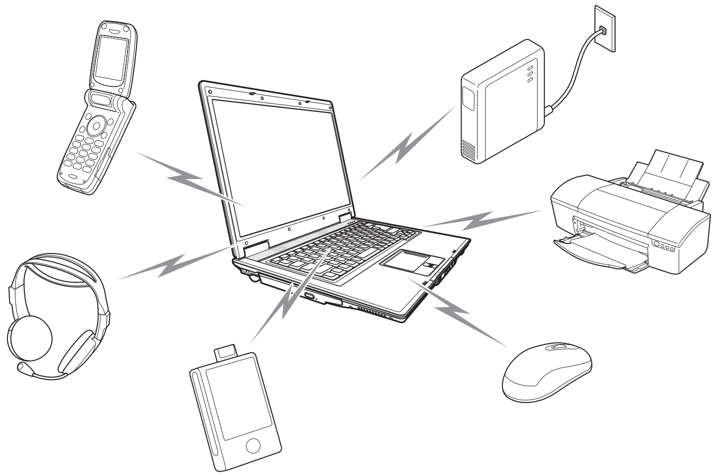
Bluetooth機能を使う

本機には、Bluetooth機能が搭載されています。
Bluetoothとは、無線の通信方式の1つです。ここでは、Bluetooth機能の使い方について説明します。

Bluetooth機能でできること

本機では、Bluetooth機能を使用して、次のようなことができます。

- **Bluetooth対応の周辺機器を使用できます。**
  マウス、プリンタ、カメラ、ステレオヘッドフォン、ヘッドセット、携帯電話、ワイヤレスモデムステーション、アクセスポイントなど
- **Bluetooth機能が搭載されているコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。**



仕様

本機に搭載されているBluetooth機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth標準規格 Ver 2.0 + EDR	2.4GHz

Bluetoothドライバのインストール

購入時にはBluetoothドライバはインストールされていません。Bluetooth機能を使用するには、Bluetoothドライバをインストールします。

p.239「Bluetoothドライバのインストール」

Bluetooth機能の使い方

ここでは、Bluetooth機能の基本的な使用方法を説明します。Bluetooth機能の詳しい使用方法は、次をご覧ください。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「Bluetooth」－「ユーザーズガイド」

▶Bluetooth機能をお使いの前に

警告

- 航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- Bluetooth機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電波に関する注意事項

Bluetooth機能を使用する際は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機のBluetooth機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機のBluetooth機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

- 本機のBluetooth機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解・改造すると法律で罰せられることがあります。

- 2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機のBluetooth機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機のBluetooth機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth機能、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合もありますが、故障ではありません。

通信可能な距離

Bluetoothで通信可能な距離は、10m以内です。Bluetooth通信を行うときは、本機と通信を行う機器を10m以内に設置してください。
推奨される通信距離は3m以内です。

制限

通信可能距離は 10m 以内ですが、通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

通信時の確認事項

Bluetooth機能を使用して通信する際は、次の事項を確認してください。

- 使用する機器がBluetoothに対応していることを確認してください。
- 本機と使用する機器が通信可能な距離にあることを確認してください。
- 本機と使用する機器が接続可能な状態になっていることを確認してください。
- 本機と使用する機器の Bluetooth 機能が有効になっていることを確認してください。
- 本機と複数のBluetooth機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。
- 大容量データを送受信する場合は、途中で通信が途切れることがあります。その場合は、再度送受信してください。

制限

- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態に復帰できない場合があります。
- 簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合は、Bluetooth 機能を使用できません。Windowsを再起動してログオンしなおしてください。

プロファイル

Bluetooth通信を行う場合は、本機と通信する周辺機器が共通のプロファイルに対応している必要があります。
プロファイルとは、機器によって提供される機能のことで、Bluetooth通信を行うための規格です。製品ごとの特長や使用目的に応じて複数のプロファイルが制定されています。
本機が対応しているプロファイルの種類については、次をご覧ください。

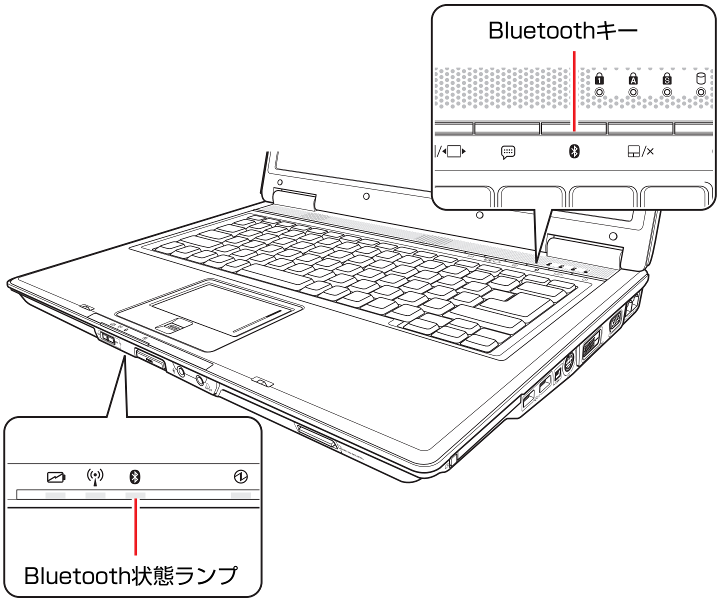
[スタート] ー「すべてのプログラム」ー「Bluetooth」ー「ユーザーズガイド」ー「はじめに」ー「使用できるBluetooth™ワイヤレステクノロジー機器の種類」

▶Bluetooth機能のON/OFF方法

Bluetooth機能のON/OFF方法について説明します。

Bluetooth機能のON/OFF切り替え

Bluetooth機能のON/OFFは、Bluetoothキー（ᛒ）で行います。
購入時、Bluetooth機能はOFFになっています。



Bluetooth機能のON/OFFは、Bluetooth状態ランプで確認できます。

Bluetooth機能	Bluetooth状態ランプ
ON	緑点灯
OFF	消灯

▶Bluetooth対応の周辺機器を使用する

マウスやキーボードなど、Bluetooth対応の周辺機器を使用する方法を説明します。

周辺機器の検出・登録

新規で周辺機器を使用する場合、周辺機器を検出して登録をする必要があります。

参考

Bluetoothパスキー（PINコード）
周辺機器によっては、設定中に、Bluetoothパスキー（PINコード）の入力を促す画面が表示される場合があります。この場合は、周辺機器に添付の取扱説明書を参照の上、パスキーを入力して［OK］をクリックしてください。

周辺機器の登録方法は次のとおりです。

1 本機と周辺機器を10m以内に設置します。

p.114 「通信可能な距離」

2 本機と周辺機器のBluetooth機能を「ON」にします。

p.115 「Bluetooth機能のON/OFF方法」

周辺機器のBluetooth機能をONにする方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

3 周辺機器を検索します。

(1) 通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリックして、「Bluetooth 設定」を選択します。



＜Bluetoothアイコン＞

＜新規で周辺機器を検索する場合＞

「新しい接続の追加ウィザード」が表示されます。

＜すでに本機に登録された周辺機器がある場合＞

「Bluetooth設定」画面が表示されたら、［新しい接続］をクリックして、「新しい接続の追加ウィザード」を表示します。

(2) 「新しい接続の追加ウィザード」画面で「エクスプレスモード」にチェックが付いていることを確認して、［次へ］をクリックします。

「カスタムモード」は、周辺機器が複数の機能（サービス）をサポートしている場合に、使用したい機能を選択することができます。

以降は画面の指示に従って登録を行います。

周辺機器を使用する

登録が完了すると、「Bluetooth設定」の一覧に周辺機器のアイコンが表示され、周辺機器が使用できるようになります。
一度登録を行うと、次回以降は自動的に周辺機器に接続します。

自動的に接続できない場合

「Bluetooth 設定」画面で接続したい周辺機器のアイコンを右クリックし、「接続」を選択して、接続します。

▶コンピュータ同士でBluetooth通信する

本機では、Bluetooth機能を搭載したコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。

データの送信

ここでは、Bluetooth機能を搭載したコンピュータに、本機からデータを送信する方法を説明します。

1. **本機と送信先のコンピュータを10m以内に設置します。**

   p.114 「通信可能な距離」

2. **本機と送信先のコンピュータのBluetooth機能を「ON」にします。**

   p.115 「Bluetooth機能のON/OFF方法」

3　通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリックして、「ワイヤレスファイル送信」を選択します。



＜Bluetoothアイコン＞

送信先のコンピュータが自動的に検出され、「ワイヤレスファイル送信」画面の「送信可能な機器」に名前が表示されます。



＜ワイヤレス送信画面＞

4　「送信可能な機器」から、送信先のコンピュータを選んで、チェックを付けます。

5　[追加] をクリックして、送信するファイルを指定します。

6　[送信] をクリックします。

送信先のコンピュータで、受信許可メッセージが表示されます。表示内容は、送信先のコンピュータのBluetoothユーティリティソフトウェアにより異なります。

7　「ファイル転送が成功しました。」と表示されたら [OK] をクリックします。

これでファイル転送は完了です。

データの受信

本機がBluetooth通信で受信したファイルは、次の場所に保存されます。

通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリック－「Bluetooth情報交換」

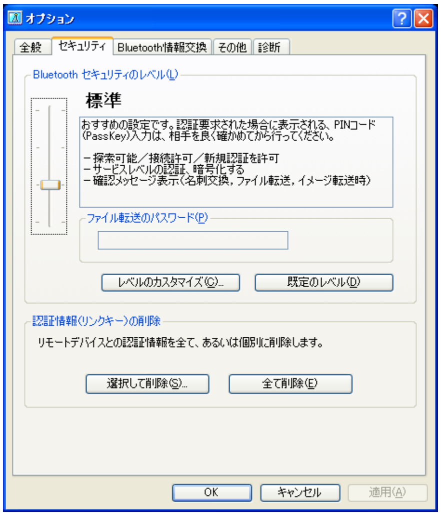
セキュリティを設定する

セキュリティの確保のために、本機をほかのBluetooth機器から検出されないようにしたり、通信内容を暗号化したりする設定ができます。
セキュリティに関する各種設定は、次の画面で行います。

通知領域の「Bluetooth」アイコンを右クリック－「オプション」－「セキュリティ」タブ



＜Bluetoothアイコン＞



Bluetoothユーティリティのセキュリティの詳細は、次をご覧ください。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Bluetooth」－「ユーザーズガイド」－「Bluetoothユーティリティを使ってみよう」－「より高度な使い方」－「他のユーザから機器を検出不能にする」/「通信内容を暗号化する」

画面表示をする

ここでは、本機のLCDユニットでの画面表示について説明します。
本機では、LCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続することもできます。

p.128「外付けディスプレイに表示する」

LCDユニットの仕様

本機では次のどちらかのLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 15.4型　WXGA+　最大解像度　1440×900
- 15.4型　WUXGA　最大解像度　1920×1200

制限

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯または常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

参考

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、WXGA+の場合で全ドットの0.00021%以下、WUXGAの場合で全ドットの0.00012%以下に相当します。

＊「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

本機の副画素数

WXGA+の場合　3,888,000個
WUXGAの場合　6,912,000個

▶LCDユニットの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状　態
Fn ＋ F5 ☀	暗くなります
Fn ＋ F6 ☼	明るくなります

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は、次の操作で行います。

キー操作/LCDユニットの操作	状態
Fn ＋ F7 LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。
LCDユニットを閉じる	バックライトが消灯します。*

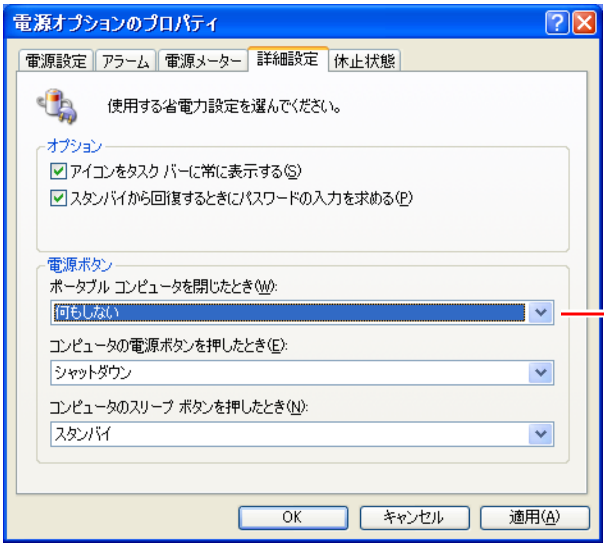
*本機では、LCDユニットを閉じたときの動作を変更できます。

☞ p.122 「LCDユニットを閉じたときの動作」

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときに、スタンバイや休止状態に移るなどの動作を設定できます。
初期値は「何もしない」（バックライトの消灯のみ）です。
設定は次のプロパティ画面から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「詳細設定」タブ



LCDユニットを閉じたときの動作を設定します。

表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度は次のとおりです。表示色は中（16ビット）と最高（32ビット）が選択できます。

解像度	15.4型WXGA+	15.4型WUXGA
800×600	○	○
1024×768	○	○
1280×768＊	○	○
1280×1024	－	○
1400×1050	－	○
1440×900＊	○	－
1600×1200	－	○
1920×1200＊	－	○

＊ワイド表示

ワイド表示以外の解像度を設定すると、画面が縦伸びまたは横伸びしたように見えます。この場合は、画面サイズを切り替えてください。

p.125「画面サイズを切り替える」

参考

画像が正常に再生できない場合は

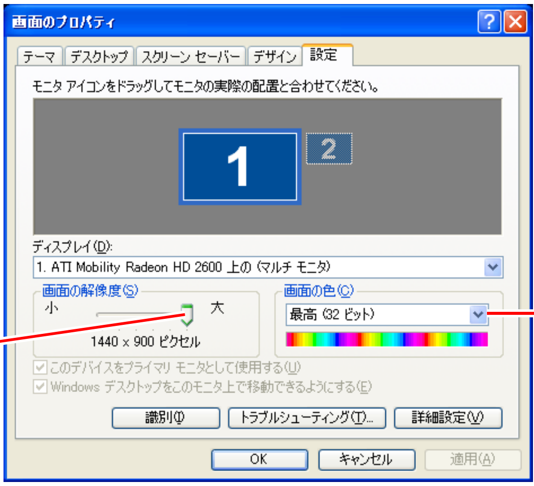
解像度や表示色が高いと、「WinDVD」でDVD VIDEOを再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

解像度や表示色の変更方法

解像度と表示色の変更方法の手順は次のとおりです。

1 [スタート] ―「コントロールパネル」―「デスクトップの表示とテーマ」―「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。



3 項目を変更したら、[適用] をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

参考

セーフモードでの起動

本機のLCD画面で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.278 「セーフモードでの起動」

▶画面サイズを切り替える

本機はワイド液晶ディスプレイを搭載しているため、ワイド表示以外の解像度を設定すると、画面が縦伸びまたは横伸びしたように見えます。この場合は、次の方法で画面表示を切り替えることができます。

> **制限**
> 外付けディスプレイを接続している場合は、画面サイズの切り替えができないことがあります。

- **画面サイズ切り替えキーで切り替える**
  ワンタッチで簡単に画面サイズを切り替えます。

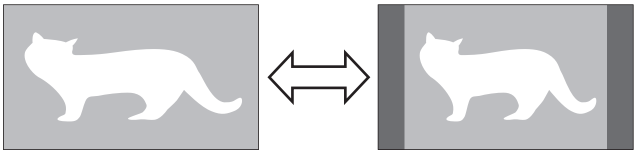
- **ユーティリティで切り替える**
  解像度ごとに表示設定を行いたい場合は、ユーティリティで画面サイズを切り替えます。

画面サイズ切り替えキーで切り替える

画面サイズ切り替えキー（▶◀/◀□▶）を使用すると、簡単に画面サイズを切り替えることができます。



画面サイズ切り替えキーを押すたびに、ワイド表示とノーマル表示に切り替わります。購入時は、ワイド表示に設定されています。



＜ワイド表示＞　　＜ノーマル表示＞

画面サイズを切り替えると、自動的に解像度が次のとおり切り替わります。

画面表示	解像度	
	15.4型WXGA+	15.4型WUXGA
ワイド	1440×900	1920×1200
ノーマル（縦横比4：3）	1024×768	1600×1200

制限

- 画面サイズ切り替えキーで画面サイズを切り替えた後、上記の表以外の解像度に変更したいときは、手動で設定を変更してください。
  p.124 「解像度や表示色の変更方法」
- Windowsを複数のユーザーで使用している場合、ユーザーごとに画面表示の設定（ワイド/ノーマル）を保存することはできません。

ユーティリティで切り替える

ユーティリティでは解像度ごとに、画面サイズを設定できます。
ユーティリティで画面サイズを切り替える方法は次のとおりです。

1　通知領域の「Catalyst Control Center」アイコンを右クリックし、「Catalyst Control Center...」を選択します。

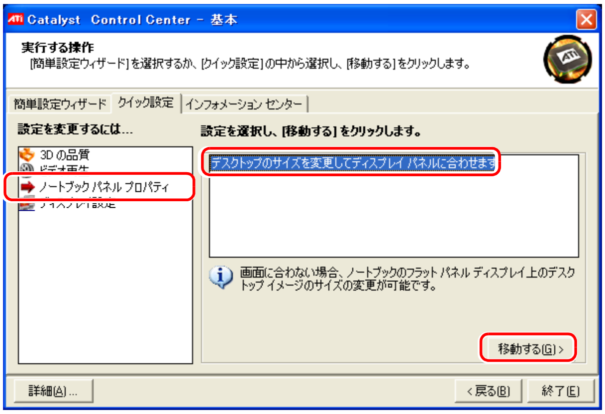
＜Catalyst Control Centerアイコン＞

「ATI Catalyst Control Center」画面が表示された場合は、画面左下の［基本...］をクリックし、次の画面で［はい］をクリックします。

2　「ATI Catalyst Control Centerへようこそ」と表示されたら、「基本の［簡単設定ウィザードとクイック設定］」を選択し、［次へ］をクリックします。

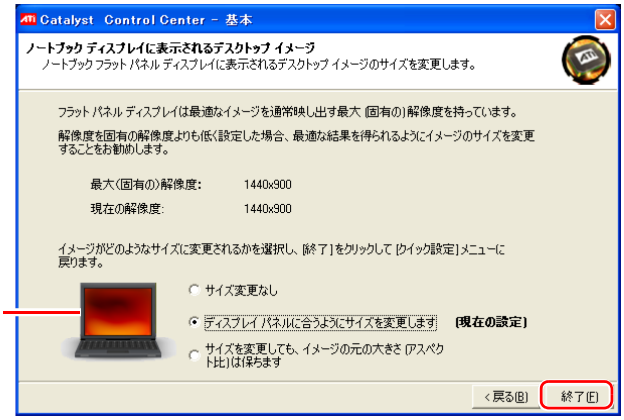
3　「実行する操作」と表示されたら、「クイック設定」タブをクリックします。

4 「ノートブックパネルプロパティ」をクリックし、「デスクトップのサイズを変更してディスプレイパネルに合わせます」が選択されている状態で、［移動する］をクリックします。



5 「ノートブックディスプレイに表示されるデスクトップイメージ」と表示されたら、デスクトップ画面をどのように表示させるか選択し、［終了］をクリックします。

選択した画面イメージがプレビュー表示されます。



画面サイズを切り替えて、次の設定で表示することができます。

- **サイズ変更なし**
  設定した解像度のまま表示します。
- **ディスプレイパネルに合うようにサイズを変更します（購入時の設定）**
  設定した解像度を、LCD画面に合わせて表示します。
- **サイズを変更しても、イメージのもとの大きさ［アスペクト比］は保ちます**
  元の解像度のアスペクト比*を固定したまま画面サイズを変更します。
  ＊ アスペクト比
  画面や画像の縦横比のこと。通常のディスプレイはアスペクト比4:3です。

6 「実行する操作」と表示されたら、［終了］をクリックします。

これで、画面サイズの切り替えは完了です。

外付けディスプレイに表示する

本機に次の表示装置を接続して画面を表示することができます。

- 外付けディスプレイ（デジタルおよびアナログ）
- TV（S-ビデオで接続）

テレビへの表示方法は、p.135 「テレビに表示する」をご覧ください。

ディスプレイの接続

制限

本機にデジタルとアナログのディスプレイを2台接続する場合、表示装置は本機を含め3台ですが、表示できるディスプレイは2台までです。

ディスプレイの接続

本機では、デジタルとアナログの外付けディスプレイを、2台同時に接続することができます。

ディスプレイの接続方法は、次のとおりです。

1　本機と外付けディスプレイの電源を切ります。

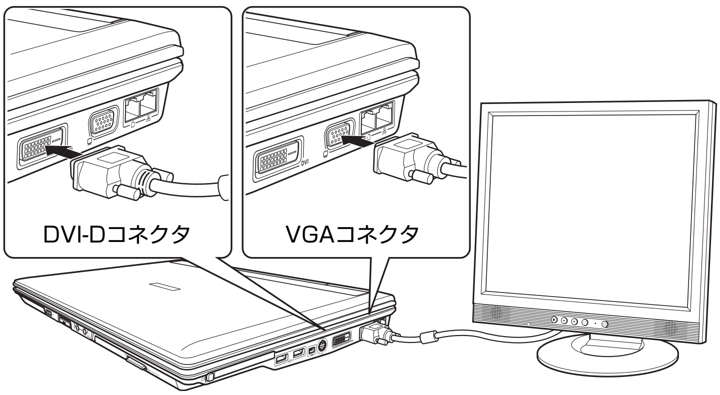
2　外付けディスプレイの接続ケーブルを本機右側面の次のコネクタに接続します。

＜デジタルディスプレイの場合＞

DVI-Dケーブルを、本機のDVI-Dコネクタ（DVI）に接続します。

＜アナログディスプレイの場合＞

VGAケーブルを、本機のVGAコネクタ（）に接続します。



3　外付けディスプレイと本機の電源を入れます。

Fn ＋ F8 （LCD/）を押すと、表示装置の切り替えができます。

参考

外付けディスプレイへの表示を終了する

外付けディスプレイへの表示が終了したら、Windowsを終了後に必ず接続ケーブルを取り外してください。外付けディスプレイの電源が入っていなくても、ケーブルを接続しているだけで自動認識されるため、信号が出力されます。

ビデオプロジェクタへの接続

ビデオプロジェクタは、アナログディスプレイと同様に、本機のVGAコネクタに接続します。

プロジェクタによっては、ほかの方法で接続できる場合があります。詳しくはプロジェクタに添付のマニュアルをご覧ください。

▶表示できるモードの種類

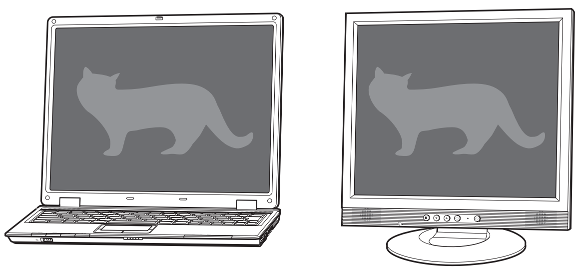
本機で表示できるモードは、次の4種類です。

- **1つのディスプレイモード**

  1つのディスプレイ（LCDユニットのみまたは外付けディスプレイのみ）に表示します。外付けディスプレイが接続されていてもLCD画面のみで表示できます。

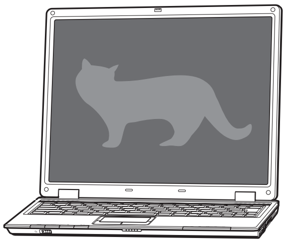
- **クローンモード**

  2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。

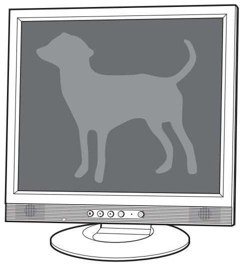


＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

- **拡張デスクトップモード**
  それぞれのディスプレイに対して、個別に解像度を設定することができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。

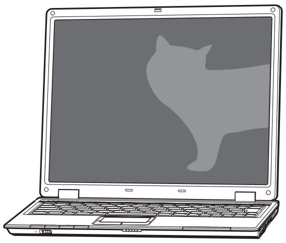


＜LCD画面＞

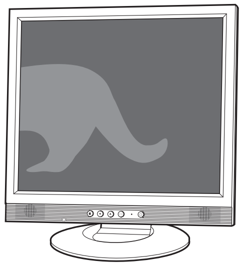


＜外付けディスプレイ＞

- **水平ストレッチモード**
  2つのディスプレイに1つの画面を分割して表示し、1つのディスプレイを使用しているかのように表示されます。



＜LCD画面＞



＜外付けディスプレイ＞

▶モードを切り替えるには

画面のモードの切り替え方法は、次の2つの方法があります。

- **キーボードで操作する**
  キーボードで簡単に「1つのディスプレイモード」と「クローンモード」の切り替えができます。
- **ユーティリティから操作する**
  すべてのモードの切り替えが可能です。

本機に外付けディスプレイを2台（デジタルとアナログ）接続している場合、表示装置は本機を含め3台になりますが、表示できるディスプレイは2台までです。

キーボードで操作する場合

[Fn]＋[F8]（LCD/□）を押して、表示装置を切り替えます。
本機で表示できる組み合わせは次のとおりです。接続している表示装置を自動的に認識して切り替えます。

組み合わせ	表示内容
LCD Only	LCD画面のみに表示
CRT Only	アナログディスプレイのみに表示
LCD+CRT	LCD画面とアナログディスプレイに同じ画面を表示（クローンモード）
DVI Only	デジタルディスプレイのみに表示
LCD+DVI	LCD画面とデジタルディスプレイに同じ画面を表示（クローンモード）
CRT+DVI	アナログディスプレイとデジタルディスプレイに同じ画面を表示（クローンモード）

制限

- クローンモードで表示する場合に、解像度の異なる2つの表示装置を選択したときは、低い方の解像度で表示されます。
- 「拡張デスクトップ モード」や「水平ストレッチ モード」で表示している場合、キーボードでのモード切り替えはできません。ユーティリティで切り替えてください。
  p.131 「ユーティリティから操作する場合」
- 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。

ユーティリティから操作する場合

ユーティリティでは、表示装置の切り替え、表示モードの設定や外付けディスプレイの解像度の設定などを行えます。

1 **本機に外付けディスプレイが接続されていることを確認し、通知領域の「Catalyst Control Center」アイコンを右クリックし、「Catalyst Control Center...」を選択します。**

<Catalyst Control Centerアイコン>

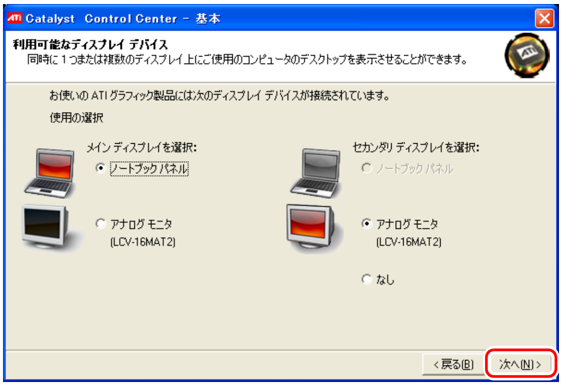
「ATI Catalyst Control Center」画面が表示された場合は、画面左下の［基本...］をクリックし、次の画面で［はい］をクリックします。

2 **「ATI Catalyst Control Centerへようこそ」と表示されたら、「基本の［簡単設定ウィザードとクイック設定］」を選択し、［次へ］をクリックします。**

3 **「実行する操作」と表示されたら、「ディスプレイ設定を設定します」が選択されているのを確認して、[移動する]をクリックします。**

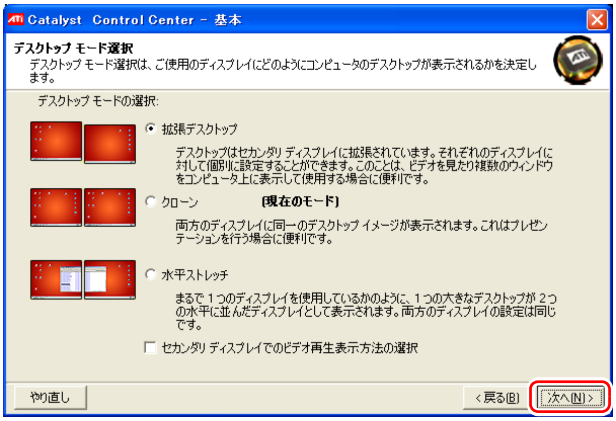
4 **「利用可能なディスプレイ デバイス」と表示されたら、メインディスプレイを選択し、[次へ]をクリックします。**

拡張デスクトップモードまたは水平ストレッチモードの場合、「メインディスプレイ」側に[スタート]メニュー(画面左側)が表示されます。



5 **「デスクトップモード選択」と表示されたら、モードを選択し、[次へ]をクリックします。**

p.129「表示できるモードの種類」



6 **「ディスプレイマネージャー通知」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。**

表示されて15秒以内に[はい]をクリックしないと、設定は反映されません。

7 **デスクトップの設定をします。**

<拡張デスクトップモードを選択した場合>

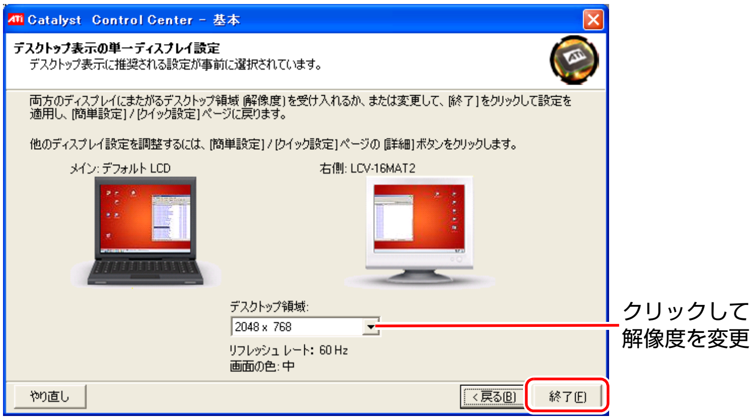
(1)「デスクトップ表示の単一ディスプレイ設定」と表示された画面で、解像度を変更する場合は変更し、［次へ］をクリックします。



(2)「拡張デスクトップ ディスプレイ構成」と表示された画面で、ディスプレイ上の配置を設定する場合は、画面メッセージに従い設定し、［終了］をクリックします。

<クローンモードまたは水平ストレッチモードを選択した場合>

(1)「デスクトップ表示の単一ディスプレイ設定」と表示された画面で、解像度を変更する場合は変更し、［終了］をクリックします。



8 **「実行する操作」と表示された画面が表示されたら、［終了］をクリックします。**

これで、設定は完了です。

▶外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。

- **解像度**　ピクセル（横×縦）

  800×600
  1024×768
  1280×768＊
  1280×1024
  1400×1050
  1440×900＊
  1600×1200
  1680×1050＊
  1920×1080＊
  1920×1200＊

  ＊ワイド表示

- **表示色**

  中（16ビット）/ 最高（32ビット）

制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラの出力解像度です。表示モードや接続する外付けディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- クローンモードの場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピュータ側の最大解像度と外付けディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を調節してみてください。

▶テレビに表示する

S端子ケーブルを使用して、本機とテレビを接続すると、本機の画像をテレビに表示できます。S端子ケーブルは市販のものをご利用ください。

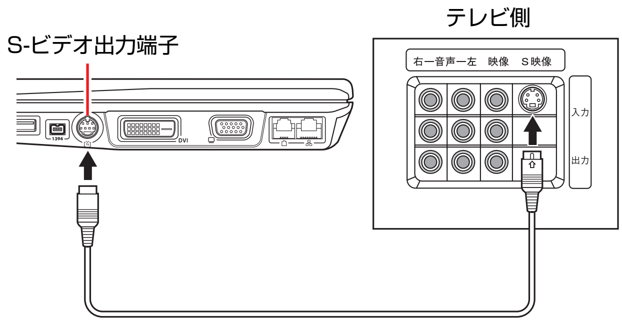
制限

S-ビデオ出力端子から出力される信号は、一般のテレビで表示可能に変換したNTSC 信号です。NTSC 信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログ RGB 信号ほどきめ細かい表示を行うことはできません。

接続

1 **テレビと本機の電源を切ります。**

2 **市販のＳ端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ（Ｓ端子）と、本機右側面のS-ビデオ出力端子（[TV]）を接続します。**



3 **テレビと本機の電源を入れます。**

表示の切り替え方法

キーボードの Fn ＋ F8 （LCD/□）を押して、表示装置を切り替えます。本機で表示できる組み合わせは次のとおりです。接続している表示装置を自動的に認識して切り替えます。

組み合わせ	表示内容
TV Only	テレビ画面のみに表示
LCD+TV	LCD画面とテレビに同じ画面を表示（クローンモード）
LCD Only	LCD画面のみに表示

制限

- テレビとの組み合わせで設定できる解像度は1024×768までです。LCD画面で1024×768より高い解像度を設定していた場合にテレビに切り替えると、1024×768の解像度で設定されます。
- テレビに表示を切り替えて解像度が変更された場合に、再びLCD画面に表示を戻しても、解像度は自動的に元に戻りません。

サウンド機能を使う

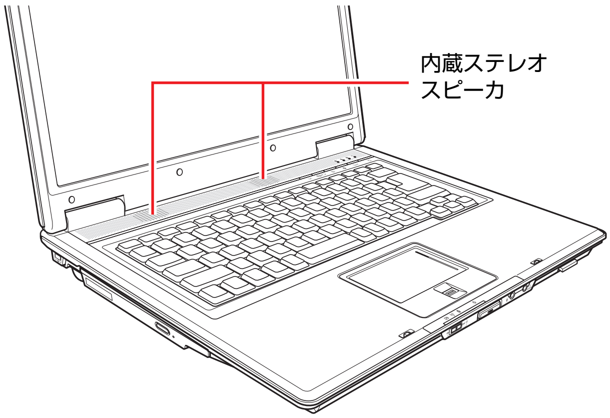
本機には、サウンド機能が搭載されています。

注意

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵ステレオスピーカ

本機は、内蔵ステレオスピーカを搭載し、音源からの音声を出力することができます。



音量の調節

スピーカの音量は次のキーを押して調整します。

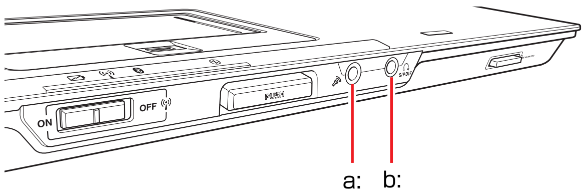
キー操作	状　態
Fn ＋ F10　🔊/🔈	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F11　▼🔈	音量が小さくなります。
Fn ＋ F12　▲🔊	音量が大きくなります。

制限

PC カードやソフトウェアによっては、キー操作で音量調節ができないものがあります。詳しくは、PC カードやソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

マイクなどの接続

本機前面には、オーディオ機器やマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は次のとおりです。



a: マイク入力コネクタ

マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

b: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ

ヘッドフォンやスピーカを接続した場合はヘッドフォンコネクタとして機能します。

MDデッキなどの光デジタルオーディオ機器と接続して設定を行うと、光デジタルオーディオ出力コネクタとして機能します。

参考

ヘッドフォンやスピーカの接続

ヘッドフォンやスピーカを接続すると内蔵ステレオスピーカの機能は自動的に無効になります。

音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「エンターテイメント」－「サウンドレコーダー」

制限

サウンドレコーダーでは、最長 60 秒しか録音することができません。
長時間の録音を行うには、別途ソフトウェアが必要です。

マイク使用時の設定

本機にマイクを接続して録音する場合、音量の調節を行っても音が小さいときには、次の設定を行ってください。

1. **［スタート］－「コントロールパネル」－「サウンド、音声、およびオーディオ デバイス」－「サウンドとオーディオ デバイス」をクリックして、「サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ」画面を開きます。**
2. **［オーディオ］タブ－「録音」項目の［音量］をクリックします。**
3. **「録音コントロール」画面で「マイクボリューム」項目の［選択］にチェックを付け、音量を調節します。**
4. **［オプション］メニュー－［トーン調整］をクリックします。**
5. **「マイクボリューム」項目－［トーン］をクリックし、「1 マイク ブースト」項目にチェックが付いていることを確認します。**
   これで設定は完了です。

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果やSP/ DIF出力などの設定ができます。
サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。



<サウンドユーティリティアイコン>

次の画面が表示されます。



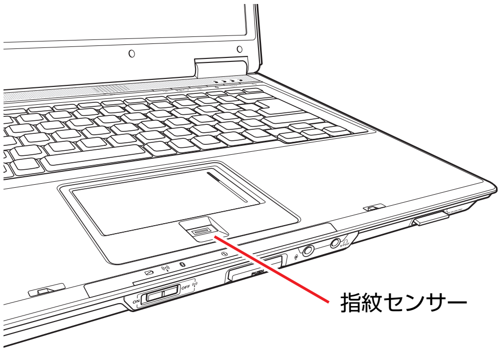
設定項目を選択します。

制限

Bluetoothヘッドフォンを使用する場合はサウンドユーティリティの音響効果が機能しない（有効にならない）場合があります。サウンド機能は通常通り使用できます。

指紋認証機能を使う

本機は指紋認証機能を搭載しています。この機能を使うと、パスワードの代わりに指紋でWindowsやWebページにログオンしたり、ソフトウェアを起動したりすることができます。





- 本機の指紋認証機能は、PBA機能（Windows起動前のBIOS認証機能）に対応していません。BIOSのパスワード入力の代わりを、指紋認証で行うことはできません。
- 一部のブラウザでは指紋認証機能が使用できないことがあります。
- 指紋認証機能は100%の完全な本人認証を保証するものではありません。
- 指紋認証機能を使用したことで発生したいかなる損害についても、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

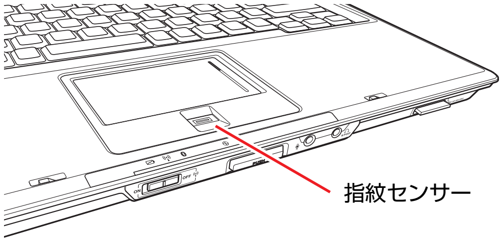
▶指紋認証機能でできること

指紋認証機能では、次のようなことができます。

- Windows指紋ログオン
  アカウントやパスワードを入力する代わりに、指紋認証でWindowsにログオンできます。
- パスワードバンク（Password Bank）
  登録したWebページやダイアログにアクセスした際、ユーザーIDやパスワードを入力する代わりに、指紋認証でログオンできます。
- File Protection
  指紋認証を使用して、ファイルを暗号化してロックしたり、ファイルの暗号化を解除したりできます。

▶指紋センサー

指紋は、指紋センサーで読み取ります。指紋センサーを使用するときは、次の注意事項をよくお読みください。



指紋センサー使用時の注意事項

指紋センサー使用時は、次の注意事項を必ず守ってください。

- 指紋センサーの表面を、硬いものや先の尖ったもの、爪などで引っかかないでください。
  センサー表面に傷が付き、センサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 汚れた指で指紋センサーを触らないでください。
  センサー表面に汚れが付き、センサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

指紋読み取り時の注意事項

登録に使う指が次のような状態の場合、指紋の読み取りができないことがあります。その場合は、対処を行ってください。

- 濡れている
  水分を拭き取ってください。

- 非常に乾燥している
  ハンドクリームを塗るなどして保湿してください。

- 汚れている、泥・油などで着色している
  汚れや着色を洗い落としてください。

- シワが多い、ザラザラしている、傷がある、登録したときの指紋から著しく変化している
  違う指で再登録を行ってください。

対処を行っても、指紋情報が少ないなどの理由で指紋を登録できない場合があります。

お手入れ

次のような場合は、指紋センサーを、乾いた柔らかい布で拭いてください。

- 指紋センサー表面に汚れや着色、湿りがある
- 指紋の読み取りに頻繁に失敗する

指紋認証機能を使用できるようになるまでの流れ

指紋認証機能を使用できるようになるまでの流れは、次のとおりです。

指紋認証ユーティリティのインストール p.142

↓

指紋の登録 p.142

↓

指紋認証機能を使う p.145

指紋認証ユーティリティのインストール

指紋認証機能の設定には、「指紋認証ユーティリティ」を使用します。購入時、指紋認証ユーティリティはインストールされていません。指紋認証ユーティリティをインストールしてください。インストール方法は、p.244「指紋認証ユーティリティのインストール」をご覧ください。

指紋の登録

指紋の登録方法は、次のとおりです。指をケガした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に備えて、2本以上の指紋を登録してください。

1 **通知領域の「VitaKey」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「System Wizard」をクリックします。**



＜VitaKeyアイコン＞

2 **「ようこそ」画面が表示されたら、［Next］をクリックします。**

3 **画面が表示されたら、「新しいユーザーデータファイルの作成」にチェックが付いていることを確認して［Next］をクリックします。**

4 **パスワードを入力する画面が表示されたら、パスワードを入力します。**

このパスワードはWindowsログオン時や指紋認証ユーティリティの設定に使用するパスワードです。指をケガした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に使用します。絶対に忘れないようにしてください。

＜Windowsのパスワードを設定している場合＞

「コンピュータのパスワード」にWindowsにログオンするときのパスワードを入力して［Next］をクリックします。

＜Windowsのパスワードを設定していない場合＞

「新しいパスワードの入力」と「パスワードの確認」にパスワードを入力して［Next］をクリックします。このパスワードがWindowsのパスワードになります。

5 **指紋を登録します。「指紋の登録を行う指を選んでください」と表示されたら、 指紋を登録したい指をクリックして選択します。**



6 **「指紋認証デバイスで指紋入力を行ってください」と表示されたら、登録する指の指紋を、指紋センサーで読み取ります。**

指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。

数回読み取りに成功して、指紋の特徴が十分認識されると、「指紋登録を続けますか又は登録された指紋を削除しますか」と表示されます。

※ をクリックすると、指紋センサーで指紋を読み取る方法を確認できます。

7 **引き続き別の指を選択して、手順5・6を繰り返して指紋を登録します。**

指をケガした場合など、指紋の読み取りが困難な場合に備えて、2本以上の指紋を登録してください。

8 **2本以上の指紋を登録したら［Next］をクリックします。**

9 **「ユーザーデータファイルのバックアップ」と表示されたら、ユーザーデータファイルの保存場所を指定して［Next］をクリックします。**

パスワードバンクの設定をユーザーデータファイルにバックアップします。

10 **「バックアップは正常に行われました。」と表示されたら［OK］をクリックします。**

11 **「System Wizardセットアップが完了します。」と表示されたら、［Finish］をクリックします。**

これで指紋の登録は完了です。

指紋を登録すると、Windows起動時に指紋ログオンができるようになります。
詳しくは、p.145 「Windows指紋ログオン」をご覧ください。

指紋の追加登録・削除

指紋の追加登録・削除方法は次のとおりです。必要に応じて作業を行ってください。

1 **画面右下の通知領域の「VitaKey」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「System Settings」をクリックします。**

2 **「Authentication」画面が表示されたら、本人確認のために指紋センサーで登録済の指紋を読み取ります。**

指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。

3 **「System Settings」画面が表示されたら、画面左上の「Fingerprint Management」ボタンをクリックします。**

4 **「指紋登録を続けますか又は登録された指紋を削除しますか」と表示されたら、指紋を登録または削除したい指をクリックして選択します。**

すでに登録されている指は赤く表示されます。

＜指紋を追加登録するとき＞

(1)「指紋認証デバイスで指紋入力を行ってください」と表示されたら、指紋を登録します。

p.142 「指紋の登録」手順6

＜登録した指紋を削除するとき＞

(1)「削除しますか」と表示されたら［Yes］をクリックします。

5 **[OK]をクリックします。**

これで、指紋の追加登録・削除は完了です。

▶指紋認証機能を使用する

指紋を登録すると、次の機能を使用できます。

Windows指紋ログオン

ユーザーアカウントやパスワードを入力する代わりに、指紋でWindowsにログオンできるようになります。
Windows指紋ログオンの手順は次のとおりです。

1 **電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。**

2 **Windowsログオン画面が表示されたら、指紋センサーで指紋を読み取ります。**

指を指紋センサーにしっかりと押し付けながら、手前にスライドしてください。認証に成功すると、Windowsが起動します。

参考

パスワード入力でWindowsにログオンする
指紋が認証されにくい場合や、指にケガをした場合は、Windowsのパスワードを入力してWindowsにログオンしてください。

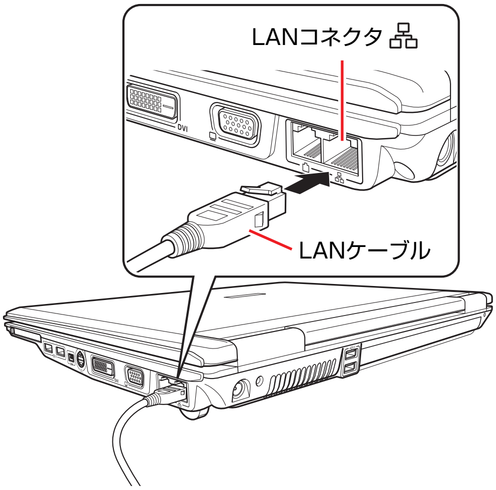
そのほかの機能

「パスワードバンク」や「File Protection」の使用方法は、指紋認証ユーティリティのヘルプをご覧ください。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「VitaKey」－「AC5022」－「Online Help」

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機には、1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tに対応したネットワーク機能（有線LAN）が搭載されています。ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。
ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、本機右側面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。



▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する
  - ・省電力状態に移行しないように設定する
    p.186 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能（有線LAN）では、リピータ・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、p.166「インターネットに接続するには」をご覧ください。

主な機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANを使用すると、電源切断時やスタンバイ、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsをインストールすることができます。

無線LANを使う

無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。
本機には無線LANアダプタが内蔵されています。

▶対応規格

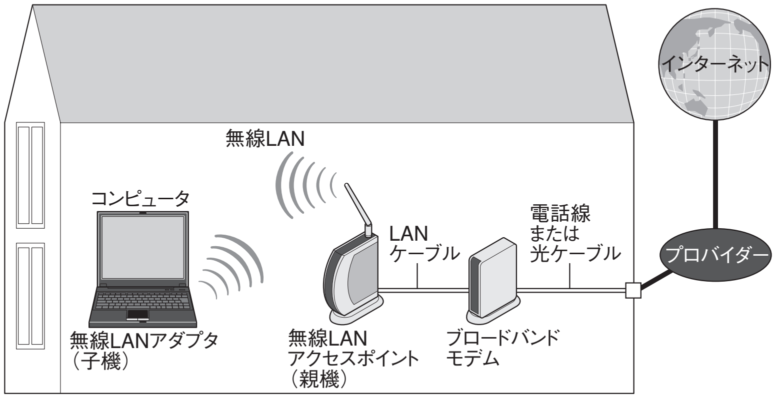
本機に内蔵されている無線LANアダプタは、次の規格に対応しています。

- IEEE802.11a（W52/W53/W56/J52）/b/g
- IEEE802.11n ドラフト2.0準拠*

*「IEEE802.11n ドラフト2.0準拠」は、ほかのIEEE802.11n対応製品との接続性を保証するものではありません。
IEEE802.11n対応のワイヤレスブロードバンドルータであっても、IEEE802.11n ドラフト2.0規格での接続ができない場合があります。

▶無線LANの概要

無線LANの概要を図で表すと、次のようになります（図は一例です）。



無線LANの用語一覧

無線LAN機器のマニュアルにより、使用している用語が本書と異なる場合があります。下記の用語一覧を参考にしてください。

本書での表記	別名
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント	親機、ワイヤレスLANステーション、アクセスポイント、各社の製品名称
無線LANアダプタ	子機、ワイヤレスステーション、無線LAN端末、無線LANクライアント
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠蔽、SSIDを見せない設定、SSIDマスクビーコン、SSIDステルス、ステルスAP、ステルス機能、ANY接続拒否
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限

2

▶無線LAN使用時の注意事項

無線LANを使用する際は、次の注意事項をよくお読みください。

警告

- 無線LAN機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線LAN機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する
  - ・省電力状態に移行しないように設定する
    p.186 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートには対応していません。

電波に関する注意事項

無線LANを使用する際は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- IEEE802.11a、IEEE802.11n ドラフト2.0は、電波法の規定により屋外では使用できません。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解/改造する
  - 本機の裏面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

- IEEE802.11b/g、IEEE802.11n ドラフト2.0を使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

▶無線LAN機能のON/OFF方法

無線LAN機能のON/OFF方法について説明します。

警告

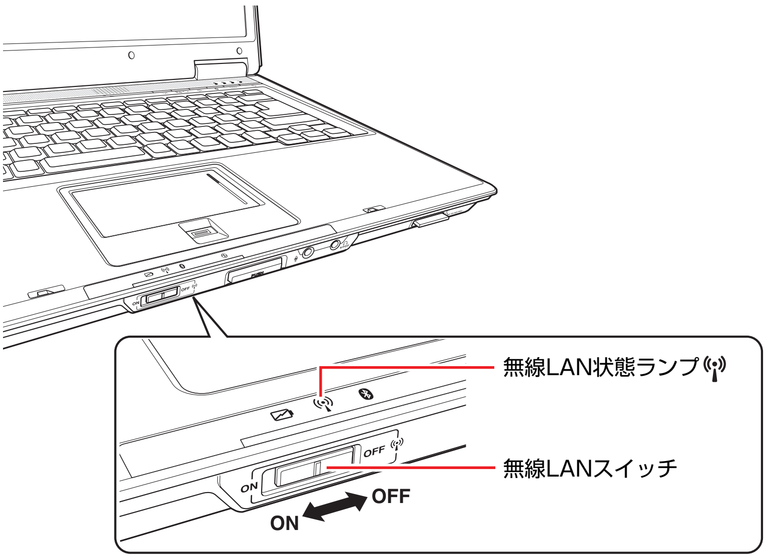
無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

制限

- 有線LANを使用する場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。
- バッテリのみで本機を使用している場合、無線LAN機能がONになっていると、バッテリ駆動時間が短くなります。無線LANを使用しない場合は、無線LAN機能をOFFにしてください。

無線LAN機能のON/OFF切り替え

無線LAN機能のON/OFF切り替えは、無線LANスイッチで行います。
購入時、無線LAN機能はOFFになっています。



無線LAN機能のON/OFFは、無線LAN状態ランプで確認できます。

無線LAN機能	無線LAN状態ランプ
ON	点灯
OFF	消灯

▶無線LAN接続の設定をする

ここでは無線LANアクセスポイント（以降、アクセスポイント）と本機を無線でつなげる方法（無線LAN接続方法）について説明します。
インターネットへの接続は、無線LAN接続完了後に、プロバイダから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

無線LAN接続の設定の流れは、次のとおりです。

無線LAN接続に必要な機器を用意する p.153

⬇

アクセスポイントにセキュリティ設定する p.154

⬇

本機をアクセスポイントに接続する p.156

⬇

無線LANが使用できるようになる

参考

アクセスポイントのマニュアルに従って接続する
アクセスポイントによっては、アクセスポイントに添付のマニュアルの記載に従って設定すると、簡単に無線LAN接続をすることができます。
まずは、アクセスポイントに添付のマニュアルをご覧ください。

無線LAN接続に必要な機器を用意する

無線LAN接続に必要な機器を用意します。

- 無線LANアクセスポイント
  本機と無線で通信するための機器です。本機の対応規格に合ったものを購入してください。
  アクセスポイントにはルータ付きとルータ無しがあります。接続するブロードバンドモデムにルータ機能がない場合は、ルータ付きを選択します。
- ブロードバンドモデム（ADSL用や光ファイバー用の通信装置）
  インターネットに接続する場合に必要です。多くの場合、プロバイダと契約すると貸与されます。
- LANケーブル
  ブロードバンドモデムとアクセスポイント、アクセスポイントと本機を接続するのに使用します。

アクセスポイントにセキュリティ設定する

無線LANは電波を使用して通信するため、第三者に侵入されたり、通信データを盗み見されたりする可能性があります。また、他人のアクセスポイントに誤って本機を接続してしまう可能性もあります。これらのことを防ぐため、セキュリティ設定を行います。
セキュリティ設定はアクセスポイントのマニュアルを参照して行います。

1 **本機とアクセスポイントをLANケーブルでつなぎます。**

2 **すでにインターネットに接続している場合は、ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを一旦抜いておきます。**

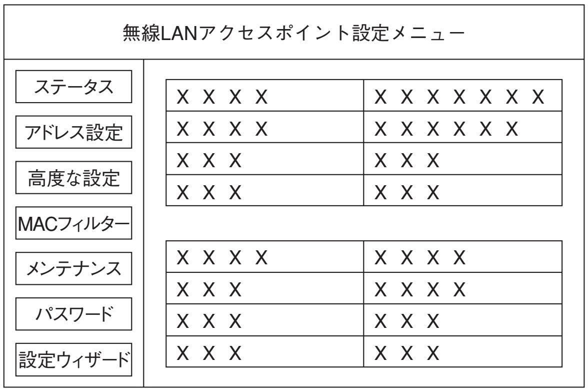
次の手順でファイアウォールを無効にするため、セキュリティが確保されなくなります。インターネット接続している場合は、必ず電話線や光ケーブルを抜いてください。

3 **本機のファイアウォールを一旦無効に設定します。**

ファイアウォールが有効になっていると、無線LANの設定が正常に行えないことがあります。
設定方法は、p.174 「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』をご覧ください。

4 **アクセスポイントの電源を入れます。**

5 **アクセスポイントのマニュアルを参照し、本機でアクセスポイントの設定画面を開きます。**



<イメージ>

6　アクセスポイントのマニュアルに従って、次のセキュリティ設定を行います。

これは最低限行っていただきたいセキュリティ設定です。

- **SSIDの変更**
  誤って他人のアクセスポイントに本機を接続しないように、自分のアクセスポイントのSSID（名前）を自分だけがわかる名前に変更します。SSIDは他人にも見えていますので、個人名や会社名など、所有者が特定できるような名前は避けてください。
- **暗号化**
  アクセスポイントと本機に同じ暗号化キーを設定すると、同じ暗号化キーを設定した機器同士のみが接続できるようになります。また、通信データが暗号化され、情報が傍受されにくくなります。
  暗号化にはいくつかの方式があります。

  一般家庭では次の方式を選択することをおすすめします。

  暗号化方式：WPA-PSK（パーソナル）

  アクセスポイントに「WPA」の機能がない場合は、「WEP」を選択してください。

  暗号化の種類：AES

  アクセスポイントに「AES」の機能がない場合は、「TKIP」を選択してください。

制限

IEEE802.11n ドラフト 2.0 は WPA-PSK（AES）のみに対応しています。

参考

暗号化方式のセキュリティレベル

暗号化方式のセキュリティレベルは次の表を参考にしてください。

レベル	暗号化方式	
高 ↑ 低	WPA	AES
		TKIP
	WEP	

7 「Wi-Fi Protected Setup（WPS）」で接続する場合は、機能を有効に設定し、アクセスポイントのPINコードを控えます。

8 設定内容を下記の表に記入します。

設定内容は本機側の設定時に使用します。

項目	設定内容
SSID （ワイヤレスネットワーク名）	
暗号化方式 （セキュリティ設定）	
暗号化の種類	
暗号化キー （ワイヤレスセキュリティパスワード）	
キーインデックス	
PINコード （WPSで接続する場合）	

本機をアクセスポイントに接続する

アクセスポイント側に設定した暗号化キーやPINコードを本機側にも入力し、本機をアクセスポイントに接続します。

この作業は初めて接続するときのほかに暗号化キーを変更したときや、Windowsの再インストールをした場合にも行います。

1 本機の無線LAN機能をONにします。

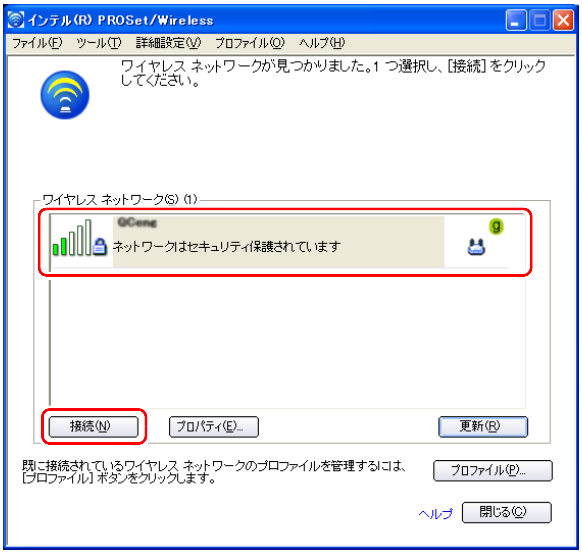
p.152 「無線LAN機能のON/OFF方法」

2 通知領域の「インテル（R）PROSet/Wireless」アイコンをダブルクリックします。



<インテル（R）PROSet/Wirelessアイコン>

3 **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面が表示されたら、接続するアクセスポイント（設定したSSID）を選択し、［接続］をクリックします。**



4 **アクセスポイントに設定した暗号化キーやPINコードを入力します。**

＜通常＞

(1)「ワイヤレスセキュリティパスワード（暗号キー）」と表示されたら、アクセスポイントに設定した暗号化キーを入力し、［OK］をクリックします。

＜WPSで接続する場合＞

(1)「使用可能なネットワーク」と表示されたら、接続するアクセスポイントを選択し、［次へ］をクリックします。
(2)「デバイス所有者パスワード」と表示されたら、接続するアクセスポイントのPINコードを入力し、［次へ］をクリックします。
(3)「このアクセスポイントはすでに設定されています。再設定しますか？」と表示されたら、［はい］をクリックします。
(4) アクセスポイントに設定したネットワーク名やパスワードが自動取得され、表示されたら、［次へ］をクリックします。
(5)「～ネットワークへの接続が完了しました。」と表示されたら、［完了］をクリックします

アクセスポイントでWPSが有効に設定されていても、暗号化方式によっては、この方法で接続できない場合があります。その場合は、p.160「ワイヤレスプロファイルを手動作成して接続する」の手順で接続してみてください。

5 **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面に「…に接続しています。」と表示されたら、［閉じる］をクリックします。**

6 **本機のファイアウォールを有効に戻します。**

p.174「ファイアウォール」または『セキュリティソフトウェアのマニュアル』

7 **ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを抜いていた場合は、元に戻します。**

8 **本機とアクセスポイントをつないでいるLANケーブルを外します。**

これで接続作業は完了です。

ワイヤレスプロファイル

ここで設定した無線LANは、「ワイヤレスプロファイル」として自動的に保存されます。ワイヤレスプロファイルが作成されていると、次回からは設定を行わずに簡単に無線LANに接続することができます。

無線LANを使う

無線LAN接続の設定が完了すると、次回からは無線LAN機能をONにするだけで自動的にアクセスポイントに無線LAN接続することができます。

インターネット接続の設定

インターネットに接続する場合は、プロバイダから提供されたマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

強固なセキュリティ設定をする

無線LANのセキュリティ機能には、ほかにも次のようなものがあります。

- MACアドレスフィルタリング
- SSID非通知

セキュリティをさらに強固にしたい場合は、必要に応じて設定を行ってください。
アクセスポイントによっては上記の機能に対応していないものもあります。詳しくはアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

MACアドレスフィルタリング

MACアドレスとは、ネットワーク機器に割り当てられている固有の番号のことです。MACアドレスフィルタリングをすると、接続を許可したMACアドレスを持つコンピュータ以外はアクセスポイントに接続できないようになります。
MACアドレスフィルタリングの方法は、次のとおりです。

MACアドレスの確認

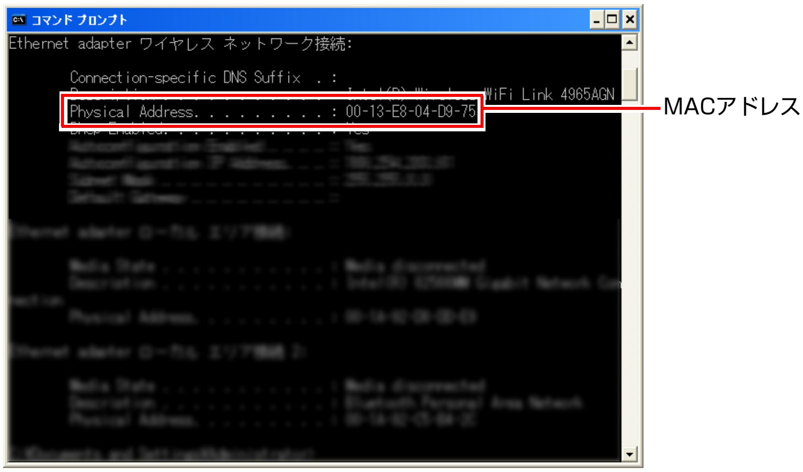
本機のMACアドレスを確認します。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」を選択します。

2 コマンドプロンプトが表示されたら、「C:¥・・・>」のあとに次のとおり入力し、［↵］を押します。

ipconfig□/all（□はスペースを意味します）

3 本機の無線LANアダプタのMACアドレス（物理アドレス）が表示されます。



MACアドレスを下記の表に記入しておきましょう。
MACアドレスフィルタリングの設定時に使用します。

MACアドレス	

4 ［×］をクリックして、コマンドプロンプトを閉じます。

MACアドレスフィルタリングの設定

アクセスポイントでMACアドレスフィルタリングの設定をします。

1 アクセスポイントのマニュアルに従って、MACアドレスフィルタリングの設定をします。

2 p.156「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。

SSID非通知

SSID非通知の設定を行うと、コンピュータ側にSSIDが表示されなくなります。他人にアクセスポイント（SSID）が見えなくなるため、無断接続を防ぐことができます。
SSID非通知の設定方法は、次のとおりです。

1 **アクセスポイントのマニュアルに従って、SSID非通知の設定をします。**

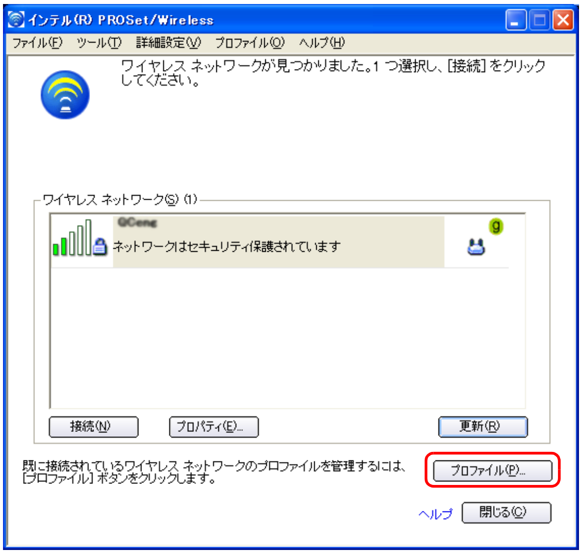
2 **p.156「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線LAN接続をすることができます。**
まだ接続ができていない場合は、次の手順で接続してください。

ワイヤレスプロファイルを手動作成して接続する

初めて本機をアクセスポイントに接続するときにSSID非通知の設定がされていると、本機にアクセスポイント（SSID）が表示されないため、p.156「本機をアクセスポイントに接続する」の方法では接続ができません。次の方法で設定をすべて手動で入力して、ワイヤレスプロファイルを作成してください。

< p.156 「本機をアクセスポイントに接続する」手順3～4の読み替え>

1 **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面が表示されたら、［プロファイル］をクリックします。**

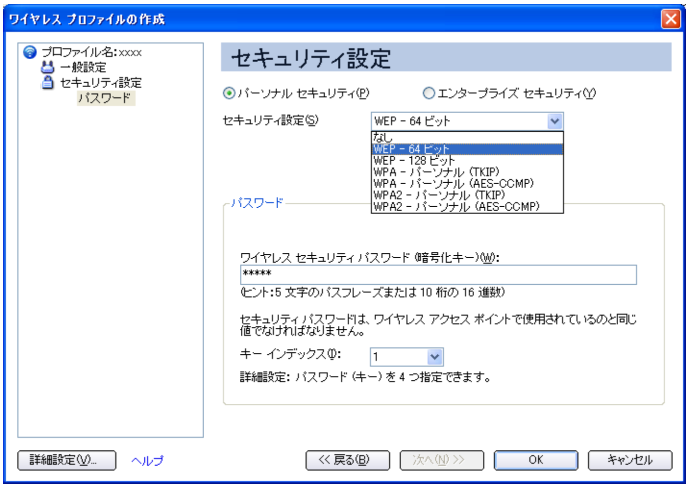


2 **「プロファイル」画面が表示されたら、［追加］をクリックします。**

3 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「一般設定」で、次の設定を行います。**

(1)「プロファイル名」に任意の名前を入力します。
(2)「ワイヤレスネットワーク名（SSID）」にアクセスポイントのSSIDを入力します。
(3)「操作モード」で「ネットワーク（インフラストラクチャ通信）…」を選択します。
(4)［次へ］をクリックします。

4 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「セキュリティ設定」で、アクセスポイント側に設定したセキュリティ設定と同様の設定を行います。**



(1)「パーソナルセキュリティ」を選択します。
(2)「セキュリティ設定」で暗号化方式を選択します。
アクセスポイント側に設定した暗号化方式を選択してください。
(3)「ワイヤレスセキュリティパスワード（暗号化キー）」に暗号化キーを入力します。
アクセスポイント側に設定した暗号化キーを入力してください。
(4)「キーインデックス」で1～4のどれかを選択します。
アクセスポイント側に設定したキーインデックスを選択してください。
(5)［OK］をクリックします。

5 **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面で作成したプロファイルを選択し、［接続］をクリックします。**

続いて ☞ p.156「本機をアクセスポイントに接続する」手順5に進みます。

▶複数の無線LAN環境を登録する

複数の無線LAN環境（職場やホットスポットなど）の設定を事前に登録しておきたいときは、手動入力でワイヤレスプロファイルを作成します。
手動入力でワイヤレスプロファイルを作成する方法は、p.160 「ワイヤレスプロファイルを手動作成して接続する」をご覧ください。

▶ドメインに接続するための設定

企業などでドメイン環境に接続する場合は、Windowsログオン前にアクセスポイントに接続する必要があります。次の設定を行ってください。設定は、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。
ドメイン環境に接続しない場合は、これらの設定を行う必要はありません。

- 機能を追加する
- 管理者ツールで無線LAN接続設定をする
- Windowsで設定をする

制限

設定は、「コンピュータの管理者（Administrator）」権限でログオンして行ってください。

機能を追加する

ドメインに接続する場合は、無線LANユーティリティにシングルサインオン機能と管理者ツールをインストールします。
インストール手順は次のとおりです。

1 **「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、［スタート］－［マイコンピュータ］－［EPSON_CD］をダブルクリックします。

2 **表示された項目から「項目別インストール」を選択します。**

3 **「ドライバ・ソフトウェアのインストールと削除」画面が表示されたら、一覧から「無線LANドライバ」を選択し、［インストール］をクリックします。**

4 **「無線 LAN ドライバ」と表示されたら、［インストール開始］をクリックします。**

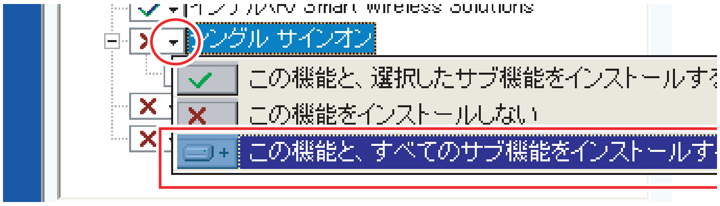
5 **「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［OK］をクリックします。**

6 **「インテル（R）PROSet/Wireless　インストーラ」画面が表示されたら、［ソフトウェアのインストール］をクリックします。**

7 **表示された項目から「変更」を選択し、［次へ］をクリックします。**

8 **一覧が表示されたら、次の2つの項目でそれぞれ▼をクリックし、「この機能と、すべてのサブ機能をインストールする」を選択します。**

- シングルサインオン
- 管理者ツール



9 **［変更］をクリックします。**

10 **「コンポーネントの変更を完了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。**

表示される画面の指示に従ってWindowsを再起動したら、インストールは完了です。

参考

Windowsのログオン画面

機能を追加すると、Windowsのログオン画面の表示が変わります。
ログオン時は、ユーザー名とパスワードを入力して［OK］をクリックします。パスワードを設定していない場合は、パスワード欄は空欄のまま［OK］をクリックします。

続いて、管理ツールで接続設定を行います。

管理者ツールで無線LAN接続設定をする

Windowsにログオンしたときに無線LANに接続できるように管理者ツールで設定を行います。

1 **通知領域の「インテル（R）PROSet/Wireless」アイコンをダブルクリックします。**



＜インテル（R）PROSet/Wirelessアイコン＞

2 **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面が表示されたら、「ツール」メニューの「管理者ツール」をクリックします。**

3 **「パスワードの作成」画面が表示されたら、「パスワード」と「パスワードの確認」にパスワードを入力して［OK］をクリックします。**

「管理者ツール」を次に使用するときは、ここで設定したパスワードの入力が必要になります。

4 **「管理者パッケージを開く」画面が表示されたら、「Windows XPまたはWindows 2000パッケージを作成する」を選択して［OK］をクリックします。**

5 **「管理者ツール－新しいパッケージ」画面が表示されたら、「プロファイル」タブ内の「ログオン前／共通」タブをクリックします。**

6 **［追加］をクリックします。**

7 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「一般設定」で、次の設定を行います。**

(1)「プロファイル名」に任意の名前を入力します。
(2)「ワイヤレス　ネットワーク名（SSID）」にアクセスポイントのSSID を入力します。
(3)［次へ］をクリックします。

8 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「セキュリティ設定」で、アクセスポイント側に設定したセキュリティ設定と同様の設定を行います。**

p.160 「ワイヤレスプロファイルを手動作成して接続する」手順4

9 **「管理者ツール－新しいパッケージ」画面の「ファイル」メニューから、「パッケージを保存する」を選択してクリックします。**

10 **「名前をつけて保存」画面で、「保存する場所」を選択し、任意の「ファイル名」を入力して［保存］をクリックします。**

11 **「保存されているパッケージ」画面が表示されたら、［終了］をクリックします。**

12 **「パッケージが保存されました」画面が表示されたら、「このパッケージをコンピュータに適用する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。**

これで、管理者ツールの設定は完了です。

Windowsで設定をする

ドメインに接続するには、続いてWindowsで設定を行います。詳細はネットワーク管理者にご確認ください。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアなどについて説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

接続方法の選択

⬇

プロバイダとの契約

⬇

インターネットに接続

▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

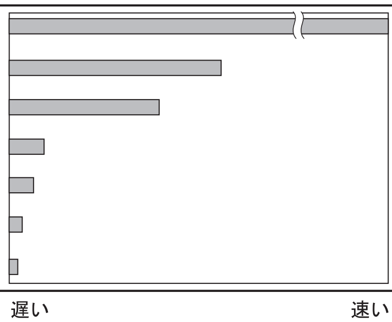
インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		



インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー（FTTH）
  ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。
  ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。
- ADSL
  電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
  利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。
- CATV
  ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。
- そのほかの接続方法（ナローバンド）
  アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。

参考

ダイヤルアップ接続
ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

参考

再インストール後のインターネット接続
Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。
  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。
  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法は、p.171「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Outlook Express（アウトルックエクスプレス）

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

1 **次のどちらかの方法でOutlook Expressを起動します。**

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」
- Fn ＋ F3（✉）を押す

2 **「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。**

3 **「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。**

4 **「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。**

5 **「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して［次へ］をクリックします。**

6 **「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

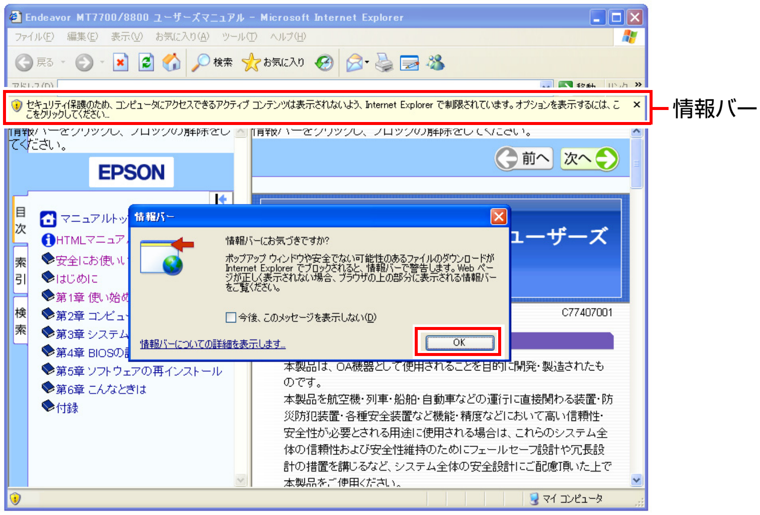
参考

初期設定をあとから行う
「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。
「ツール」メニュー －「アカウント」－［追加］－「メール」

2

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」画面が表示されたら、［OK］をクリックして画面を閉じ、「情報バー」をクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



Internet Explorerの便利な追加機能

購入時、本機には便利な機能として次のソフトウェアがインストールされています。

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「簡単検索JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。



● gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続したときや、Windowsの再インストールをした場合は、手動でWindows Updateを行ってください。
手動でWindows Updateを行う方法は、次のとおりです。

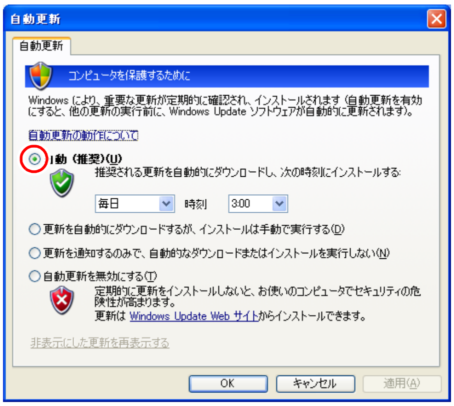
1 **[スタート] ‐「すべてのプログラム」‐「Windows Update」をクリックします。**

2 **Windows Updateのホームページが表示されたら、ホームページの記載に従って更新プログラムをダウンロード、インストールします。**

自動更新の設定

本機は、自動的にWindows Updateが行われるよう、自動更新の設定がされています。そのままお使いください。
自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。
設定時刻に本機が起動していない場合は、次回起動時に自動でインストールされます。
自動更新は次の場所で設定されています。

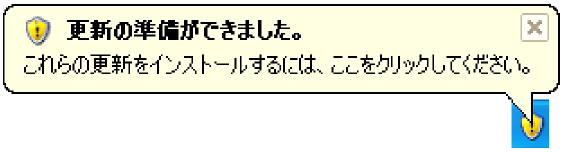
[スタート]‐「コントロールパネル」‐「セキュリティセンター」‐「自動更新」



2

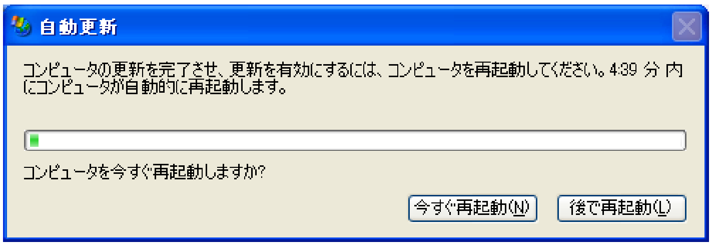
「更新の準備ができました。」と表示されたら

インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされると、画面右下に「更新の準備ができました。」と表示されます。インストールの設定時刻になる前に更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



「自動更新」画面が表示されたら

インストールの設定時刻（または次回起動時）に更新プログラムの自動インストールが行われると、「自動更新」画面が表示されます。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破損するなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破損したりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合＞
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

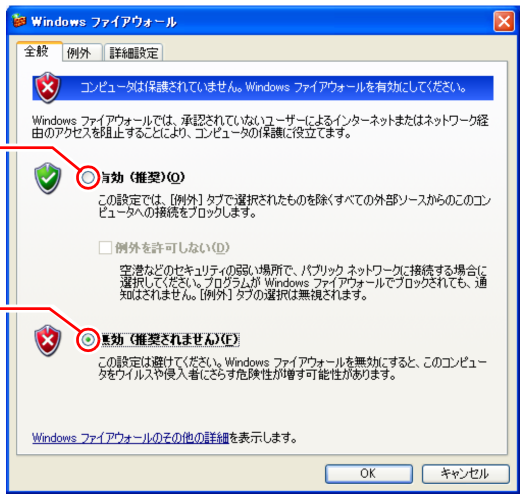
＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合＞
Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「Windowsファイアウォール」

ファイアウォールソフトを使用しない場合に選択

ファイアウォールソフトを使用する場合に選択



▶Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i−フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i−フィルター 30日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピュータを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i−フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i−フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi−フィルター 30日版はインストールされていません。
インストール方法は、p.241 「i−フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i−フィルター 30日版はインストールしないでください。

i−フィルター 30日版の使用方法

i−フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとすると、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は使用者別に設定できます。必要に応じて、「設定メニュー」画面で設定を変更してください。
「設定メニュー」画面の表示方法は、次のとおりです。

1　通知領域の「i−フィルター」アイコンをクリックします。



＜i−フィルターアイコン＞

2 **「パスワード確認」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して［OK］をクリックします。**

「設定メニュー」画面が表示されます。
i－フィルター30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i－フィルター30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。
この場合は、「i－フィルター30日版」の使用を許可してください。

i－フィルター 30日版の利用期限

i－フィルター30日版の利用期限は、セットアップ後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

＜継続して利用する場合＞

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

p.177「i－フィルター30日版のサポート」

制限

本機に添付のｉ－フィルター 30日版は、「ｉ－フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

<継続して利用しない場合>

i－フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。
i－フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

p.177 「i－フィルター 30日版のサポート」

i－フィルター 30日版のサポート

i－フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。
よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

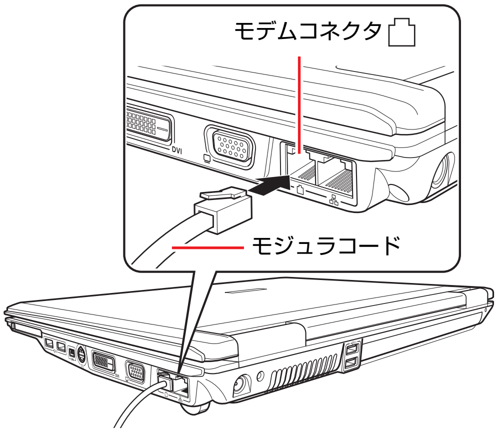
http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

2

FAXモデムを使う

ここでは、FAXモデムを使用し、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続するための設定について説明します。
本機には56Kbps（V.92/K56flex対応）の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されており、ナローバンドでの通信が可能です。
FAXモデムを使用する場合は、本機右側面のモデムコネクタと電話回線を、本機に付属のモジュラコードで接続します。



注意

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線の種類

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線（パルス）
  回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線（トーン）
  押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

- PBXやホームテレホン回線への接続
  本機のFAXモデムは、ホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線、ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックや構内交換機（PBX）に接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。
- キャッチホンサービスについて
  NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.92＊[1]およびK56flex＊[2]通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は、56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、48000bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
＊[1]V.92：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
＊[2]K56flex：Lucent Technologies社とRockwell International社が提唱する通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
また、Windowsの通信機能を使用する場合は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

ATコマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドについては、p.296 「ATコマンドの使用」をご覧ください。

ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。ダイヤル情報の設定方法は、次のとおりです。

1 ダイヤル情報の設定画面を表示します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」

2 「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います（ダイヤルアップ接続の設定）。次の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

参考

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザ名、コネクションID 、PPPログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名
接続パスワード	パスワード、PPPパスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mailアカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mailアカウント、アカウント名
メールパスワード	Mailパスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ（POP3）
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ（SMTP）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「新しい接続ウィザード」をクリックします。

2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で［次へ］をクリックします。

4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

6 「接続名」と表示されたら、アクセスポイントの名前を入力して［次へ］をクリックします。

7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、アクセスポイントの電話番号を入力して［次へ］をクリックします。

8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して［次へ］をクリックします。

9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

10 ［スタート］－「接続」－「（手順6で設定したアクセスポイントの名前）」をクリックします。

11 ［プロパティ］をクリックします。

12 プロバイダから DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。

(1)「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」の［プロパティ］をクリックします。
(2)「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
(3)「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS（ネーム）サーバのアドレスを入力し、［OK］をクリックします。

13 「全般」タブ－「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて［OK］をクリックします。

14 「（手順6で設定したアクセスポイントの名前）へ接続」の画面で［キャンセル］をクリックします。

p.182 「回線接続前の設定」に進みます。

2

▶回線接続前の設定

回線に接続する前に、次の接続に関する設定を行います。

- 接続方法の設定
  電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定します。
- 切断画面の設定
  Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定の手順は、次のとおりです。

1. **［スタート］－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット接続」－「インターネットオプション」－「接続」タブをクリックします。**
2. **「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。**
   （接続方法の設定）
3. **［設定］－［詳細設定］をクリックします。**
4. **「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。**（切断画面の設定）
5. **「（接続先の名前）の設定」画面で［OK］をクリックします。**
6. **「インターネットのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。**
   これで接続に関する設定は完了です。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、本機を使用していない間、省電力状態に移行して消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで本機の使用可能時間を延ばすことができます。

▶省電力機能使用時の注意

省電力機能を使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に確認して正しくお使いください。

2

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
  - 周辺機器を接続している
  - ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.186 「時間経過で移行させない」
  - 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
  - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
  - メモリカードなど外部接続記憶装置へのデータ書き込み時：データ破壊の可能性
  - FAXモデム、ネットワーク機能やBluetooth機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
  - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
  - 省電力状態で、PCカードや周辺機器などの抜き差しを行った場合
  - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

▶省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- **HDD/ディスプレイの電源を切る**
  HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- **スタンバイ**
  作業内容をメモリに保持した状態で本機の動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプと電源スイッチが点滅します。通常の状態へは、十数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

- **休止状態**
  作業内容をHDDに保存して電源を切ります。本機の電源を切った状態と同様に電力を消費しません。通常の状態への復帰には多少時間がかかります。
  休止状態を有効にするためには設定が必要です。
  ☞ p.185 「休止状態を有効にする」

電源ランプの表示

省電力状態は、電源ランプ（⏻）の点灯・点滅により確認できます。

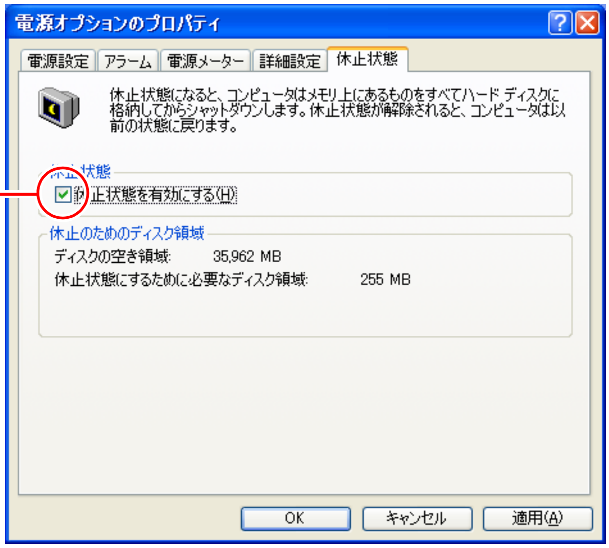
動作状態	電源ランプの表示
通常の状態	点　灯（緑色）
HDD/ディスプレイの電源切断時	点　灯（緑色）
スタンバイ	点　滅（緑色）
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

「休止状態」を有効にすると、本機の電源を切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。
休止状態の設定は次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「休止状態」タブ

「休止状態を有効にする」にチェック



<イメージ>

▶省電力状態に移行する

省電力状態に移行するには、次の方法があります。

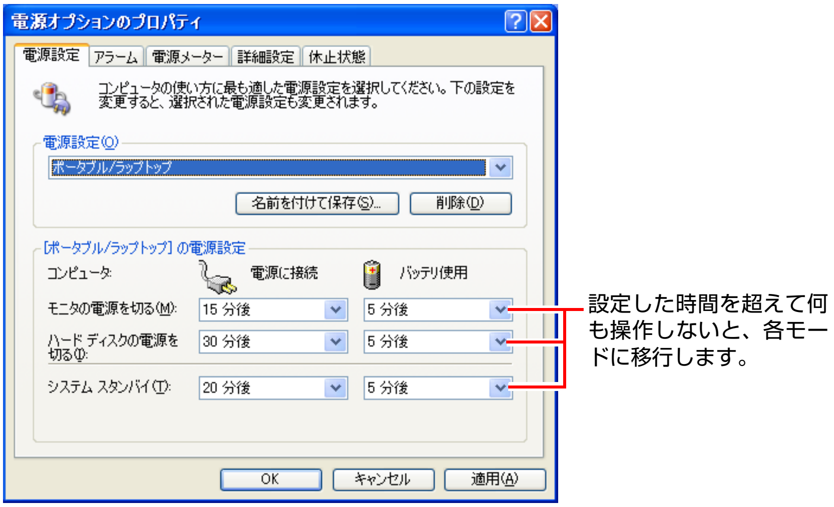
- **時間経過で移行する**
  設定した時間を超えて本機を使用しないと省電力状態に移行します。
- **直ちに移行する**
  席を外すときなどに、手動で省電力状態に移行します。
- **バッテリ残量低下時に移行する**
  バッテリ残量が少なくなると、省電力状態に移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力状態に移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力状態への移行を無効に設定します。

時間経過による省電力状態への移行を無効にするには、すべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

次の方法でスタンバイまたは休止状態に移行します。

● ［スタート］ －「終了オプション」から選択、実行する

Shift を押しながら実行すると、「スタンバイ」ではなく「休止状態」を選択できます。

● Fn ＋ F1 （☾）を押す：初期値は「スタンバイ」

キーを押したときに休止状態に移行するように設定を変更することもできます。

p.187 「ほかの方法で直ちに移行する」

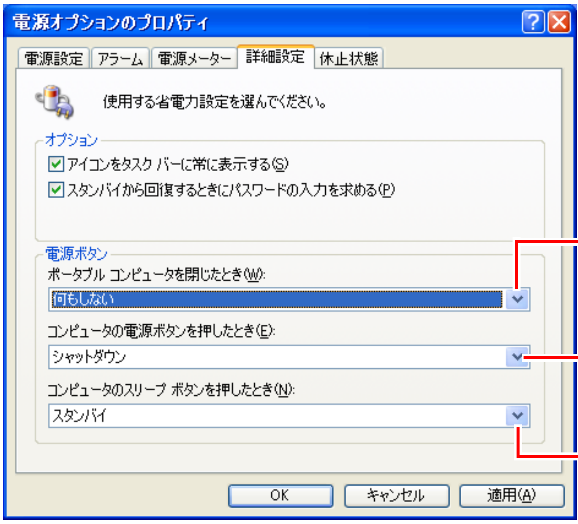
ほかの方法で直ちに移行する

次の方法で、スタンバイや休止状態に直ちに移行することもできます。移行するには、設定が必要です。

● LCDユニットを閉じる：初期値は「何もしない」（バックライト消灯のみ）
● 電源スイッチを押す：初期値は「シャットダウン」

Fn ＋ F1（☾）を押したときの動作を変更することもできます。

設定は、「詳細設定」タブで行います。



バッテリ残量低下時に移行する

本機は、バッテリ残量が低下したときに省電力状態に移行するように設定することもできます。

p.67 「バッテリアラームの設定」

▶省電力状態から復帰する

省電力状態から復帰して通常の状態に戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプの表示	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点　灯（緑色）	タッチパッド、キーボードを操作する。
スタンバイ	点　滅（緑色）	・電源スイッチを押す。 ・キーボードを操作する。
休止状態	消　灯	電源スイッチを押す。

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

▶IEEE1394コネクタ

本機右側面にはIEEE1394コネクタ（4ピン）が1個搭載されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、通知領域にアイコン（「取り外し」アイコンなど）が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。



<取り外しアイコン>

▶文字やアイコンの大きさを変更する（Liquid View）

本機には、デスクトップやInternet Explorerの表示をより見やすくするためのソフトウェア「Liquid View（リキッド ビュー）」がインストールされています。

Liquid Viewでは、次のような操作を行うことができます。

- デスクトップ上のアイコンの大きさを変更する。
- ダイヤログボックスやプルダウンメニューに表示される文字の大きさを変更する。

Liquid Viewは、次の場所から実行します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Liquid View（R）Software」

2

Liquid Viewが起動すると次の画面が表示されます。使用方法は、ヘルプをご覧ください。



制限

- Liquid Viewを使用してデスクトップ上のアイコンの大きさを変更したあと、通知領域のアイコンの表示が乱れてしまった場合には、本機を再起動してください。
- Liquid Viewを使用してデスクトップ上のアイコンの大きさを変更したあと、タスクバーの大きさが元に戻らない場合には、タスクバーの上端をドラッグして、大きさを元に戻してください。

SpeedStep（スピードステップ）機能

本機では、スピードステップ機能が働いています。スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせてCPUの処理速度を調整し、本機を省電力で動作させる機能です。

インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジ（AMT）

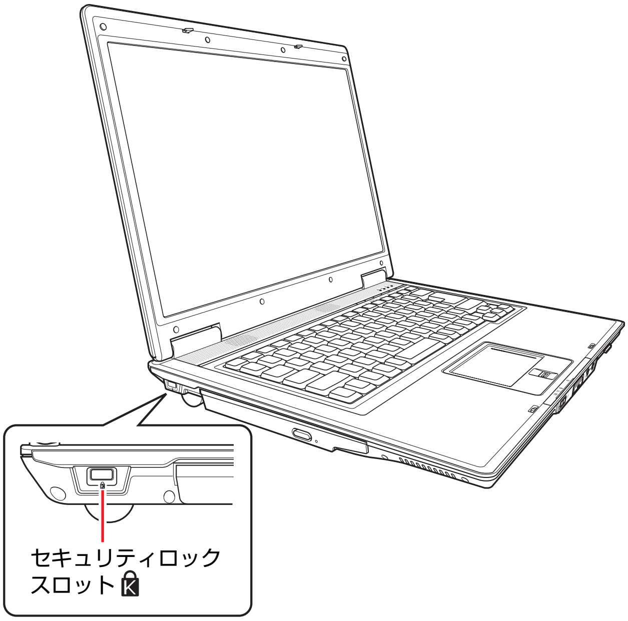
本機には、インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジ（以降、AMT機能）が搭載されています。これは、企業などで複数のコンピュータを管理するシステム管理者向けの機能です。ネットワーク上にあるAMT機能を搭載したコンピュータを集中管理できます。
AMT機能を使用するには、別途システム管理用ソフトウェアが必要です。

本機でのAMT機能の設定方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「AMT機能セットアップガイド」（PDF）

セキュリティロックスロット

本機左側面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

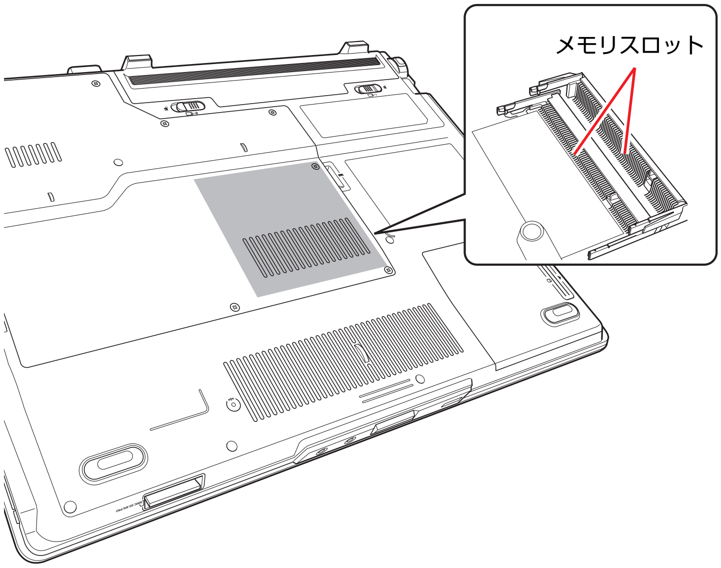
http://shop.epson.jp/

第3章 システムの拡張

アップグレードサービスや本機に接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機では、メモリモジュール（SODIMM、以降メモリ）を交換して、機能を拡張することができます。



メモリスロット

本機には、メモリスロットが底面に2本用意されています。最大3GBのメモリを利用できます。

p.195 「メモリの装着」

制限

本機は、メモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービス

当社ではコンピュータ本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。
本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ　：交換
- 内蔵HDD　：交換
- 光ディスクドライブ：交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、取り付け・取り外し方法について説明します。
本機底面にはメモリスロットが2つあり、メモリを交換することにより拡張が可能です。

制限

本機で合計 3GB を超えるメモリを搭載しても、システム上利用できるメモリの最大容量は 3GB までです。

メモリの仕様

本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-5300 SODIMM（DDR2-667 SDRAM使用）
- メモリ容量　256MB、512MB、1GB、2GB
- Non ECC
- 200ピン
- CL＝5

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。
ホームページのアドレスは次のとおりです。

http://shop.epson.jp/

メモリ装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。

▶作業時の注意

メモリの交換をする場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。

警告

- メモリの交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造やマニュアルで指示されている以外の交換はしないでください。けが・感電・火災の原因となります。

注意

- メモリの交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

制限

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの交換

メモリの交換手順は次のとおりです。

1 **コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。**

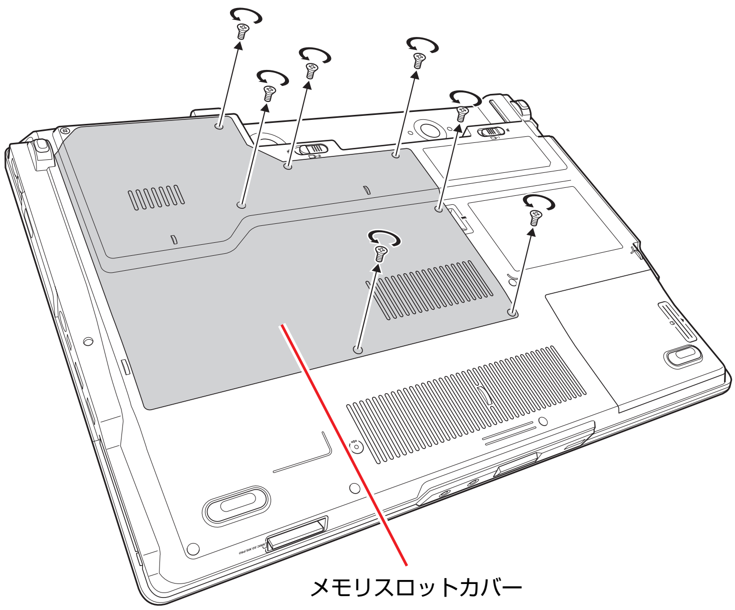
コンピュータ内部が冷えるまで、10分以上放置してください。

2 **コンピュータに接続しているケーブル類（ACアダプタなど）を、すべて外します。**

3 **本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

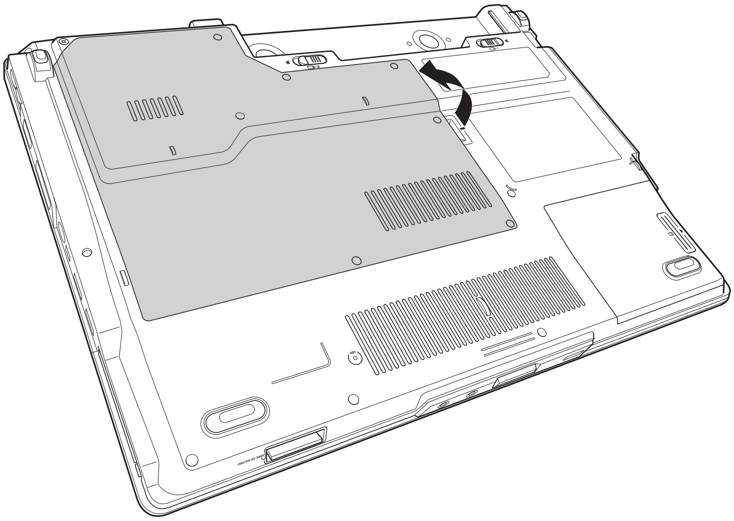
p.68「バッテリの交換」

4 **メモリスロットカバーのネジ（7本）を外します。**



3

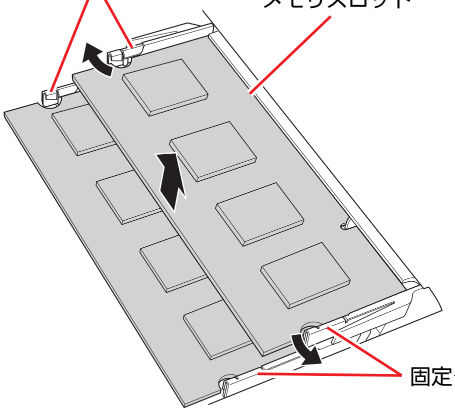
5 **メモリスロットカバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。**



6 **メモリスロットに装着されているメモリを、取り外します。**

メモリを2枚交換する場合は、上側のメモリスロットのメモリを取り外してから、下側のメモリスロットのメモリを取り外してください。

(1) **メモリスロットの両側にある固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。**



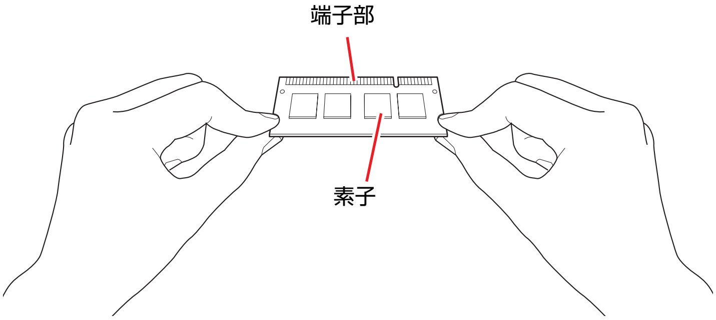
(2) **起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。**
取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

7 メモリを取り付けます。

メモリを2枚交換する場合は、下側のメモリスロットのメモリを取り付けてから、上側のメモリスロットのメモリを取り付けてください。

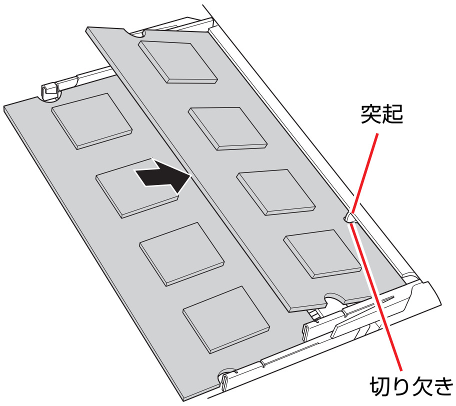
(1) メモリを静電防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

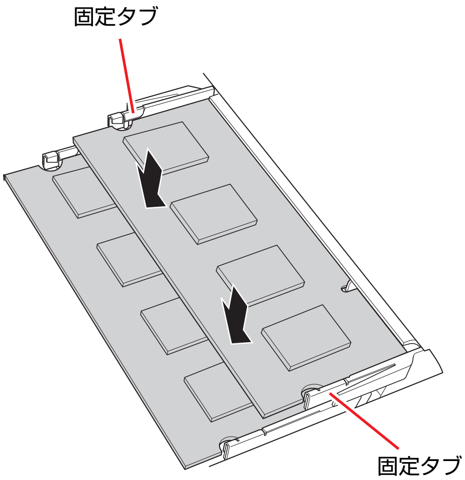


(2) メモリを、メモリスロットに差し込みます。

切り欠きを突起にあわせ、メモリを約15度の角度でメモリスロットに差し込みます。



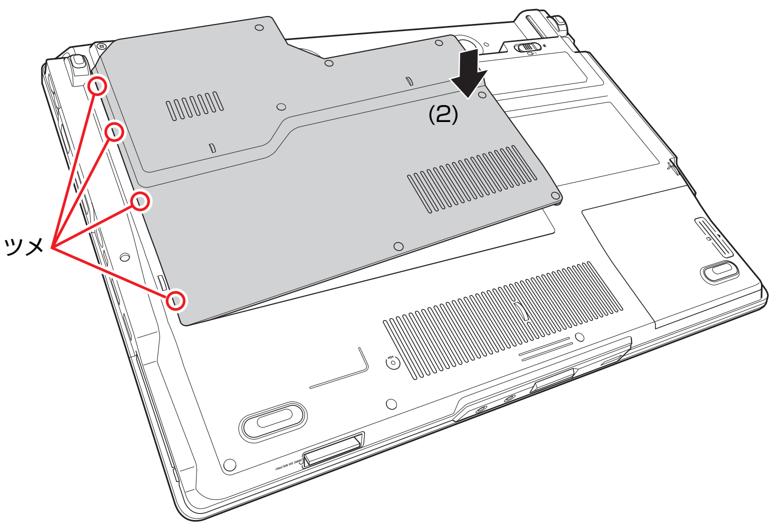
(3) メモリを静かに倒します。
正しく装着すると「カチッ」と音がして両側の固定タブに固定されます。



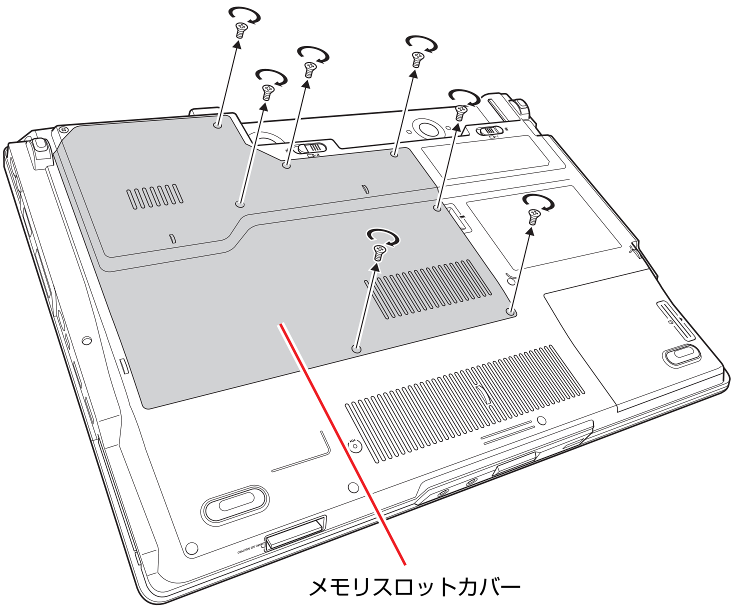
8 メモリスロットカバーを取り付けます。

(1) メモリスロットカバーの4箇所のツメを本体に合わせます。

(2) メモリスロットカバーを「カチッ」と音がするまで押し込みます。



9 ネジ（7本）で固定します。



10 バッテリを取り付けます。

p.68 「バッテリの交換」

11 本機の底面を下にして置きます。

12 コンピュータを使用できるように、ケーブル類を元に戻します。

続いて p.202 「メモリ交換後の作業」を行います。

メモリ交換後の作業

メモリを交換したら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

1 コンピュータの電源を入れたら、F2 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

p.207 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2 「Main」メニュー画面－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。

3 F10 を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

p.211 「BIOS Setupユーティリティの終了」

手順2で総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリを正しく取り付けなおしてください。

参考

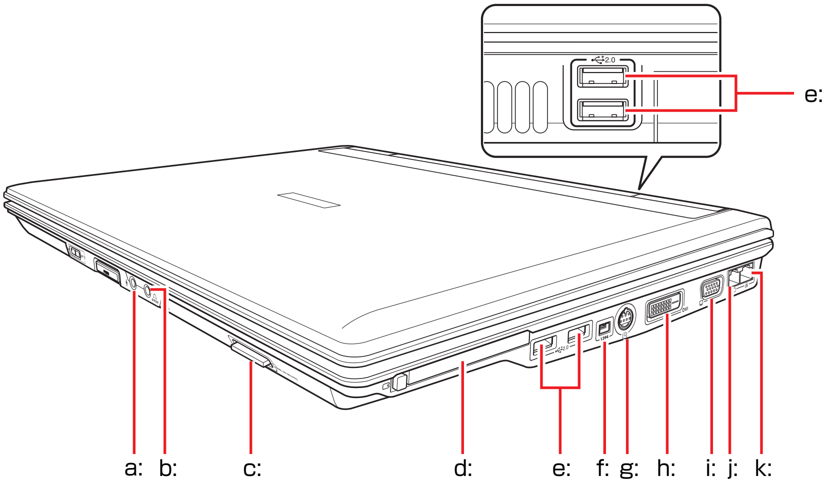
総メモリ容量の表示

本機では、メインメモリの一部をAMT機能で使用します。そのため、メインメモリからAMT機能で使用する容量（搭載メインメモリ容量により16～64MB）を引いた数値が表示されます。

p.190 「インテル・アクティブ・マネジメント・テクノロジ（AMT）」

外付け可能な周辺機器

本機のスロットやコネクタには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



a: マイク入力コネクタ
- マイク

b: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
- スピーカ
- ヘッドフォン
- MDデッキ
- 5.1チャンネルサラウンドスピーカシステム

c: メモリカードスロット
- メモリースティック（Pro対応）
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

d: PCカードスロット
- PCカード
（PCMCIA規格準拠、Type II）

e: USBコネクタ
- プリンタ
- スキャナ
- デジタルカメラ
- USB FDD（オプション）
- USBマウス（オプション）
- USB対応機器

f: IEEE1394コネクタ
- DV機器
- IEEE1394対応機器

g: S-ビデオ出力端子
- テレビ

h: DVI-Dコネクタ
- 外付けディスプレイ（デジタル接続）

i: VGAコネクタ
- 外付けディスプレイ（アナログ接続）
- ビデオプロジェクタ

j: モデムコネクタ
- 電話回線

k: LANコネクタ
- ネットワーク

そのほかの接続可能な周辺機器

本機には以下の機器が接続できます。

- 無線LAN対応機器
- Bluetooth対応機器

第4章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命
BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給が全くない場合、寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す
  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.225 「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- 初期値や前回保存した設定値に戻す
  p.211 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの［F2］の位置を確認してください。手順2では、すばやく［F2］を押す必要があります。

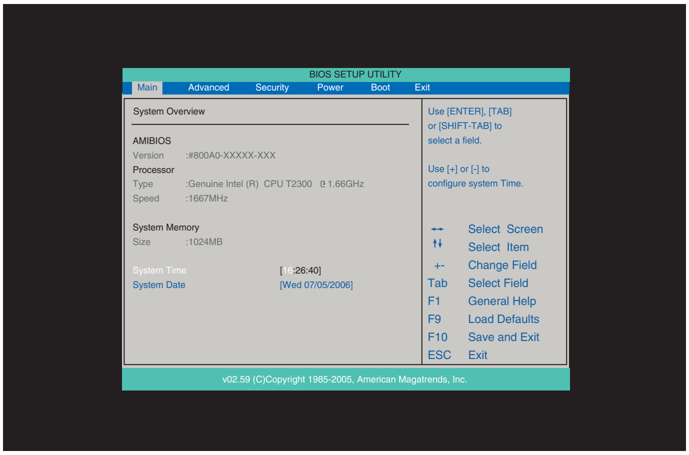
1　本機の電源を入れます。

すでにWindowsが起動している場合は再起動します。

2　本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの［F2］を押します。

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3　「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



<BIOS Setupユーティリティ（イメージ）>

4

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、本機の電源を入れたときに次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

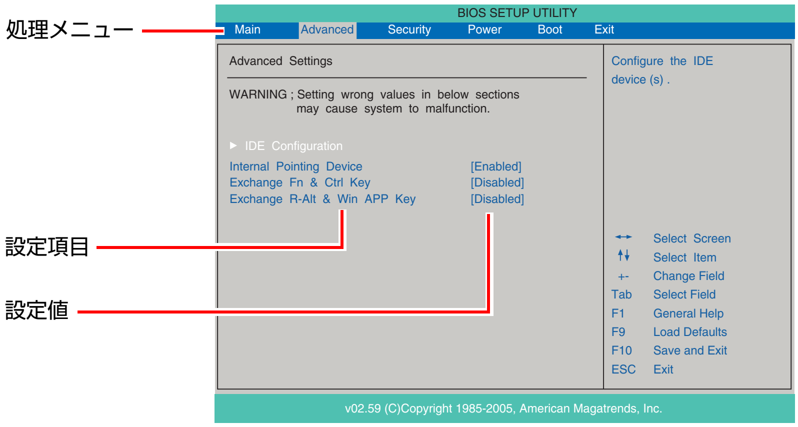
p.211 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



＜メニュー画面＞

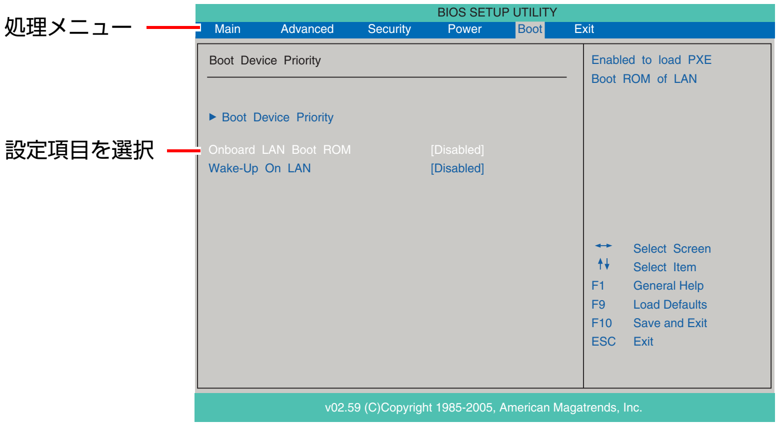
ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は p.219 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法は、次のとおりです。

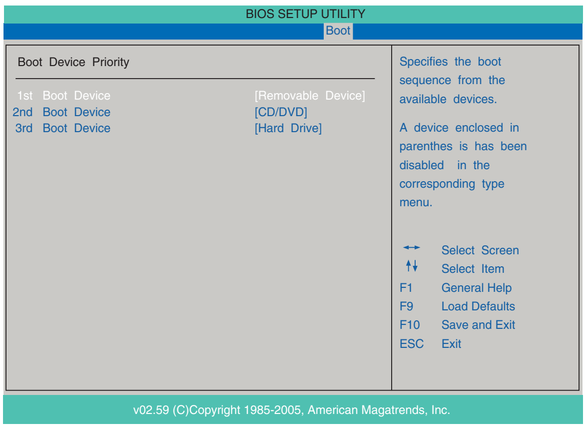
1　処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

[→] [←] でメニュー間を移動します。
[↑] [↓] で設定値を変更したい項目まで移動します。



＜▶のある項目の場合＞

▶のある項目の場合、[↵] を押すとサブメニュー画面が表示されます。
[↑] [↓] で設定値を変更したい項目まで移動します。



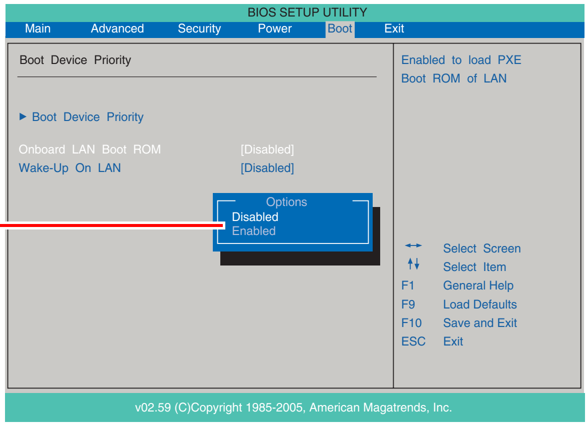
＜サブメニュー画面＞

サブメニュー画面から戻るには [Esc] を押します。

2 設定値を変更します。

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し、[↵]で決定します。

選択ウィンドウ



キー操作一覧

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[Fn]+[-]([P せ]) [Fn]+[+]([+ れ])	項目の値を変更します。
[↵]	● メニュー画面中の▶の付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[Esc]	● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[F7]	変更した設定値を前回保存した設定値に変更します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に変更します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 【F10】を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、【↵】を押します。

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 【Esc】を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、【↵】を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。

1 【F9】を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Optimal Defaults ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択して【↵】を押します。

Load Optimal Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Optimal Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

＜セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合＞

「Security」メニュー画面－「TPM Security」を「Enabled」に設定します。メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。

＜RAID機能をお使いの場合＞

「Advanced」メニュー画面－「SATA Operation Mode」を「RAID」に設定します。RAID機能を有効にします。

＜AMT機能をお使いの場合＞

「Advanced」メニュー画面－「Intel AMT Support」を「Enabled」に設定します。AMT機能を有効にします。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

p.211 「Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 **F7 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Discard Changes ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**

▶パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。
パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
  (HDDアクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- **Supervisor Password(管理者パスワード)**
  コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- **User Password(ユーザーパスワード)**
  一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができます)。
  p.214 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードを設定できるようになります。

1 **「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter New Password
```

2 **パスワードを入力し、↵ を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

3 **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、↵ を押します。**

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で ↵ を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

4 **「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で ↵ を押します。**

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

制限

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

p.221 「Securityメニュー画面」－「User Access Level」

パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

p.221 「Securityメニュー画面」－「Password Check」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードの削除方法

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。
管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されます。

1 **「Change Supervisor Password」を選択して［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Enter New Password

2 **何も入力せずに［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Password uninstalled.
［Ok］

3 **「Ok」が選択された状態で［↵］を押します。**

「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。

1 **「Clear User Password」を選択して、［↵］を押すと、次のメッセージが表示されます。**

Clear User Password?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して、［↵］を押します。**

「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これで、ユーザーパスワードが削除されました。

▶HDDアクセス制限

HDDアクセス制限の設定をすると、次の状態になります。

- BIOSやWindows起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピュータに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難された場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限の設定をします。

HDDアクセス制限の設定方法

HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

1 管理者パスワードを設定します。

☞ p.213 「パスワードの設定方法」

2 HDDアクセス制限の設定をします。

「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。

☞ p.221 「Securityメニュー画面」

制限

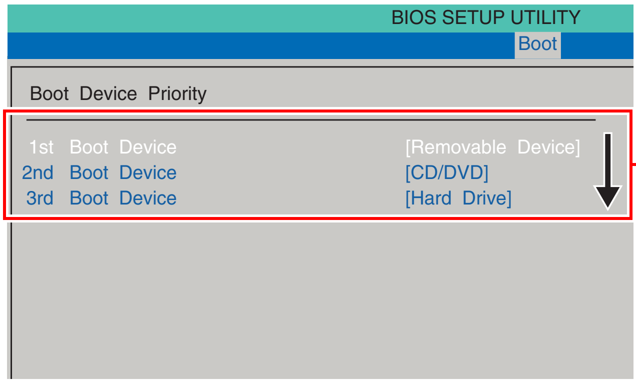
- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- RAID構成時、HDDアクセス制限は使用できません。

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリやUSB HDDなど）を接続していたり、USB FDDにFDがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。
このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（WindowsやOS）から起動します。
起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」で行います。



＜イメージ＞

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- Removable Device（USB FDDやUSBフラッシュメモリ、USB HDDなど）
- CD/DVD（接続されている光ディスクドライブ）
- Hard Drive（接続されているHDD）
- Network（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

購入時は、Removable Deviceの順番がHDDより前に設定されているため、USB機器などのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、光ディスクドライブ、HDD、リムーバブルディスクの順番に設定する方法を説明します。

1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して［↵］を押します。

2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。

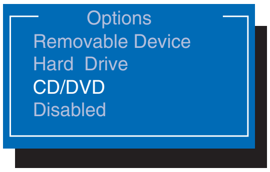
購入時は、リムーバブルディスク、光ディスクドライブ、HDDの順番に起動するように設定されています。

3 光ディスクドライブの順番を1番目に設定します。

(1)［↑］［↓］で「1st Boot Device」(1番目)を選択し、［↵］を押します。

(2)「選択」ウィンドウが表示されたら、［↑］［↓］で「CD/DVD」を選択し、［↵］を押します。

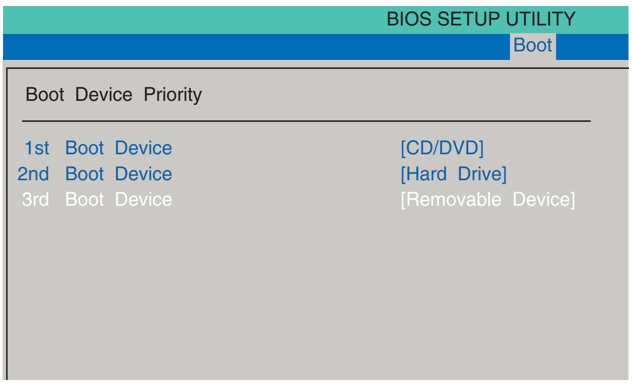
光ディスクドライブの順番が1番目になります。



<選択ウィンドウ画面>

4 同様の方法で、HDDの順番を2番目に設定します。

「2nd Boot Device」（2番目）を「Hard Drive」に設定します。自動的に「3rd Boot Device」（3番目）が「Removable Device」に設定されます。



起動デバイスの順番が変更になり、リムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できます。

5 ［F10］を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

p.211 「BIOS Setupユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- ● Mainメニュー画面
  日付、時間などの設定を行います。
- ● Advancedメニュー画面
  IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
- ● Securityメニュー画面
  パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。
- ● Bootメニュー画面
  システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
- ● Exitメニュー画面
  BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

AMI BIOS	*Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
Processor	*Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	*Size	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日月/日/年）の順で表示されています。

4

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master/ Secondary IDE Master/ Third IDE Master	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange Fn & L-Ctrl key		キーボードの左下側にある［Fn］と、その隣にある［Ctrl］の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：［Fn］と［Ctrl］の機能を入れ替えません。 Enabled：［Fn］と［Ctrl］の機能を入れ替えます。
Exchange R-Alt & Win App key		キーボードの右下側にある［Alt］と、その隣にある［▤］（アプリケーションキー）の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：［Alt］と［▤］の機能を入れ替えません。 Enabled：［Alt］と［▤］の機能を入れ替えます。
Intel AMT Support		AMT機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled：AMT機能を使用しません。 Enabled：AMT機能を使用します。
Unconfiguration AMT		「Intel AMT Support」を「Enabled」にし、「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。 ME BIOS Extensionの設定を初期化します。 Disabled：ME BIOS Extensionの設定を保存します。 Enabled：ME BIOS Extensionの設定を初期値に戻します。

SATA Operation Mode	S-ATA HDDをRAIDとして構成するかどうかを設定します。 RAID : HDDをRAIDとして構成します。 AHCI : HDDを通常のまま使用します。
FAN Control	CPUファンの動作を設定します。 Cool　: CPUファンの回転速度を上げて、本体の冷却効果を高めます。ただし、CPUの負荷状況によっては効果が少ない場合があります。 Silent : CPUファンは通常の回転速度で動作します。

▶Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.213「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

*Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed : パスワードが設定されていません。 Installed　　: パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。BIOS SetupユーティリティやWindows起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーがBIOS Setupユーティリティにアクセスすることを4段階で制限します。 No Access : BIOS Setupユーティリティを起動することができません。 View Only : BIOS Setupユーティリティを閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited　: BIOS Setupユーティリティを閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access : 管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。 「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password	ユーザーパスワードを削除します。 「User Password」（ユーザーパスワード）を設定すると表示されます。 ↵ を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。

項目		説明
Password Check		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup　:BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 Always:BIOS SetupユーティリティやWindows起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
Boot Sector Virus Protection		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。 Disabled : 書き込みを許可します。 Enabled : 書き込みを禁止します。
TPM Security		セキュリティチップ（TPM）を使用するかどうかを設定します。 Disabled : セキュリティチップを使用しません。 Enabled : セキュリティチップを使用します。
TPM Security Clear		「TPM Security」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップ（TPM）の設定を初期化（消去）します。 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップの初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。 ↵を押すと初期化確認ウィンドウが表示されます。
I/O Interface Security データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。 「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。	AUDIO/MODEM	FAXモデム機能およびサウンド機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : FAXモデム機能/サウンド機能の使用を可能にします。 LOCKED : FAXモデム機能/サウンド機能の使用を不可にします。
	LAN	ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED : LAN 機能の使用を不可にします。
	Wireless LAN	無線LAN機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : 無線LAN機能の使用を可能にします。 LOCKED : 無線LAN機能の使用を不可にします。
	Optical Disk Drive	光ディスクドライブ機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : 光ディスクドライブ機能の使用を可能にします。 LOCKED : 光ディスクドライブ機能の使用を不可にします。
	PC Card/SD/MS/ MMC/IEEE 1394	PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にします。 LOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394 機能の使用を不可にします。
	USB	USB 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED : USB機能の使用を可能にします。 LOCKED : USB機能の使用を不可にします。

Hard Disk Protection	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDへのアクセス制限の設定をします。アクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。 HDDにアクセスするには、BIOS Setupユーティリティ起動時、システム起動時や休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。 Disabled ：HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled ：HDDへのアクセスを制限します。 RAID構成時は、HDDアクセス制限を使用できません。 「Disabled」のままで使用してください。

▶Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
起動の順番の変更方法については、p.217 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Device」です。
	2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「CD/DVD」です。
	3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Hard Drive」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定してから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。再度BIOSを起動すると表示されます。初期設定は「Network」です。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled ：有効にします。
Wake-Up On LAN/Ring （LAN/FAXモデムからの起動設定）		電源切断時やスタンバイ、休止時において、ネットワークおよびFAXモデムからの信号により起動するかどうかを設定します。この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled ：設定しません。 Enabled ：設定します。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。設定項目は、次のとおりです。

項目	説明
Save Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOS Setupユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange Fn & L-Ctrl key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win App key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Intel AMT Support	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
*SATA Operation Mode	RAID	AHCI	RAID	AHCI
FAN Control	Cool	Silent	Cool	Silent

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
*User Access Level		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
*Password Check		Setup	Always	Setup	Always
*Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
TPM Security		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
*I/O Interface Security	AUDIO/MODEM	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Wireless LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Optical Disk Drive	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	PC Card/SD/MS/MMC/IEEE 1394	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
*Hard Disk Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

*「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
	4th Boot Device				
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-Up On LAN/Ring		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

第5章
ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。
再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

☞『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「ｉ－フィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。
この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。
詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

マニュアルびゅーわのバックアップ

電子マニュアル閲覧ツール「マニュアルびゅーわ」は、再インストールをすると消えてしまいます。
再インストールの前に、必ずバックアップをとってください。

p.284 「マニュアルびゅーわのバックアップ」

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- **Windows XPリカバリCD**
  Windows XPやRAIDドライバなどが収録されているCD-ROMです。
- **ドライバCD**
  各種デバイスドライバやAdobe Readerなどが収録されているCD-ROMです。
- **アプリケーションCD**
  セキュリティソフトウェアなどのソフトウェアが収録されているCD-ROMです。
- **WinDVD CD-ROM（DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）**
  DVD VIDEOを再生するソフトウェアが収録されているCD-ROMです。
- **Nero 7 Essentials CD-ROM（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）**
  光ディスクドライブのライティングソフトウェアが収録されているCD-ROMです。
- **そのほか必要なメディア**
  お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルで、ソフトウェアの再インストールを行う際は、外付けの光ディスクドライブが必要です。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。
★印が付いているソフトウェアは必ずインストールを行ってください。
購入時のインストール状態は、p.26 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

Windows ★
p.233 「Windows XPのインストール」

⬇

本体ドライバ ★
p.238 「本体ドライバのインストール」

⬇

Bluetoothドライバ

p.239 「Bluetoothドライバのインストール」

↓

Adobe Reader ★

p.240 「Adobe Readerのインストール」

↓

セキュリティソフトウェア ★

p.241 「セキュリティソフトウェアのインストール」

↓

Webフィルタリングソフトウェア

p.241 「Webフィルタリングソフトウェアのインストール」

↓

Nero 7 Essentials ★
（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）

p.242 「Nero 7 Essentialsのインストール」

↓

WinDVD ★
（DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）

p.243 「WinDVDのインストール」

↓

JWord Plugin

p.243 「JWord Pluginのインストール」

↓

gooスティック

p.244 「gooスティックのインストール」

↓

そのほかのインストール

p.244 「そのほかのインストール」

↓

再インストール後の作業

p.246 「再インストール後の作業」

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

コンピュータの管理者（Administrator）権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者」権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：USB FDD（オプション）
Cドライブ　：HDD
Dドライブ　：光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

p.234 「バックアップを取る」

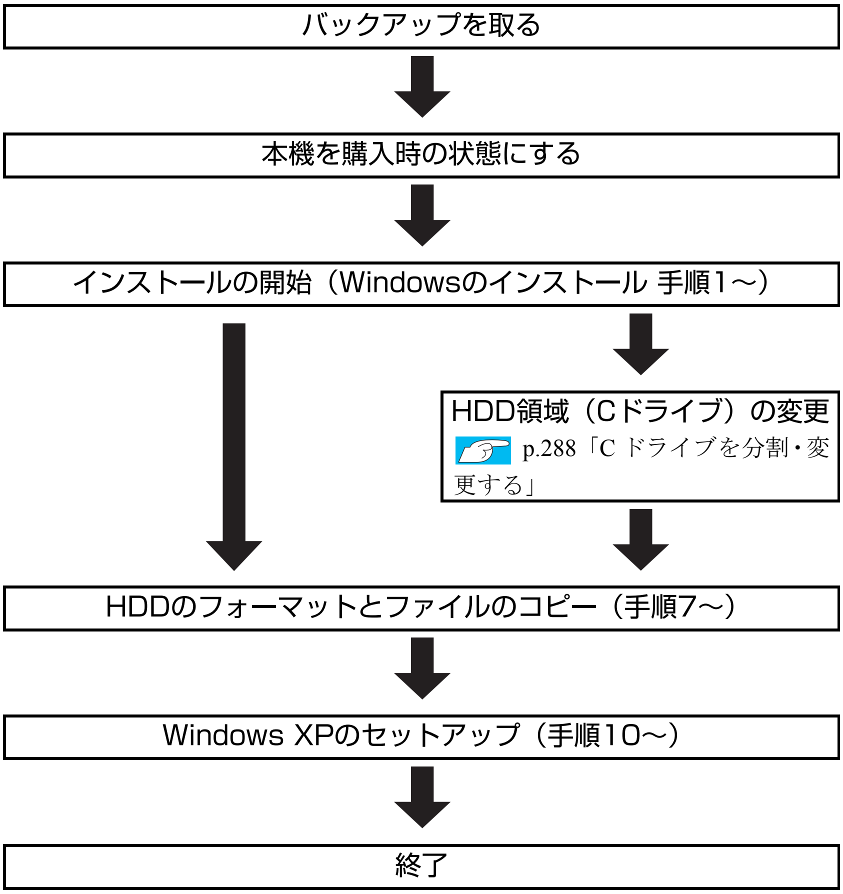
初期設定ツール

初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

▶Windows XPのインストール

インストールの流れ

Windows XPのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.234 「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割の詳しい説明は、p.287 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

5

▶Windows XPをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- **マニュアルびゅーわ**

  p.284「マニュアルびゅーわのバックアップ」
- **ネットワークやモデムの設定**

  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- **Internet Explorerの「お気に入り」、Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」**

  p.283「データのバックアップ」

  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- **セキュリティチップユーティリティの設定**

  セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

  『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」
- **重要なデータ**

  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータをバックアップすることをおすすめします。

  p.283「データのバックアップ」

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows XPのインストール

Windowsをインストールすると、AHCI/RAIDドライバも自動的にインストールされます。
Windows XPのインストール方法は、次のとおりです。

1　Windowsが起動した状態で、「Windows XPリカバリCD」を光ディスクドライブにセットします。

「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の［終了］をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。

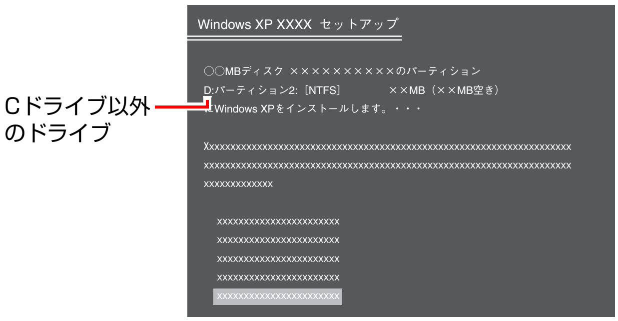
2　［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、コンピュータを再起動します。

3　「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
手順4の画面が表示されるまでしばらく時間がかかります。

4　HDDの領域が複数ある場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず［Esc］を押します。

HDD領域が1つ（Cドライブのみ）の場合、この画面は表示されません。
手順5へ進みます。



上の画面では必ず［Esc］を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。［↵］を押してしまうと、Cドライブ以外のドライブにWindowsがインストールされるため、そのドライブに収録されているデータはすべて消えてしまいます。ご注意ください。

5

5 **「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

Cドライブが選択されていることを確認し、[↵]を押します。

＜領域変更を行う場合＞

p.290 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

6 **HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたら、[C]を押します。**

HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので次の手順に進みます。

7 **「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して[↵]を押します。**

「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、Cドライブに Windowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。

8 **「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、[F]を押します。**

9 **フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。**

10 **「Windows XPセットアップウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

11 **「ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定し、[次へ] をクリックします。**

「同意しない」を選択すると、Windows XPのインストールが中止されます。

12 **「地域と言語のオプション」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

13 **「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、[次へ] をクリックします。**

「名前」は必ず入力してください。

14 **「コンピュータ名…」と表示されたら、必要な項目を入力し、[次へ]をクリックします。**

p.45 「セットアップ中に入力する項目」

15 **「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認し、[次へ]をクリックします。**

本機設置場所の日付と時刻の設定を行います。

16 **「ワークグループまたはドメイン名」と表示されたら、必要な項目を入力し、[次へ] をクリックします。**

購入時の構成によっては表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順へ進みます。

＜ネットワークに接続する場合＞

企業内LANや家庭内LANなどに接続するときは、「ワークグループ」または、「ドメイン名」を入力します。

＜ネットワークに接続しない場合＞

「このコンピュータはネットワーク上にないか…」に任意の英数字（例：「WORKGROUP」など）を入力する必要があります。

17 **再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。**

18 **「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。**

19 **「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の⇨（次へ）をクリックします。**

20 **「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の⇨（次へ）をクリックします。**

インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。

21 **「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下の▷▷（省略）をクリックします。**

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

22 **「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付け、画面右下の⇨（次へ）をクリックします。**

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

23 **「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力し、画面右下の⇨（次へ）をクリックします。**

ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。

24 **「設定が完了しました」と表示されたら、画面右下の⇨（完了）をクリックします。**

25 **Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。**

これでWindows XPのインストールは完了です。

26 **手順5でHDD領域（Cドライブ）を変更した場合は、「未使用の領域」に領域（パーティション）の作成を行います。**

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが完了してから行っても構いません。

p.292 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

▶本体ドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。
本体ドライバのインストールでインストールするドライバ類は次のとおりです。

- チップセットドライバ
- AMTドライバ
- ビデオドライバ
- タッチパッドドライバ
- FAXモデムドライバ
- インスタントキードライバ
- セキュリティチップドライバ
- Liquid View
- 無線LANドライバ
- Microsoft .NET Framework
- Intel Matrix Storage Manager
- ネットワークドライバ
- サウンドドライバ
- メモリカードドライバ
- 指紋認証ドライバ
- インスタントキーユーティリティ
- Windows Media Player 10
- インフォメーションメニュー
- Java2 Runtime Environment
- システム診断ツール

インストール

インストールの手順は次のとおりです。

1 **「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] －「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 **表示された項目から「インストール」をクリックします。**

3 **「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK]をクリックします。**

各ドライバが自動的にインストールされます。
インストールには十数分かかります。

4 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

5 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認し、[PC再起動] をクリックします。
Windows が再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。

▶Bluetoothドライバのインストール

「Bluetooth ドライバ」はBluetooth機能を使用するためのドライバです。
Bluetooth ドライバのインストール手順は、次のとおりです。

制限
Bluetooth ドライバのインストールは、Bluetooth機能を有効にした状態で行ってください。
p.115 「Bluetooth 機能の ON/OFF 切り替え」

1 Bluetooth機能がONになっているか確認します。Bluetooth状態ランプが消灯している場合は、Bluetoothキー（）を押してBluetooth機能をONにしてください。
p.115 「Bluetooth機能のON/OFF切り替え」
Bluetooth機能をONにしたときに、「新しいハードウェアの検索ウイザードの開始」画面が表示された場合は、[キャンセル] をクリックします。

2 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。
正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] －「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 表示された項目から「Bluetoothドライバ」をクリックします。

4 「セットアップ言語の選択」画面が表示されたら、「日本語」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

5 「Bluetooth・・・ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

6 「使用許諾契約」と表示されたら、内容をよくお読みになり「使用許諾契約の条項に同意します。」にチェックを付け、[次へ] をクリックします。

7 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。

8 「Bluetooth用ドライバのインストール・・・」と表示されたら、[同意する] にチェックを付け、[OK]をクリックします。

9 「Install Shieldウィザードを完了しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。

10 「Bluetooth Stack for WindowsのInstaller情報」画面が表示されたら、内容を確認して、[はい] をクリックします。

Windowsが再起動したら、Bluetoothドライバのインストールは完了です。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

1 「アプリケーションCD」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。

表示されない場合は、[スタート] ―「マイコンピュータ」―「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から「Adobe Reader」をクリックします。

3 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

4 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。

インストールにはしばらく時間がかかります。

5 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

続いてAdobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。

2 「使用許諾契約書」が表示されたら、「…言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。

3 「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。

同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Readerは使用できません。

4 「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。

内容を確認してください。
これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。
市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i－フィルター 30日版」をインストールします。i－フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。
市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

i－フィルター 30日版のインストール

i－フィルター 30日版のインストール方法は、次のとおりです。

1 「アプリケーションCD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] －「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から「i－フィルター 30日版」をクリックします。

3 「i－フィルター･･･セットアップへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。

4 「使用許諾契約」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり同意するかしないかを選択します。

同意する場合は [はい] をクリックします。[いいえ] を選択すると、i－フィルター 30日版は使用できません。

5 「インストール先の選択」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。

5

6 「インストールを完了するためにはコンピュータの再起動が必要です。･･･」と表示されたら、［OK］をクリックします。

Windowsが再起動したら、i−フィルター 30日版のインストールは完了です。続いて、i−フィルター 30日版のセットアップを行います。

i−フィルター 30日版のセットアップ

i−フィルター 30日版のセットアップ手順は、次のとおりです。

1 Windowsが再起動して「i−フィルター･･･」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、［「i−フィルター」を使ってみる］をクリックします。

2 「管理パスワードの設定」画面が表示されたら、「管理パスワード」と「管理パスワード（確認）」にパスワードを入力して［設定］をクリックします。

このパスワードは、フィルター設定を変更する場合などに必要になります。

3 「有害サイト遮断ソフト･･･へようこそ！」画面が表示されたら、画面の注意事項をよくお読みください。

これで、i−フィルター 30日版のセットアップは完了です。

▶Nero 7 Essentialsのインストール

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

「Nero 7 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。

Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

Nero 7 Essentialsをインストールすると、InCDもインストールされます。

1 「Nero 7 Essentials CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると、自動的に「Neroマルチインストーラ」画面が表示されます。

表示されない場合は、「マイコンピュータ」−「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。

2 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、［Nero 7 Essentials］をクリックします。

3 「Nero 7 Essentialsインストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶WinDVDのインストール

＜DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時＞
「WinDVD」は、DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。
WinDVDのインストール手順は、次のとおりです。

1 「WinDVD CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると自動的に「WinDVD セットアップへようこそ」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」－「CD-ROMアイコン」をダブルクリックします。

2 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から、「JWord Plugin」をクリックします。

3 「JWord プラグイン…へようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。
gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート]－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から、「gooスティック」をクリックします。

3 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

指紋認証ユーティリティのインストール

「指紋認証ユーティリティ」をインストールすると、指紋認証機能を使用することができます。必要に応じてインストールを行ってください。
指紋認証ユーティリティのインストール手順は、次のとおりです。

1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート]－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 表示された項目から「指紋認証ユーティリティ」をクリックします。

3 「VitaKey」画面が表示されたら [Install] をクリックします。

4 「ようこそ」と表示されたら、[Next] をクリックします。

5 「認証契約」画面が表示されたら、同意するかしないかを選択します。

同意する場合は「受け入れる」にチェックを付けて[Next]をクリックします。

6 「対象フォルダパスの選択」と表示されたら [Next] をクリックします。

7 **「インストールが成功しました。」と表示されたら「今すぐ再起動します。」にチェックが付いた状態で［Finish］をクリックします。**

Windowsが再起動したら、指紋認証ユーティリティのインストールは完了です。

続いて、指紋を登録します。p.142「指紋の登録」をご覧ください。

Hotkeyユーティリティのインストール

「Hotkeyユーティリティ」をインストールすると、インスタントキーでソフトウェアを起動することができます。必要に応じてインストールを行ってください。

Hotkeyユーティリティのインストール手順は、次のとおりです。

1 **「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。**

正しくセットされると自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。

表示されない場合は、［スタート］－「マイコンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 **表示された項目から「Hotkeyユーティリティ」をクリックします。**

3 **「設定言語の選択」画面が表示されたら、「日本語」が選択されていることを確認し、［次へ］をクリックします。**

4 **「EPSON Hotkeyの…へようこそ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「インストール先の選択」と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

6 **「プログラムのインストール準備完了」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**

7 **「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

これで、Hotkeyユーティリティのインストールは完了です。

インテルAMT Local Manageability Serviceのインストール

AMT機能を有効にするためのサービスです。詳しくは、「マニュアルびゅーわ」－『AMT機能セットアップガイド』（PDF）をご覧ください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップの設定を行うためのユーティリティです。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、「未使用の領域」はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.292「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

ネットワーク（有線LAN）や無線LANを使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.146「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.148「無線LANを使う」

モデムの設定

ダイヤル情報の設定を行います。

1 **［スタート］ －「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」をクリックします。**

2 **「所在地情報」画面が表示されたら、「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。**

3 **「電話とモデムのオプション」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、［プロパティ］をクリックします。**

4 **「（モデムの名称）のプロパティ」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、「ダイヤルの管理」項目－「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。**

これでダイヤル情報の設定は完了です。
インターネットに接続する場合は、このあとダイヤルアップ接続の設定を行ってください。

p.180 「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

p.283 「データのバックアップ」

- マニュアルびゅーわ
- Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元
- 重要なデータ

  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

Windowsの再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動でWindows Updateを行ってください。

p.171 「Windows Update」

第6章
こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら

本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法を確認してください。

● 困ったときに
トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。
p.251「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ
当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の対処の流れを確認します。

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

参考

サポート・サービスのご案内
『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。
困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

参考

不具合が解消しない場合は
対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

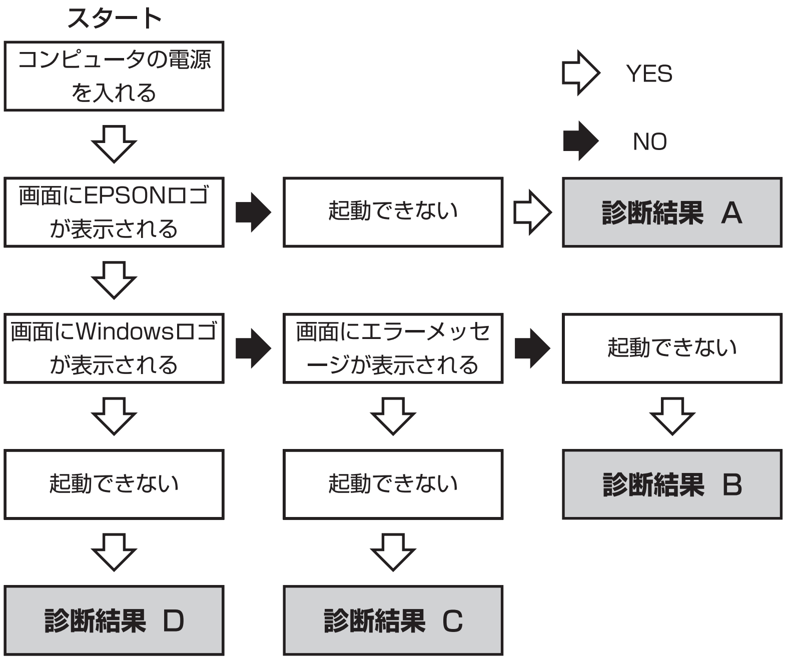
不具合一覧

▶コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータ本体が起動できないときの対処方法を説明します。

起動時の不具合

コンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。



診断結果　A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 外付けディスプレイの電源を入れる

外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

(2) コンピュータへの電源供給を確認する

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。本機の電源を切ってから、コンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続して使用してください。

p.40 「ACアダプタを接続する」

(3) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(4) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器や増設機器類（マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果　B

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.278 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.278 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に[F5]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
3. 「Windows拡張オプションメニュー」と表示されたら、[↑]または[↓]を押して「前回正常起動時の構成」 を選択し、[↵]を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して[↵]を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.211 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.227 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　C

まず、p.280 「警告メッセージ/警告音」をご覧になり、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧になり、対処を行ってください。

● 「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性が考えられます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

● 「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」、「Reboot and Select proper Boot device･･･」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの起動時の優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDD やUSB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.217 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。

p.207 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Advanced」メニュー画面－「IDE Configuration」－「Primary IDE Master」の表示を確認します。

HDDの型番が表示される場合、HDDは正常な状態です。続いて、下記（4）（5）の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.211 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.227 「ソフトウェアの再インストール」

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FDやUSBフラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB機器からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの起動時の優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDDやUSB機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.217 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.211 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.227 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

プリンタやスキャナ、メモリなど、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.278 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. ［スタート］－「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、［OK］をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、［OK］をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、［再起動］をクリックします。
5. Windows起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、［OK］をクリックします。

   常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因でなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.278 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に［F5］を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、［↑］または［↓］を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、［↵］を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して、［↵］を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.227 「ソフトウェアの再インストール」

6

起動時の不具合（そのほか）

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

```
Enter Password:
```

```
Hard Drive locked, enter password:
```

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」のパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
  p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- パスワードを正しく入力しているか確認してください。[NumLk]の状態により一部のキーが数値キーとして働いていることもあります。
  p.75 「キーボードを使う」

- パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に、Windowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。
  再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。
  ポイントとなる手順は、次のとおりです。
  - p.235 「Windows XPのインストール」の手順4では必ず[Esc]を押す。
  - p.235「Windows XPのインストール」の手順5とp.290「Cドライブを分割・変更する」の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入ってしまっている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
  - p.235 「Windows XPのインストール」の手順7とp.290 「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶コンピュータ本体の不具合

コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

● 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

● バッテリ残量が少なくなり、本機が省電力状態に移行した場合は、AC アダプタを接続してから復帰させてみてください。

● 省電力状態から復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Deleteを押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

● 省電力状態で PC カードやメモリカード、USB 機器などを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl+Alt+Deleteを押して、本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

現象

省電力状態から自動的に復帰してしまう。

確認と対処

● ネットワーク（有線LAN）に接続している場合に、省電力状態から自動的に復帰することがあります。
省電力状態から自動的に復帰しないように設定する方法は次のとおりです。

(1) ［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－［システム］をクリックします。
(2)「システムのプロパティ」画面が表示されたら、「ハードウェア」タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。
(3)「デバイスマネージャ」画面が表示されたら、「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、「Intel(R) 82566MM・・・」をダブルクリックします。
(4)「Intel(R) 82566MM ・・・のプロパティ」画面が表示されたら、「電力の管理」タブをクリックします。

(5) 省電力状態から自動的に復帰しないようにするには、「Wake on LAN」項目で「Wake On Directed Packet」のチェックを外します。
(6) [OK] をクリックします。
(7) ❎ をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

バッテリパック使用時の不具合

現象

充電されない。

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。

- 充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してください。

現象

すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用可能時間が短い。

確認と対処

- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお、使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  ☞ p.68 「バッテリの交換」
  ☞ p.71 「使用済みバッテリの取り扱い」

- バッテリの劣化を抑えて寿命を延ばす方法は、☞ p.70 「バッテリの寿命を延ばすには」をご覧ください。

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対処

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。
  「Security」メニュー画面ー「TPM Security Clear」で ↵ を押します。表示されたセキュリティチップ設定の初期化ウィンドウで「Ok」を選択し、「Exit」メニュー画面ー「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。
  p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」
  初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティチップの初期化は十分に注意し、お客様の責任において行ってください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処

- 応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。
  ソフトウェアを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押して電源を切ってください。
  p.58 「ハングアップしたときは」

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、BIOSのデータを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

メモリの不具合

現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

- 起動時のメモリチェックやWindows上では、メモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、「Main」メニュー画面ー「System Memory」で総メモリ容量を確認してください。
  p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 本機は、メインメモリの一部をAMT機能で使用します。装着している総メモリ容量から、AMT機能で使用するメモリ容量（搭載メインメモリ容量により16～64MB）を差し引いて表示されます。

記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。

確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。
  これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0～9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。
  2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
  p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

光ディスクドライブの不具合

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調節してください。
  p.136 「音量の調節」

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがないか確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたメディアが、書き込み済みの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。

- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

メディアをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

- セットしたCD-ROMなどのメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに収録されている内容を見たい場合は、［キャンセル］や、をクリックして、画面を閉じます。その後、［スタート］－「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、「開く」を選択します。

現象

メディアへの書き込みができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブの場合、メディアへの書き込みはできません。

- 書き込みソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。
  p.242 「Nero 7 Essentialsのインストール」

- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーズガイド』を参照してください。
  「マニュアルびゅーわ」－『Neroユーザーズガイド』

- お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。
  「マニュアルびゅーわ」－『光ディスクドライブPDFマニュアル』

- データの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
  p.99 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- InCDで使用できるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
  p.99 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- InCDでフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。
  p.99 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- Windowsが省電力状態に切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.186 「時間経過で移行させない」

- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。

- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。

- メディアの残量があるか、確認してください。

- ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。

- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVDの再生ができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブでは、DVDの再生はできません。

- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。本機には、「WinDVD」が購入時にインストールされています。
  DVD VIDEO再生に関する不具合については、『WinDVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
  「マニュアルびゅーわ」－『WinDVDユーザーズマニュアル』

- 解像度や色数を調節してみてください。
  p.124 「解像度や表示色の変更方法」

PCカードの不具合

現象

PCカードを装着しても、使用できない。

確認と対処

- 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。
  ☞ p.103 「PCカードを使う」

- PCカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
  ☞ p.103 「PCカードを使う」

- PCカードを使用するために必要なドライバやソフトウェアがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードの不具合

現象

メモリカードを装着しても使用できない。

確認と対処

- 本機で使用可能なメモリカードかどうか、メモリカードがスロットの仕様に対応しているか確認してください。
  ☞ p.107 「本機で使用できるメモリカード」

- メモリカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
  ☞ p.108 「メモリカードのセットと取り外し」

▶入力装置の不具合

入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。

キーボードの不具合

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。
☞ p.58「ソフトウェアの強制終了」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。
☞ p.76「文字を入力するには」

6

現象

Fn と Ctrl 、Alt と ▤(アプリケーションキー) などの機能キーが動作しない。

確認と対処

- Fn と Ctrl 、または Alt と ▤(アプリケーションキー) の機能が入れ替わっている可能性があります。

  <Fn と Ctrl が機能しない場合>

  BIOSの設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange Fn & L-Ctrl key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

  <Alt と ▤(アプリケーションキー) が機能しない場合>

  BIOSの設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange R-Alt & Win App key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

  p.79 「入力キーの機能の入れ替え」
  p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

タッチパッドの不具合

現象

ポインタの動きが悪い。

確認と対処

- 手がぬれていたり、湿気を帯びていたりしていると、動きが悪くなります。
- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。

現象

ポインタが動かない。

確認と対処

- タッチパッドがOFFになっていないか確認してください。タッチパッドキー(▭/×) を押してみてください。

  p.80 「インスタントキー」
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

● ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。
p.58 「再起動」
p.58 「ハングアップしたときは」

▶表示装置の不具合

表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

LCDユニットの不具合

現象

LCD画面に何も表示されない。

確認と対処

● 外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

● 画面の明るさを調節してください。Fn+F5/Fn+F6で調節できます。
p.121 「LCDユニットの調整」

● バックライトが消灯していないか確認してください。Fn+F7を押してみてください。
p.121 「バックライトの消灯」

● 省電力状態になっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
p.188 「省電力状態から復帰する」

● バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してそのまま放置すると、スタンバイに移行します（購入時の設定）。ACアダプタを接続してから復帰してください。

● コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

● 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。警告音（ビープ音）の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
p.280 「警告メッセージ/警告音」

現象

画面がちらつく。

確認と対処

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
  p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。

内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音が鳴らない。

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.136 「音量の調節」

FAXモデムの不具合

現象

「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処

- 「モデムのプロパティ」で［詳細情報］または［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。
  ［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

現象

インターネットへ接続できない

確認と対処

- モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認してください。

- 次の場所で電話番号や、設定を再確認してください。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認してください。
[スタート]－「接続」－「接続先の名前」－[プロパティ]－[ダイヤル情報]

- 接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - 全角の文字を使用していないか（全角文字は使用できません)。
  - 大文字と小文字を区別しているか。
  - 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
  - 接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか。
  - 接続パスワードとメールパスワードを混同していないか。

- DNS（ネーム）サーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認してください。正しくない場合は修正してください。

  次の手順でDNS（ネーム）サーバのIPアドレスを確認してください。

  (1) [スタート]－「接続」－「接続名（任意の名前）」－[プロパティ]をクリックします。
  (2)「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル（TCP/IP)」－[プロパティ]でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認してください。

- 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

- 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。

- 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。
  - 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
  - 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
  - プロバイダのサーバが停止している。

6

現象

V.92、K56flex通信方式で通信できない。

確認と対処

- 回線状況によって、V.92、K56flex通信方式で接続できない場合があります。V.92、K56flex通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式のモデムとは、V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。またお使いになっている最寄りの電話局の交換機から、プロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.92、K56flex通信方式で接続することができます。

- PBX 回線では、V.92、K56flex 通信方式では接続できません。V.34 通信方式（33600bps）以下で接続します。

現象

V.92、K56flex、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

- V.92、K56flex、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムが停止（ハングアップ）する場合があります。

- 応答のないソフトウェアを強制終了してからコンピュータを再起動してください。
  p.58 「ハングアップしたときは」

現象

ソフトウェアやプログラムが停止され、「データ実行防止」画面が表示された。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になりテクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。オプションのUSB FDDから起動しようとしている場合は、ドライブやディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。

- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- Windowsの再インストール前にバックアップした「マニュアルびゅーわ」を復元してください。
  p.284 「マニュアルびゅーわのバックアップ」

- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。
  ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。
  p.285 「電子マニュアルのダウンロード」

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」(情報バー)画面が表示される。

確認と対処

- 購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」(情報バー)画面が表示されたら、[OK]をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
  HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
  添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
  Outlook Expressの[ツール]-「オプション」-「セキュリティ」タブ-「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
  詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows XPリカバリCDを入れて再起動をし、どれかキーを押してもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動の順番をHDDよりも後ろに設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。
  p.217「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク（有線LAN、無線LAN）、インターネットの不具合に対する対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

システム診断ツールを使う

システム診断ツールは、本機の調子が悪いときに、どのハードウェアが不具合の原因かを診断するためのツールです。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2つの種類があります。

- **Windows上で起動するシステム診断ツール**
  Windows上でシステム診断を行うことができます。Windowsを起動できる場合に使用します。
  購入時は、本機にあらかじめインストールされています。

- **CDから起動するシステム診断ツール**
  Windowsが起動できない場合に、ドライバCDから起動してシステム診断を行います。
  本機の廃棄時にHDD内のデータを消去することもできます。

システム診断を実行する

本機の調子が悪いときに、システム診断を実行して原因を確認します。
Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windowsを起動できる場合

Windows上で起動するシステム診断ツールを使用します。実行方法は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「システム診断ツール」アイコンをダブルクリックします。**



＜システム診断ツールアイコン＞

2 **「システム診断ツール」画面が表示されたら、診断したい項目名をクリックします。**

該当項目の診断が開始します。
［診断項目を選択する］を選択した場合は、診断項目を選ぶことができます。
実行方法の詳細は、システム診断ツールのヘルプをご覧ください。

3 **診断が終了したら、診断結果を確認します。**

「異常が検出されました」の画面が表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。画面の内容を確認してください。
問題が解決されない場合は、ヘルプまたは『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

CDから起動するシステム診断ツールを使用します。実行方法は、次のとおりです。

1 **本機の電源を入れ、ドライバCDを光ディスクドライブにセットします。**

2 **Ctrl + Alt + Delete を押して、本機を再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面の左下に「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 **診断が終了したら、診断結果を確認します。**

「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

5 **光ディスクドライブからドライバCDを取り出し、電源を切ります。**

これでシステム診断は完了です。

6

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **本機の電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **EPSONと表示され、消えた直後に[F5]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**

3 **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、[↵]を押します。**
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 **[スタート]－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、[次へ]をクリックします。**

3 **「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。**

復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されます。まず日付を選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧から復元ポイントを選択して、[次へ] をクリックします。

4 **「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

Windowsが再起動します。

5 **再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 **[スタート] －「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、[次へ] をクリックします。**

3 **「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、[作成] をクリックします。**

4 **「新しい復元ポイント」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。**

これで復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージ/警告音

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示されたり、警告音（ビープ音）が鳴ったりした場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ

メッセージ	説明と対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」－「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動して、「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してください。

警告音（ビープ音）

警告音の回数	警告の内容	説明と対処方法
1	Memory refresh timer error	メモリリフレッシュが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
3	Main memory read/ write test error	メモリの読み込み、書き込みが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
6	Keyboard controller BAT test error	キーボードが正しく機能していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
7	General exception error	メモリ、キーボード以外のシステムが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
8	Display memory error	ビデオメモリが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

> **制限**
> ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

バックアップ方法

Cドライブ内の「マイ ドキュメント」やInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」と「とらぶる解決ナビ」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「安全に安心して使おう！」項目の「バックアップ」



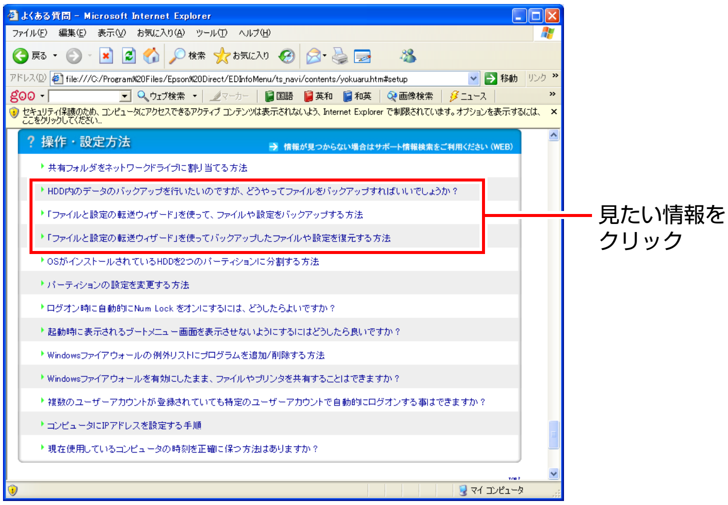
見たい情報をクリック

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

「とらぶる解決ナビ」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」－「よくある質問」項目の「よくある質問を見る」－「操作・設定方法」



<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

マニュアルびゅーわのバックアップ

マニュアルびゅーわのデータは、Cドライブの「お知らせ」フォルダにあり、Windowsを再インストールすると削除されます。Windowsを再インストールする前に、Cドライブの「お知らせ」フォルダをほかのメディアなどに必ずコピーして保存してください。

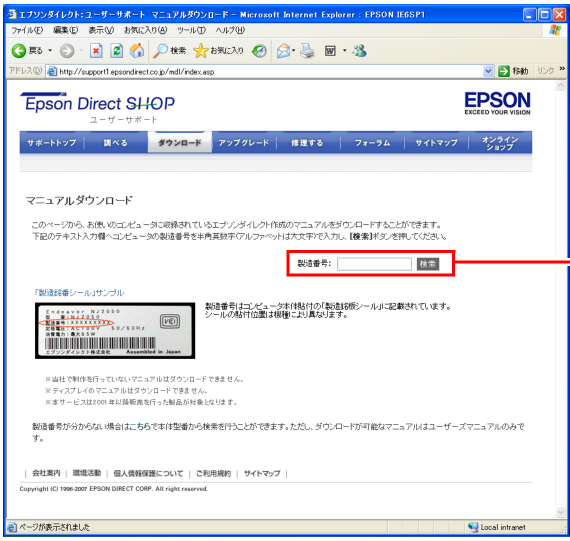
ほかのメディアなどに保存した「お知らせ」フォルダは、Windowsを再インストールした後にCドライブにコピーして元に戻します。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを消してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」－「マニュアル」



本機の製造番号を入力して［検索］をクリック

※ 画面の内容は予告なく変更する場合があります。

制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- 壁紙

セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティチップ（TPM）を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

制限

TPM のセキュリティ機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPMのセキュリティ機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティ機能使用前の準備

TPMのセキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定と「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

- BIOSの設定

  BIOSの次の項目を変更します。

  「Security」メニュー画面－「TPM Security」：Enabled（有効）

  購入時は、「Disabled」に設定されています。

  p.207 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- セキュリティチップユーティリティのインストール

  購入時、本機に「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。TPMのセキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行う必要があります。

  インストール方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

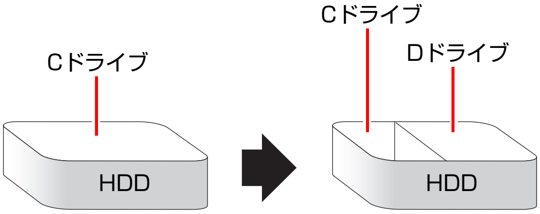
ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

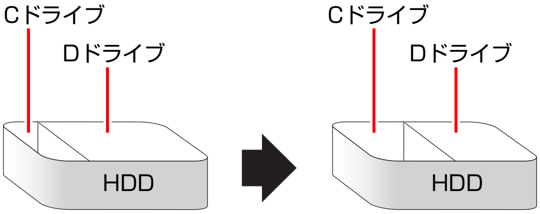
＜1台のHDDを分割する＞
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

＜ドライブのサイズを変更する＞
例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

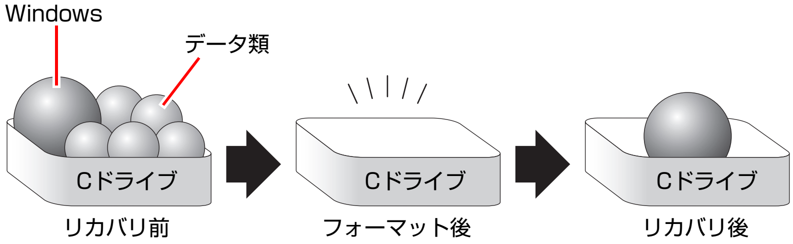
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

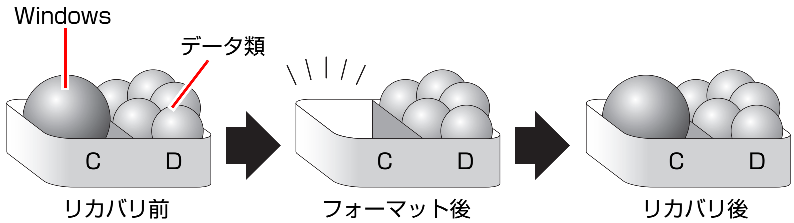
● メリット

HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

＜HDD領域が1つの場合＞



＜HDD領域を分割した場合＞



たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。
この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

制限

HDD が分割されている状態で、リカバリを行うときは、万一に備えて C ドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.291 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

制限

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

p.283 「データのバックアップ」

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

作業はp.290 「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。

Windowsインストール中に、Cドライブを削除する

削除したドライブは「未使用の領域」になります。

↓

Cドライブ以外のドライブを削除する

HDDが分割されている場合に、ほかのドライブを削除して「未使用の領域」を増やすことができます。

↓

未使用の領域に新しい容量を指定して、Cドライブを作成する

↓

Windowsのインストールを完了させる

↓

ドライブを作成する

Cドライブ作成後に残っている「未割り当て」をドライブにします。

p.291 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsのインストールが必要です。
p.235「Windows XPのインストール」の手順5〜8を、次の手順に読み替えてWindowsのインストールを行ってください。

＜p.235「Windows XPのインストール」の手順5〜8の読み替え＞

1 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、C ドライブを選択し、[D]（削除）を押します。**

2 **「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、[Enter]を押します。**

3 **「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら、[L]を押します。**

ドライブが未使用の領域になります。

4 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜Cドライブを分割する場合＞

(1)「未使用の領域」を選択して、[C]を押します。
手順5に進みます。

＜Cドライブの容量を増やす場合＞

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未使用の領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

(1) Cドライブ以外のパーティション（ドライブ）を選択して、[D]（削除）を押します。
(2) 手順2、3を実行します。
選択したパーティションが「未使用の領域」になります。
(3)「未使用の領域」を選択して、[C]を押します。
手順5に進みます。

5 **Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ（MB）」に表示されている数字を[Back space]で削除し、任意の数値を入力して[Enter]を押します。**

Cドライブには、最低でも3GB（3000MB）を割り当てることをおすすめします。

6 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C：パーティション1（未フォーマット）」を選択して、[Enter]を押します。**

未使用の領域はここではフォーマットできません。インストール後、「ディスクの管理」で行います。

7 **「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して、[↵]を押します。**

p.235 「Windows XPのインストール」の手順9に進みます。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

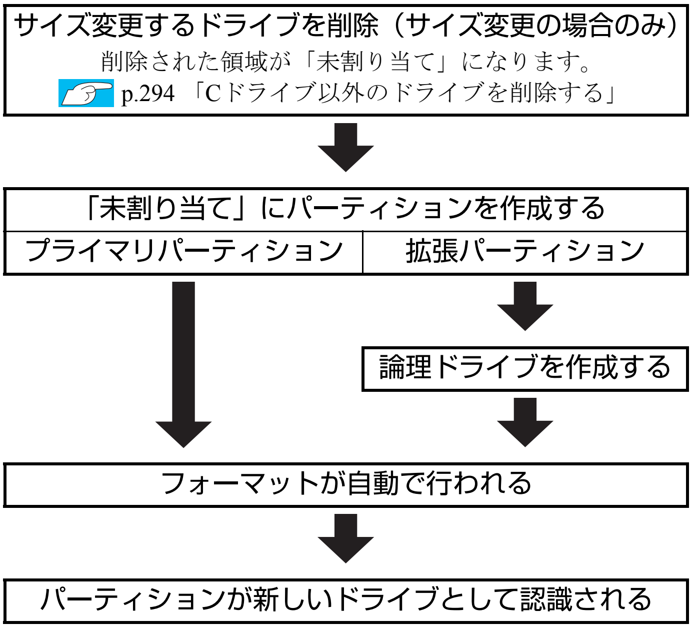
ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合。
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合。

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.288 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。
作業はp.292 「HDD領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。



※HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

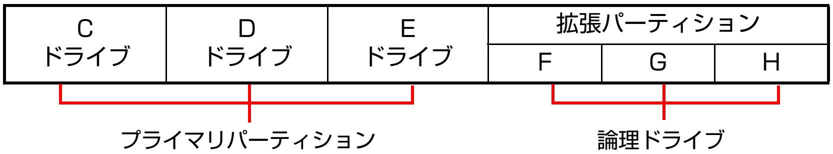
参考

パーティションとは

- ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。
  そのうち拡張パーティションは、最大で1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせて作成すると、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

<パーティションの組み合わせの例>



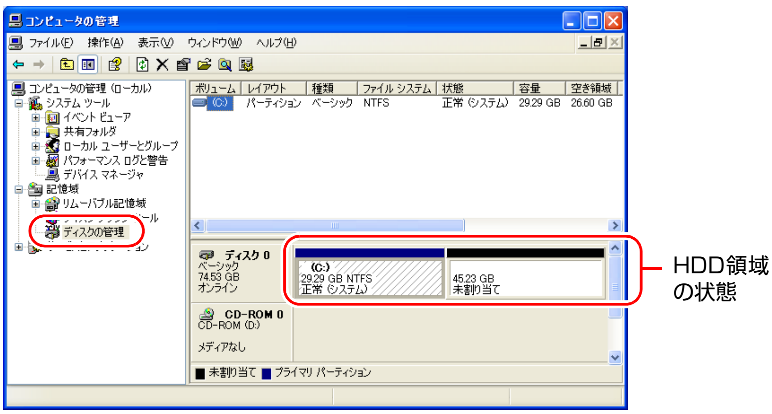
HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。**

画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

3 **パーティションを設定したい「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。**

4 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

5 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「プライマリパーティション」または「拡張パーティション」を選択して [次へ] をクリックします。**

通常はプライマリパーティションを選択します。

6 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して [次へ] をクリックします。**

手順5でプライマリパーティションを選択した場合は、手順12へ進みます。

7 **「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。**

拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。

8 **「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。**

9 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

10 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**

11 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して [次へ] をクリックします。**

複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

12 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」で任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。**

「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

13 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**

表示されている設定値を変更する必要はありません。

14 **「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**

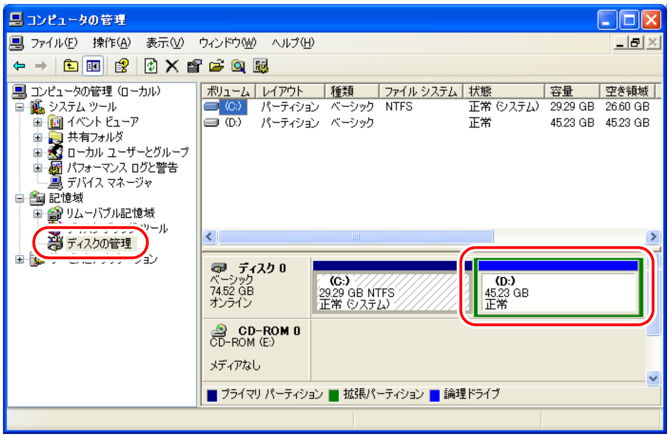
自動的にフォーマットが行われます。
フォーマットが終了したら、HDD領域の作成は完了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順8～14の作業を繰り返します。

▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。



<イメージ>

3 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。

4 「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。

プライマリパーティションを削除すると、「未割り当て」、論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。「未割り当て」や「空き領域」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

☞ p.292 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給が全くない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本機のモデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア（Internet ExplorerやOutlook Expressなど）でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。

ATコマンドの入力は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「詳細設定」タブの「追加設定」

次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

現　象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線（パルスダイヤル）でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線（トーンダイヤル）でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=34」（V34） 「AT+MS=92」（V92） 「AT+MS=K56FLEX」（K56flex） 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定（10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう）。	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例：ATM0X3　（ATM0+ATX3）

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときには『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。
ドライバCDに収録されているシステム診断ツールには、HDD内のデータをすべて消去する機能が備わっています。
消去を開始すると、HDDのデータはもとには戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

制限

データ消去の結果について、当社および開発元のUltra-X社は責任を負いません。
HDDのデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

＜2台のHDDを接続している場合＞
1台目のHDDのデータのみが消去されます。2台目のHDDのデータを消去することはできません。

＜RAID機能を使用している場合＞
RAIDを構成しているすべてのHDDのデータが消去されます。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1. **本機の電源を入れ、ドライバCDを光ディスクドライブにセットします。**
   インストール画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じてください。
2. **［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、本機を再起動します。**
3. **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。**
   システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
4. **Ctrl＋C を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。**
5. **選択項目画面が表示されたら、↓で「HD Erase」を選択して↵を押します。**
6. **選択項目画面が表示されたら、↓で「Full　Erase」を選択して↵を押します。**

7 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して【↵】を押します。

「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、【Esc】を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。

9 「Erase of HD0 :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバCDを光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。

これで、データの消去は完了です。

機能仕様一覧

項目		仕様
CPU		インテルCore 2 Duoプロセッサ
BIOS		AMI BIOS
チップセット		インテルPM965 Express Chipset +ICH8M Enhanced
セキュリティチップ	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT12
メインメモリ		PC2-5300 SODIMM（DDR2-667 SDRAM）を使用して最大3GBまで搭載可能
ビデオ		ATI Mobility FireGL V5600　ビデオメモリ：512MB
		ATI Mobility Radeon HD 2600　ビデオメモリ：512MB
画面表示	液晶タイプ	15.4型WXGA+ カラー液晶 1440×900ピクセル True Color （32ビット）＊1
		15.4型WUXGA カラー液晶 1920×1200ピクセル True Color （32ビット）＊1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ピクセル、1920 × 1200ピクセル（ワイドディスプレイ接続時のみ）True Color （32ビット）
サウンドコントローラ		ハイ・デフィニション・オーディオ対応Realtek製　ALC660
キーボード		日本語対応87キー（Windowsキー付き）、インスタントキー 5個
ポインティングデバイス		タッチパッド（スクロール機能付き）
記憶装置	HDD	1台内蔵（2.5型S-ATA HDD）
		オプション選択された場合、2nd HDDを1台内蔵（2.5型S-ATA HDD）
	光ディスクドライブ	1台内蔵（種類は購入時の選択による）
インタフェース	USB	4（USB2.0対応）
	IEEE1394	1（4ピン）
	TV出力	1（S端子）
	LAN	1（RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T自動認識）＊2
	FAXモデム	1（RJ-11 K56flex V.92対応）＊2
	サウンド	マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1またはS/P DIF×1
	ディスプレイ	VGAコネクタ（アナログ、ミニD-SUB 15ピン）×1
		DVI-Dコネクタ（デジタル　DVI-D 24ピン）×1
PCカードスロット		1　TypeII　PC Card Standard準拠　（CardBus 対応）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応
カレンダ時計		内蔵　（内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10%＊3、1.5A　（50/60Hz）、出力19V、4.74A、90W　質量約450g（含電源コード）
	リチウムイオンバッテリパック	容量 4800mAh　Li-ion 11.1V　動作時間 約2.5時間＊4　JEITA測定方法Ver1.0
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法		本体： 約365（幅） × 270（奥行） × 28.7～45.5（高さ）mm（突起部を除く）
質量		本体： 約2.96kg
消費電力		110W（最大）/ 2.0W（スタンバイ時）/ 1.5W（電源オフ時）

＊1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
＊2 認定番号ラベルはコンピュータの底面に貼付されています。
＊3 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
＊4 システム構成や使用環境により異なります。

Bluetooth*1

準拠規格	Bluetooth標準規格 Ver2.0+EDR
通信距離（規格値）	10m*2
転送速度（規格値）	3Mbps

*1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：BT-183
認証番号　：003NY05095 0000
*2 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。推奨される通信距離は3m以内です。

無線LAN*1*2

● IEEE802.11a/b/g

準拠規格	IEEE802.11a　：ARIB STD-T71（小電力データ通信システム規格） （J52/W52/W53/W56）5GHz　無線LAN標準プロトコル IEEE802.11b/g　：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz　無線LAN標準プロトコル
データ転送速度（規格値）*3	802.11a/g : 54Mbps 802.11b　: 11Mbps
伝送方式	OFDM方式（IEEE802.11a/g） DS-SS方式（IEEE802.11b）
伝送距離（理論値）	111Mbps：40m（IEEE802.11b） 54Mbps　：25m（IEEE802.11g）/12m（IEEE802.11a） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時*4
セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応、802.1x*5
使用無線チャンネル	IEEE802.11a：34/38/42/46ch（J52）、36/40/44/48ch（W52）、52/56/60/64ch（W53） 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch（W56） IEEE802.11b：1～13ch IEEE802.11g：1～13ch

● IEEE802.11n ドラフト2.0

準拠規格	IEEE802.11n ドラフト2.0
データ転送速度（規格値）*2	300Mbps
伝送方式	MIMO方式
セキュリティ	WPA、WPA2対応（AESのみ）

*1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：4965AGN MJP2
認証番号　：003WWA075020、003XWA075021、003YWA075022
*2 当社では、「インテル PROSet/Wireless」で動作を確認しています。
*3 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
*4 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。
*5 当社では、Windows Server 2003とのIEEE802.1x Radius Server（EAP-TLS対応認証サーバ）＋WPA（TKIP）の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

索　引

こ

さ

し

す

せ

ね

の

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

む

め

も

ゆ

ら

り

ろ

わ

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。
上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。
なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。
＊ LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

パソコン回収について

当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。
PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。
パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。
http://shop.epson.jp/pcrecycle/

Macrovision著作権保護技術について

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、Macrovision Corporationおよび他が所有する知的財産権や米国特許によって保護されています。

この技術の使用にはMacrovision Corporationの認可が必要です。また、Macrovision Corporationの許可なしに、家庭内や限られた範囲での視聴目的以外に使用することはできません。リバースエンジニアリングや、分解は禁止されています。

＊ Macrovision 著作権保護技術とは、DVD などの映像コピー防止に関する技術です。

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Internet Explorer、Windows Mediaは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- PS/2はInternational Business Machines の登録商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityはSymantec Corporationの登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Bluetooth(R)はBluetooth SIG, Inc. の商標です。
- Liquid ViewおよびLiquid Viewロゴは、米国ポートレイトディスプレイ社の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

EPSON DIRECT CORPORATION

C77487002　08.04-05(SO)

shop.epson.jp